

Yanaginogosho Site

The 78th and 79th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2018

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第153集

平泉遺跡群発掘調査報告書

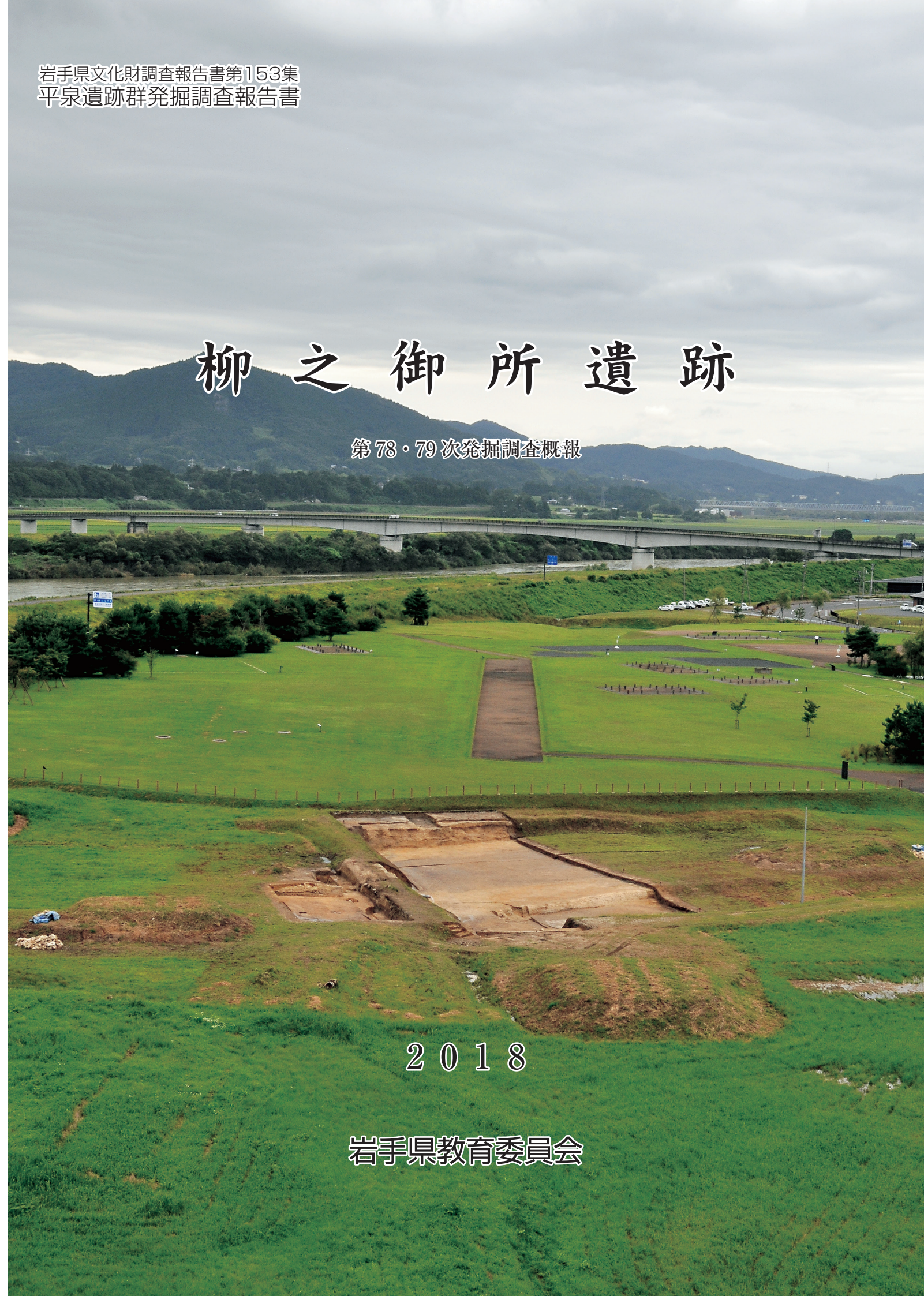
柳之御所遺跡

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第153集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第78・79次発掘調査概報



2018

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第153集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第78・79次発掘調査概報

2018

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一閘遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が『吾妻鏡』に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は漏れてしまいましたが、平成24年に暫定リストに登載されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を継続していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成30年3月

岩手県教育委員会
教育長 高橋嘉行

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成28・29年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成28年5月15日から11月30日、平成29年4月17日～9月30日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。
SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀
SE：井戸・井戸状遺構 SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他
SI：竪穴住居 P：柱穴
例：78SK1 第78次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書に係る編集・執筆は生涯学習文化財課柳之御所担当で協議の上、櫻井友梓・村上拓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析については株式会社加速器分析研究所への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
安達訓仁 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川真紀 島原弘征 鈴木弘太 高橋千晶
七海雅人 羽柴直人 本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 (50音順：敬称略)
岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉文化遺産センター
文化庁記念物課
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I	序 論	1
1	遺跡の位置と調査経緯	1
2	調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	1
3	平成28年度・平成29年度の調査	5
II	調 査 内 容	9
1	78 次 調 査	9
(1)	調 査 の 概 要	9
(2)	検 出 遺 構	9
(3)	出 土 遺 物	29
2	79 次 調 査	51
(1)	調 査 の 概 要	51
(2)	検 出 遺 構	51
(3)	出 土 遺 物	60
III	自然科学分析	63
IV	総 括	67
1	調査成果の概要	67
2	堀跡周辺の様相	67
3	ま と め	72
V	付章 高館跡9次調査の概要	73
1	高館跡の概要と調査計画	73
2	高館跡9次調査の概要	75

図 版 目 次

図版 1 遺構 (78次調査) 調査区全景	図版17 遺物 (78次調査) かわらけ⑦
図版 2 遺構 (78次調査) 21SD1	図版18 遺物 (78次調査) かわらけ⑧
図版 3 遺構 (78次調査) 21SD1-78T1断面状況	図版19 遺物 (78次調査) かわらけ⑨
図版 4 遺構 (78次調査) 21SD1-78T2断面状況	図版20 遺物 (78次調査) かわらけ⑩・ 国産陶器①
図版 5 遺構 (78次調査) 21SD1-78T2	図版21 遺物 (78次調査) 国産陶器②
図版 6 遺構 (78次調査) 21SD1-78T3	図版22 遺物 (78次調査) 国産陶器③
図版 7 遺構 (78次調査) 21SD1-78T4	図版23 遺物 (78次調査) 国産陶器④
図版 8 遺構 (78次調査) 21SD2	図版24 遺物 (78次調査) 輸入陶磁器・瓦
図版 9 遺構 (78次調査) 21SD2-78T5	図版25 遺物 (78次調査) 木製品類①
図版10 遺構 (78次調査) 78SD1	図版26 遺物 (78次調査) 木製品類②
図版11 遺物 (78次調査) かわらけ①	図版27 遺構 79次調査
図版12 遺物 (78次調査) かわらけ②	図版28 遺構 79次調査
図版13 遺物 (78次調査) かわらけ③	図版29 遺構 79次調査
図版14 遺物 (78次調査) かわらけ④	図版30 遺構 79次調査
図版15 遺物 (78次調査) かわらけ⑤	図版31 遺物 79次調査国産・輸入陶磁器類
図版16 遺物 (78次調査) かわらけ⑥	

挿 図 目 次

図 1 遺跡位置図 2	図18 21SD1出土土器類実測図 6 36
図 2 調査区位置図 6	図19 21SD1出土土器類実測図 7 37
図 3 78次調査遺構配置図 (1/200) 10	図20 21SD1出土土器類実測図 8 38
図 4 21SD1平面図 (1/100) 11	図21 21SD1出土土器類実測図 9 39
図 5 21SD1断面図 1 (78T1) 13	図22 21SD1出土土器類実測図10 40
図 6 21SD1断面図 2 (78T2) 15	図23 21SD2その他遺構出土土器類実測図 1 42
図 7 21SD1-T2土留め材 17	図24 21SD2その他遺構出土土器類実測図 2 43
図 8 21SD1断面図 3 (78T3) 18	図25 出土遺物実測図 (瓦) 43
図 9 21SD1断面図 4 (78T4) 20	図26 21SD1出土木製品類実測図 1 45
図10 21SD2周辺平面図 22	図27 21SD1出土木製品類実測図 2 46
図11 21SD2断面図 (78T5) 23	図28 21SD1出土木製品類実測図 3 47
図12 78SK1・78SD1平面・断面図 28	図29 21SD1出土木製品類実測図 4 48
図13 21SD1出土土器類実測図 1 31	図30 21SD1出土木製品類実測図 5 49
図14 21SD1出土土器類実測図 2 32	図31 21SD1出土木製品類実測図 6 50
図15 21SD1出土土器類実測図 3 33	図32 79次調査遺構配置図(1/200) 52
図16 21SD1出土土器類実測図 4 34	
図17 21SD1出土土器類実測図 5 35	

図33	79SX1平面図	55	図42	柳之御所遺跡の橋跡	71
図34	断面図1	56	図43	高館跡調査位置	74
図35	断面図2	57	図44	T1遺構平面図	76
図36	断面図3	58	図45	T1遺構断面図	77
図37	79次調査出土土器類実測図1	61	図46	T2・3平面図	79
図38	79次調査出土土器類実測図2	62	図47	T2・3断面図	80
図39	暦年較正年代グラフ(参考)	66	図48	T4平面図	81
図40	78次調査区人為層分布	69	図49	T4断面図	82
図41	柳之御所遺跡整地層分布	70	図50	T5平面・断面図	84

挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査指導委員名簿	3
表2	平成28・29年度指導委員会協議事項	3
表3	発掘調査年次計画	4
表4	21SD1堀跡 78T1～78T4トレンチ 土層対応表	21
表5	21SD2堀跡 78T5トレンチ 土層対応表	26
表6	78次調査出土遺物数量表	29
表7	79次調査出土遺物数量表	60
表8	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	65
表9	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)	65
表10	柳之御所遺跡堀跡に関わる橋と推定位置	72
表11	高館跡の調査計画	73
表12	78次遺物観察表(かわらけ)	86
表13	78次遺物観察表(国産陶器)	90
表14	78次遺物観察表(輸入陶磁器)	95
表15	78次遺物観察表(瓦)	95
表16	78次遺物観察表(木製品)	96
表17	79次遺物観察表(国産陶器)	99
表18	79次遺物観察表(輸入陶磁器)	102

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、経度・緯度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて猫間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

この遺跡は本格的な発掘調査の開始以前から奥州藤原氏に関連する内容をもつことが想定されていたが、多くは北上川の洪水等により削平を受けて失われたものと考えられていた。そのため、遺跡は一閑遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われることとなった。調査開始以前の予想に反して、調査当初より多くの遺構、遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定する見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸域や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉に関連する遺跡の分布範囲が周辺に広がることが明らかになり、検討が行われてきている。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を、3カ年ずつ計画を立て進めている（表3）。

平成28年度調査（78次）及び平成29年度調査（79次）は第7次3カ年計画にあたる。第7次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。第6次計画から続いて、遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進んでいる。

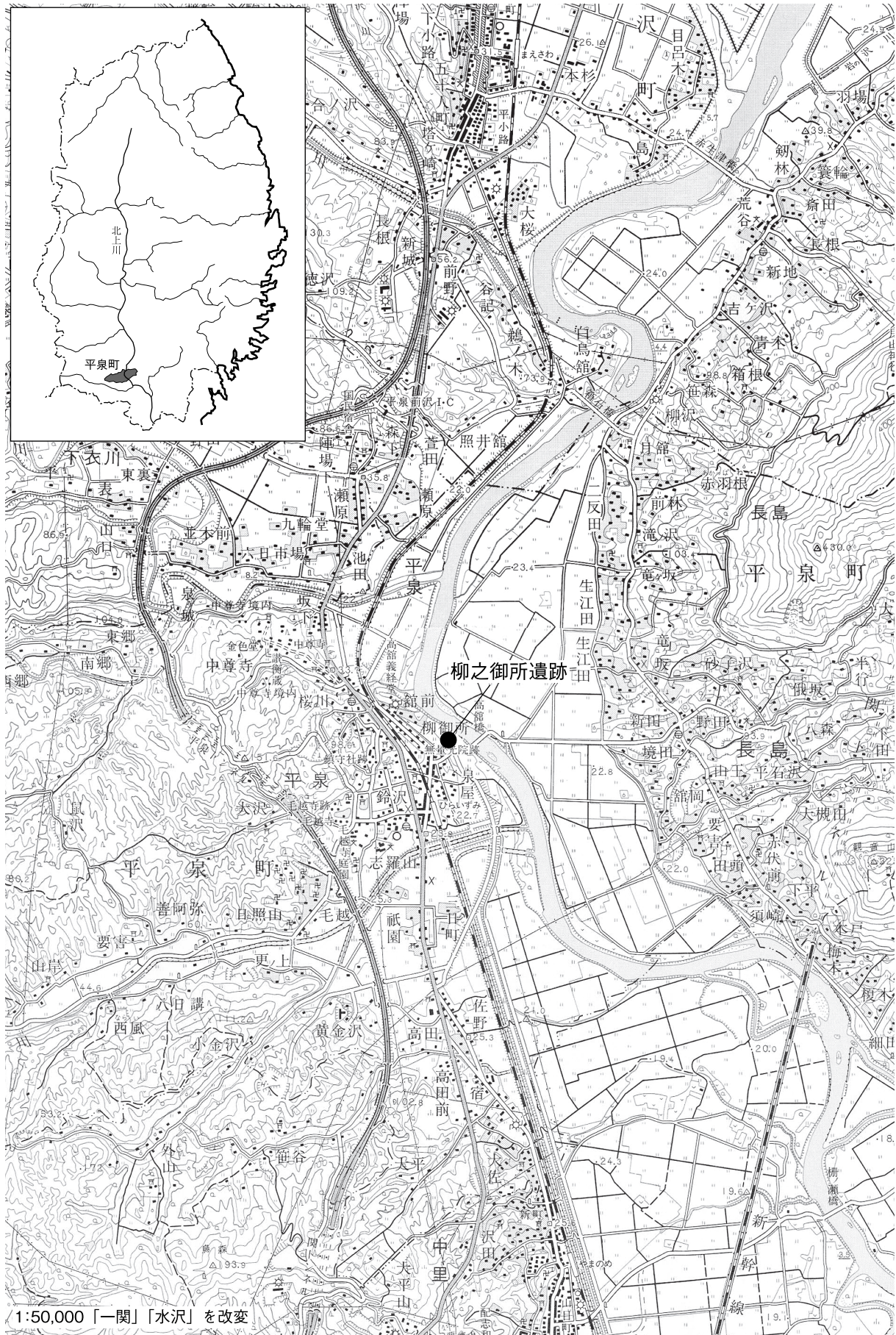


図1 遺跡位置図

これまでの計画と今後の計画については表3に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表1)。平成28年度・平成29年度の委員会・専門部会は表2の通り開催した。

表1 平泉遺跡群調査指導委員名簿

(平成28年4月現在、役職は当時)

氏名	役職	専門部会
入間田宣夫	東北大学名誉教授	整備
遠藤セツ子	メビウスの会事務局	整備
○岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	国立歴史民族博物館名誉教授	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学名誉教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会事務局長	整備
田中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎田辺 征夫	奈良県立大学特任教授	遺構
玉井 哲雄	国立歴史民族博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表2 平成28・29年度指導委員会協議事項

	回	日時	内 容
平成28年度	遺構・整備・保存管理部会	28.7.15	今年度の調査整備の内容について 平泉遺跡群の調査整備について(無量光院跡の整備)
	第1回委員会	28.9.15~16	今年度の調査について 今年度の整備について(植栽、看板等について) 無量光院跡の調査状況、整備計画について
	遺構・整備・保存管理部会	29.1.10	今年度の整備工事について 来年度以降の整備計画について 無量光院跡の調査状況、整備計画について
	第2回委員会	29.2.17	今年度の整備について 今後の柳之御所遺跡の整備計画について 無量光院跡の調査状況、整備計画について 平泉遺跡群の今年度の調査成果について
平成29年度	ガイダンス施設整備検討部会	29.5.17	基本計画について 目次構成・基本理念・事業活動計画・施設計画
	第1回委員会・部会	29.6.28	今年度の調査 今年度の整備 ガイダンス整備計画について 整備基本計画の改定について 無量光院跡の調査・整備について
	第2回委員会	29.8.29~30	今年度の調査について 今年度の整備について(植栽、看板等について) 整備計画の改定について 無量光院跡の調査状況、整備計画について
	ガイダンス施設整備検討部会	29.10.20	基本計画について 目次構成・基本理念・事業活動計画・施設計画
	遺構整備部会	29.11.2	発掘調査の内容 整備計画の改定について
	ガイダンス施設整備検討部会	29.12.12	基本計画について 施設計画・展示計画・管理運営計画について
	ガイダンス施設整備検討部会	30.1.23	基本計画について 展示計画・管理運営計画・次年度以降のスケジュールについて
	第3回委員会	30.2.9	今年度の整備について 今後の柳之御所遺跡の整備計画について 無量光院跡の調査状況、整備計画について 整備計画の改定について・ガイダンス計画について

表3 発掘調査年次計画

	年次	調査回数	調査内容等	調査面積	調査期間	備考
第1次三カ年計画	平成10年度	第49次	・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
			・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。			
			・23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。			
	平成11年度	第50次	・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助
			・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。			
			・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 ・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況追跡。 ・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・塀類の時期及び伸展状況の把握。			
平成12年度	第52次	・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助	
		・祭祀遺構周辺地域の解明。				
		・無量光院との対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。				
第2次三カ年計画	平成13年度	第55次	・中心建物群の北側地区の解明。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
			・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。			
			・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。			
			・現存する微高地状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地域の状況把握。			
	平成14年度	第56次	・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と張出施設を伴う溝の追跡。	4,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。 ・遺跡を二分する外堀の追跡。			
平成15年度	第57次	・旧池跡の規模と造成時期の把握。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む	
		・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。 ・高館南側裾部分未調査地域の遺構分布の確認。				
第3次三カ年計画	平成16年度	第59次	・中心建物群の規模と新旧関係の解明。	3,500㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握。 ・北上川縁辺地域の状況把握。			
	平成17年度	第64次	・園池の構造及び規模と造成時期の把握。 ・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第4次三カ年計画	平成18年度	第65次	・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・既調査区の再検証。			
	平成19年度	第68次	・道路遺構(21SC1)及び堀跡(23SA1)の延長確認。 ・遺跡南端外堀の有無の確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第5次三カ年計画	平成20年度	第69次	・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・既調査で一部確認されている橋跡の追跡調査。			
	平成21年度	第70次	・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。 ・堀内部北端部の構造確認。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第6次三カ年計画	平成22年度	第72次	・遺跡北端部の堀の延長確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀内部北端部の様相確認。			
	平成23年度	第73次	・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第7次計画	平成24年度	第74次	・堀内部地区の道路の延長の確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀内部と堀外部の導入施設周辺地域の確認。			
	平成25年度	第75次	・猫間が淵跡周辺における堀跡の様相の確認。 ・交通施設の有無及び遺構の把握。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第6次三カ年計画	平成26年度	第76次	・遺跡南端部における堀跡の状況確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀周辺の遺構の延長確認。			
第7次計画	平成27年度	第77次	・遺跡南端部周辺における遺構の分布状況の確認。	1,100㎡		
			・猫間が淵跡周辺における堀跡の様相の確認。			
	平成28年度	第78次	・交通施設の有無及び遺構の把握。	1,100㎡	5月15日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
第7次計画	平成29年度	第79次	・遺跡南端部における堀跡の状況確認。	1,100㎡	4月17日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀周辺の遺構の延長確認。			

※ ※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

3 平成28年度・平成29年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課 (平成29年度より生涯学習文化財課、文化スポーツ部文化振興課併任)〉

総括課長 松下 洋介 (H29.3.31まで)

総括課長 佐藤 公一 (H29.4.1より)

主幹兼世界遺産担当課長

(H29.4.1より文化振興課) 佐藤 嘉広

文化財専門員 千葉 正彦

主査 淵上 恭子 (H29.3.31まで)

主査 女鹿 光介 (H29.4.1より)

文化財専門員 大関 真人 (H29.4.1より)

文化財専門員 櫻井 友梓

〈(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長 中村 英俊 (H29.3.31まで)

所 長 佐々木一成 (H29.4.1より)

主任文化財専門員 村上 拓

(2) 調査区の位置と調査目的

78次調査 (平成28年度)

平成28年度調査 (78次) は遺跡の南端部周辺の未調査範囲を主な対象とした (図2)。今回の調査範囲は近年まで宅地等として利用され、これまで未調査で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、78次調査の対象とした範囲の周辺は、これまで多くの調査が行われている地区でもある。遺跡の南端部は、柳之御所遺跡の緊急調査が開始された21次調査 (昭和63年) および23次調査 (平成元年) で周囲が調査されたほか、69次調査 (平成20年) と70次調査 (平成21年) 及び76次調査 (平成26年度)、77次調査 (平成27年度) で周囲の調査を行っている。このほか、近接して平泉町教育委員会が小規模な調査を行った範囲も所在する。これらの調査で内側の堀跡 (21SD1) や外側の堀跡 (21SD2)、関連する遺構 (21SX4) が確認されているほか、伽羅之御所跡の方向へ伸びる橋跡の遺構も確認されている。また、より北側の56次調査 (平成15年度)、75次調査 (平成25年度) で確認されている堀跡との中間部分に位置する。

今回の調査目的のひとつは堀跡の位置と内容の確認である。調査範囲は遺跡を囲む堀跡のうち、これまで調査が行われてきた南端部と猫間が淵跡周辺の間での未調査の範囲にあたる。堀跡の位置については地形の観察などから推察されてきたが、明確な位置については不明な部分も残されていた。そこで位置の確定のため一部について走行方向を確認することをひとつの目的とした。また、76次調査で確認した堀跡周辺の整地等に由来する人為的な土質の崩壊土層の延長と性格の検討も目的のひとつとしているほか、猫間が淵跡方向への地形の様相や遺構の分布状況の確認も目的とした。堀跡については時期や規模について課題が残り、それらの検討の材料を得ることも目的とする。

もうひとつの目的は、堀内部の範囲にあたる堀跡に近接する平坦な範囲について遺構の分布等が不明なことから、これらの様相の把握を目的としている。特に、堀跡に沿った平坦な地形部分での遺構の把握とこの周囲の性格検討のための材料を得ることを目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等の把握を目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を

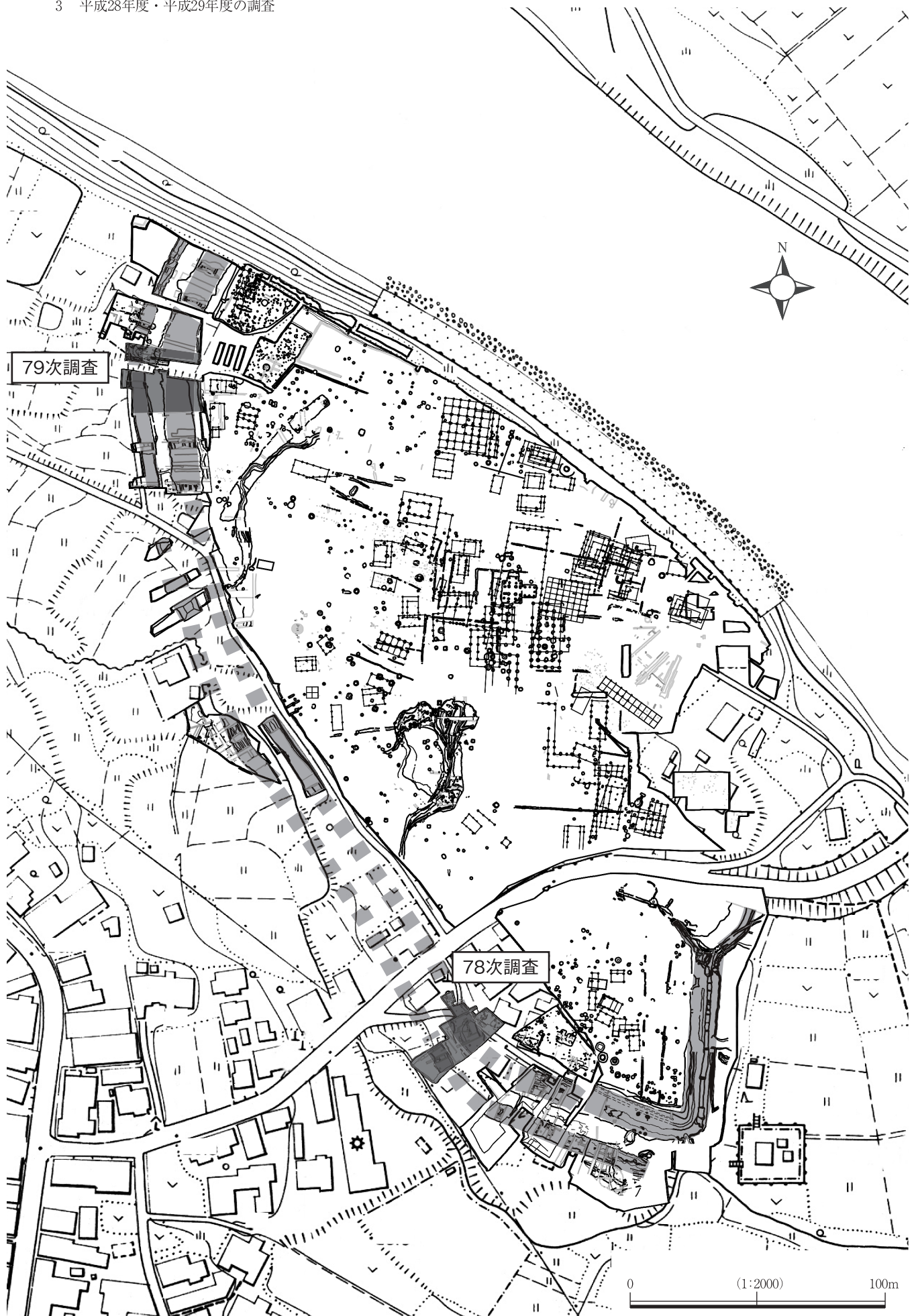


図2 調査区位置図

行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

79次調査（平成29年度）

平成29年度調査（79次）は遺跡の北端部周辺にあたる、堀外部と内部の接する範囲を主な対象とした（図2）。73次調査（平成23年度）及び74次調査（平成24年度）の調査範囲に挟まれた範囲にあたる。それぞれの調査では2条の堀跡の位置と走行方向を確認している。しかし、近年まで宅地として利用されたこともあり地形の改変を受けており、橋などの施設や明確な道路遺構などの痕跡は希薄であった。

この周囲は堀内部で見つかった道路遺構の延長付近に位置し、堀外部で見つかった道路遺構の延長が想定できること、旧来の地形を想定した場合に丘陵の頂部が延長される範囲にあたることなどから、道路遺構やそれらの接点にあたりと想定できる。また、73次調査及び74次調査でも橋等の遺構の有無の確認を目的としたものの、それぞれの調査範囲の間に一部未調査の範囲が残っていた。そのため、今回の調査では堀跡に関連する遺構や、特に橋などの導入施設の有無を検討する材料を得ることを目的として両調査区の間を中心に調査区を設定し、調査を実施した。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである（岩手県埋蔵文化財センター1995）。平面直角座標第X系（旧日本測地系）をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点（0，0）となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。

また、本遺跡では大規模な調査の開始以降に宮城県東部地震や東日本大震災により大きな変動を受けている。その後に行った再測量において当遺跡内での座標変動とその数値を改めて確認している。ただし、柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を示すことが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため現在の調査においても現地においては旧日本測地系の座標を基準として設定しており、発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局地座標で行う。

局地的な調査継続としては上記のように考えられるものの、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきている。それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握することで対応できるように努める。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、表土の厚さが確認できている範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲の一部については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査（検出作業）を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構においては遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5 mグリッドを分割した1 m×1 mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構においても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真は適宜35mm判カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査次数である78・79を付して上記遺構略号を使用したが（例.78SK〇〇）、既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号（既調査で命名）を本書においても使用している。具体的には2条の大規模な堀跡については既調査で確認されている遺構と同一であることから78次調査においては、21SD1、21SD2の遺構名称を継続して用いる。同様に、79次調査については72SD1、72SD2の遺構名称を継続して用いる。

整理作業

78次調査 野外調査終了後の平成28年11月1日から平成29年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

79次調査 野外調査終了後の平成29年10月1日から平成30年1月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、各次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に半裁した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

78次調査 普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった9月24日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

79次調査 普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった9月2日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。 (櫻井)

Ⅱ 調査内容

1 78次調査

(1) 調査の概要

78次調査区は、平成26年度に実施した第76次調査区の北西にあたる。西側の100mほどの位置は75次調査の範囲で、78次調査区は両者の間になる。また、平泉町教育委員会によって住宅開発に伴う小規模な調査が行われている位置とも隣接する(第46次調査・平成6年)。本来の地形は、南側は猫間ヶ淵跡の低地へと下がる地形で遺跡堀内部の平坦な地形と変化する位置である。公有地化以前の状況は宅地で調査前の現況地形は平坦に造成されている。調査対象面積は約800㎡である。

78次調査区は、南区は遺跡を囲む2条の堀跡(21SD1・21SD2)が位置するとみられる範囲で、これまでの調査で確認されている整地層などの土層の分布状況を確認し、周囲の遺構状況を把握することを目的としている。

調査区内はいずれの範囲も宅地造成時の削平等による地形の改変が著しい。特に調査区の南側は2mほどの現代の厚い盛土層が確認された。検出面までの層序は、地点によって層の有無や層厚の差はあるが、基本的には同様である。調査区内の基本層序は下記の通りである。

I 表土層・盛土層

II 調査区南の低地部分で確認できる黒褐色から灰褐色の土層で、12世紀代の遺物を含む。12世紀以降の堆積層。

III 黒褐色の土層。12世紀とそれ以前の時期の旧表土にあたるが、多くの範囲では削平等により確認できない。過去の調査でも旧地形の標高が低い範囲などで確認されている。これらの土層は古代や縄文の土器を含み、それぞれに細分できる範囲もある。

IV 黄褐色の粘土層で、いわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。

なお、このうちII・III層は調査範囲全体では確認できず、調査範囲一部でのみ確認できる。多くの調査範囲はIV層の上面にI層の盛土層が堆積し、削平等の改変が行われたことがわかる。一部を除き、遺構の多くはIV層上面での検出となる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである(図3)。

堀跡 2条

整地層 2カ所

土坑 4個

柱穴 多数(12世紀以降のものを多く含む)

(櫻井)

(2) 検出遺構

① 堀跡

21SD1(図4)

〔位置・検出状況・精査方法〕 76-99グリッドを中心に北北西-南南東方向に走行する帯状範囲として検出した。内岸側プランは地山黄褐色土面において検出し、一方外岸側は、75-98グリッド以北で

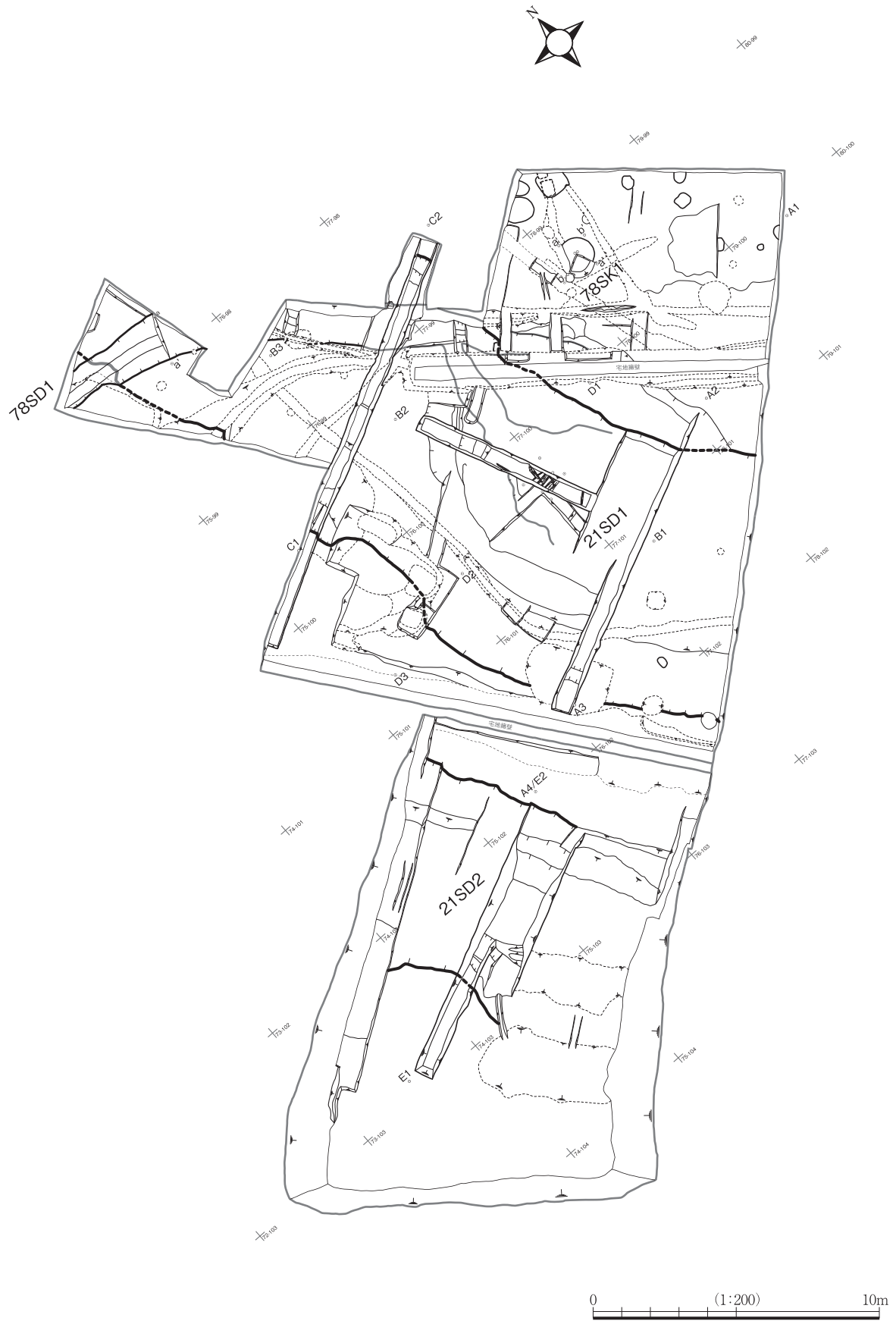


図3 78次調査遺構配置図 (1/200)

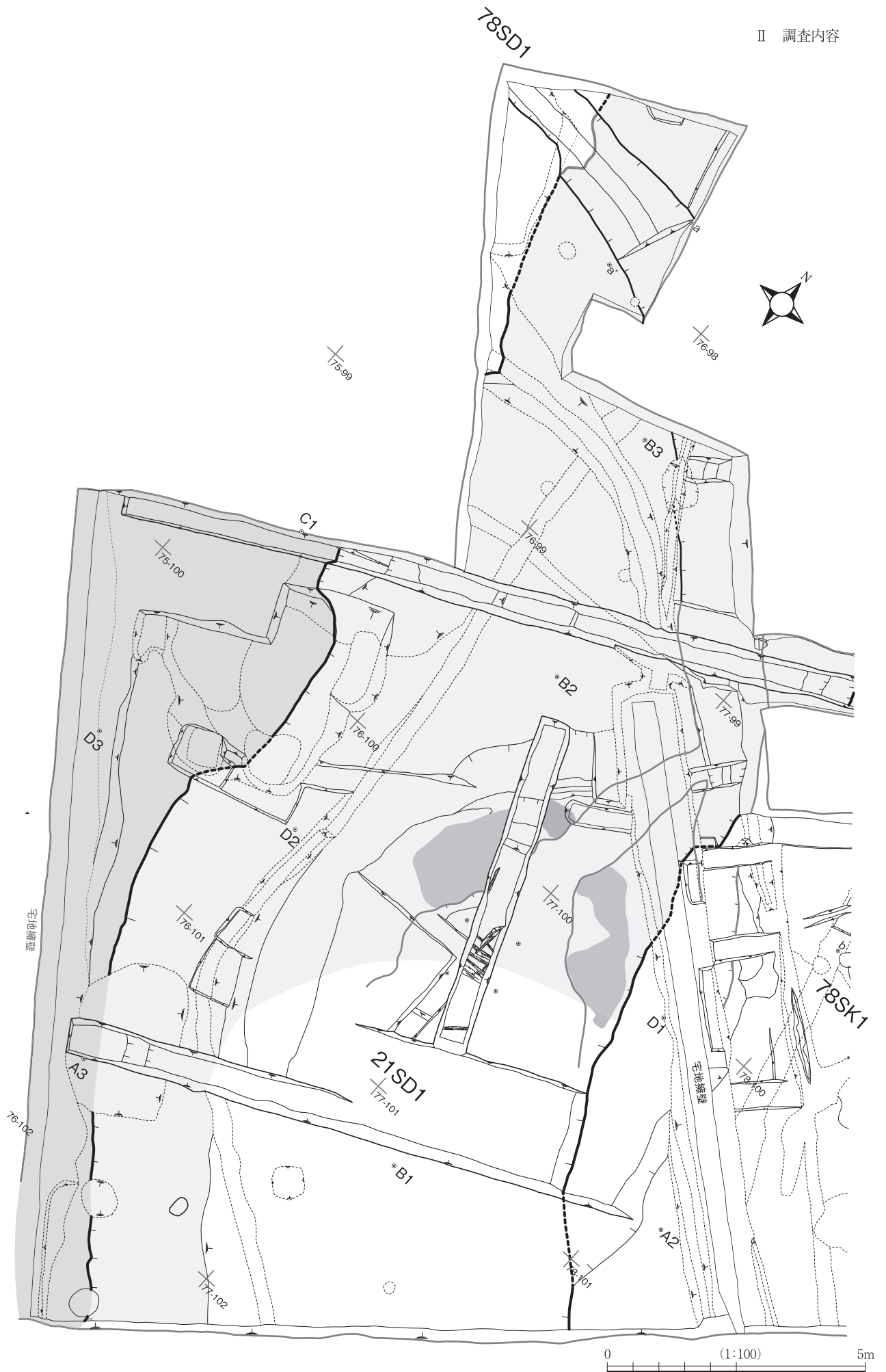


图4 21SD1平面图 (1/100)

は地山土層上位の自然堆積層である黒褐色土面、75-99グリッド以南ではこの黒褐色土層の上位に堆積する人為土層面を切った状態でそれぞれ確認した。確認面はいずれも後世の開田や宅地化に伴う削平面である。

既往調査では本遺構は遺跡南端部から北西方向に向かいごく緩い弧状をなして延伸することが把握されていたが、今次調査区内においては76-100グリッド付近から遺跡中央部側に向かってやや強く内湾する状況が看取された。また、プラン内の北半部及び南半部西縁に地山黄褐色土ブロックからなる人為土層の広がりが見出された。今次調査区における本遺構プラン内のうち、その面積の半分を優に超える大規模なものであり、遺構内部の堆積状況は既往調査のそれと大きく異なることが予想された。そこで堆積状況の把握を主な目的として計4箇所のトレンチ(78T1~T4)を設定し、精査・記録に着手した。

なお、掘削土量(作業量)及び安全管理上の制約から、いずれのトレンチにおいても遺構底面には到達していない。観察可能な範囲において、層序の把握と堆積過程の解釈に資する情報を得ることに注力した。

〔形状・規模〕 確認面における上端幅は10.0m前後である。上述の通り、今次調査では遺構下部～底面の様相は未確認であるが、近接地点の既往調査では概ね逆台形の断面が確認されており、今次地点においても同様の形態を呈する可能性が高いと推測される。後掲トレンチ78T1・78T3・78T4では壁面上部を確認しており、内岸側で50°前後(最上部は外傾を強め約32°)、外岸側で40°前後の立ち上がりが観察された。

〔人為土層の分布状況〕 先述の通り、地山黄褐色土ブロック層の平面分布はプラン内部の過半を占め、特に76-100・77-100グリッド北半部から75-98・76-98グリッド南半部の範囲においては、兩岸の間を完全に塞ぐ状況が観察された(以下「閉塞部」)。これよりさらに北側でも同様の土層が調査区北端まで連続し、プラン内の全面に広がりを見せているが、内岸側が調査区外にあるため閉塞部全体の北限は不明となっている。一方、閉塞部の南側でも外岸に沿って同様の人為土層が連続して分布する。確認面では外岸に沿って幅2.0~2.5mの帯状に検出され、調査区南端部に達している。

当該土層の堆積状況について概要を記せば、主に外岸側から供給された黄褐色地山土ブロック主体の人為土が、今次調査区の南北両端にわたる広い範囲で外岸側壁面を覆うように流し込まれ、続いて調査区中央付近から北部にかけては確認面に至るまでさらに厚く積み上げられて、兩岸間を完全に閉塞するに至ったものと見ることができる。範囲の北限は不明だが、南限は後掲78T2トレンチ内で検出された丸太材付近と考えられる。これらの詳細は後段で述べる。

〔埋土・堆積状況〕 遺構内の堆積状況と所見について、以下、各トレンチ別に記述する。

◎78T1(断面A2-A3・図5)

77-101グリッド杭付近において、21SD1を横断するよう走行方向に直交させて設置したトレンチである。図右方が外岸側(西方)、図左方が内岸側(東方)である。確認面以下90cm(標高23.3m)前後まで掘り下げを行った。観察・記録した南壁断面は後掲21SD2の78T5北壁断面E1-E2の延長線上に設定したものであり、掲載した断面図は一方を表裏反転させた状態で連続する(セクションポイントA4とE2が同一点)。

1~5層は本遺構の埋土上部を切る堆積層である。近世以降の水田かそれに類するものと考えられる。上述の人為土による閉塞部の南側は一定の埋積後に凹地となり、それを拡大・整形して利用した痕跡とみられる。内岸側壁面上部及び外岸側人為土層上部を壊し「段」を生じさせている。

6~15層は、調査区北半部で本遺構を切り内岸沿いを並走する溝跡78SD1から77-99グリッド杭付近で分岐し、閉塞部の南側の凹地に流入した土層である。幾筋かの流水痕跡が重複して観察され、下

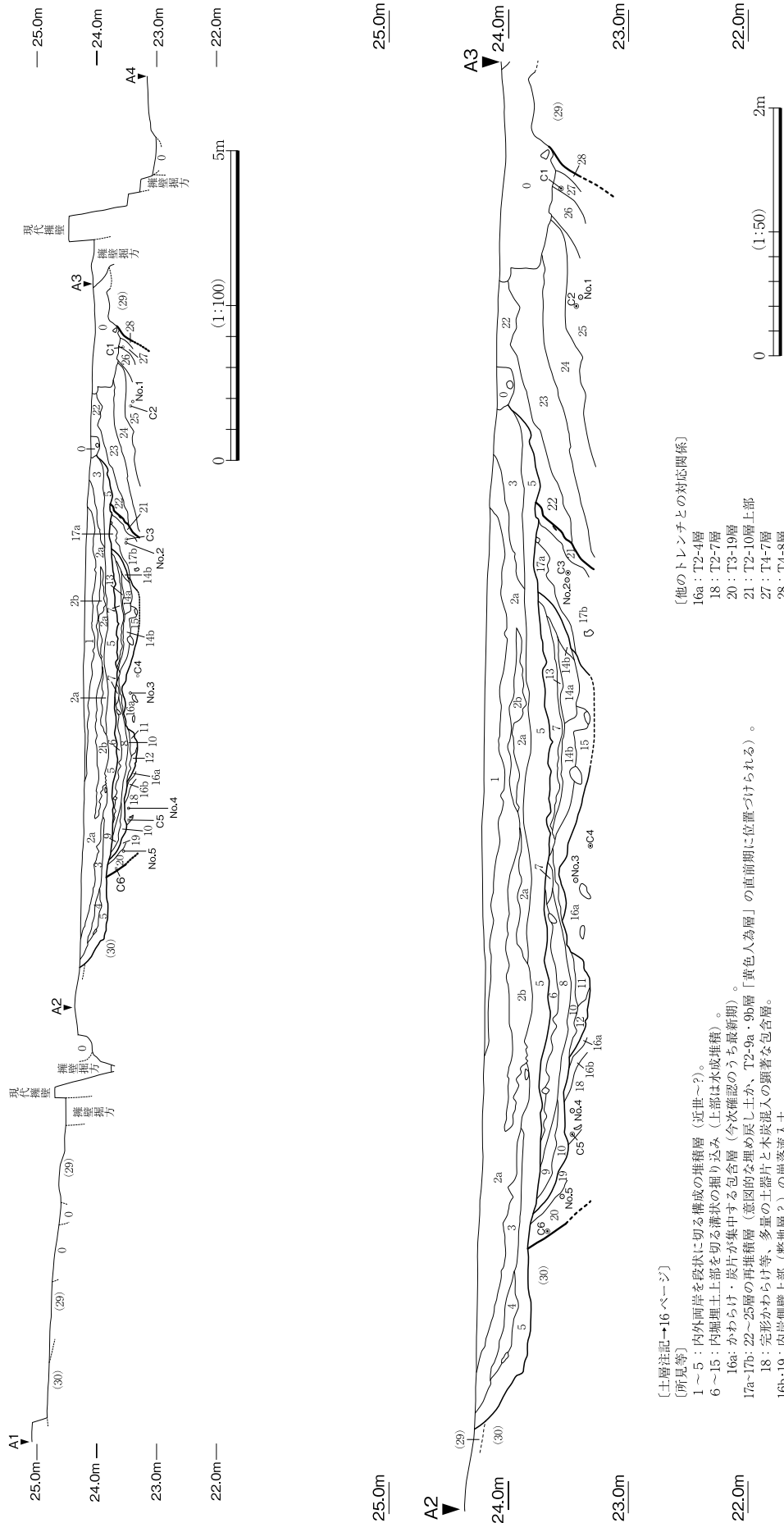


図5 21SD1断面図1 (78T1)

(土層注記→16ページ)

(所見等)

1～5：内外両岸を投状に切る構成の堆積層（近世-?）。
 6～15：内岸側土上部を切る溜状の掘り込み（上部は水成堆積）。
 16a：かわらけ・炭片が集中する包含層（今次確認のうち最新期）。
 17a-17b：22～25層の再堆積層（意図的な埋め戻し土分、T2-9a・9b層「黄色人為層」の直前期に位置づけられる）。
 18：定形かわらけ等、多量の土器片と木炭混入の顕著な包含層。
 16a・19：内岸側壁上部（影地層？）の崩落流入土。
 20：内岸側壁面を直接覆う包含層、かわらけ完形率高い、16a・18層に比して木炭混入量はずっと少ない。
 21：外岸側埋め戻し土の直上層。
 22～24：外岸側埋め戻し土。
 25：埋め戻し直前の自然堆積層。
 26：外岸側の崩落土。
 27：内・外の壁面が同時構築なら20層に対比される最古期埋土に相当。
 28：外岸壁面を直接覆う層、土塁痕積土の表面が流入したのか、黒色土含まない明るい粘質土。

位の21SD1埋土上部を切っている。かわらけ等遺物の混入量は比較的多いが小片・細片を主体としており、21SD1埋土由来の遺物が後の掘削等によって破碎、再堆積したものと考えられる。

16a層以下は21SD1本来の埋土である。16a層は多量のかわらけ小片と木炭細片の混入が目立つ黒褐色土層で周囲からの流入土と考えられる。上位が削平を受ける以前の遺構内上部堆積層に相当する。

これより下位の土層は、内岸側（図左）と外岸側（図右）で様相が大きく異なる。

内岸側では、間に地山土ブロック層（16b・19層）を挟みながら、黒褐色土（18・20層）が流入した様子が観察される。流入土層の上面にはそれぞれ遺物集中がみられ、完形に近いかわらけが多量に出土している。

一方、外岸側には厚い地山土ブロック層（22～24層）の堆積がみられる。確認面において外岸沿いに連続して観察された人為土層である。この土層の下位には内岸側18・20層に対比される可能性がある黒褐色土（25・27層）が堆積しているが、内岸側のそれとの併行（先後）関係を示す層位的根拠は得られていない。内岸側に比して遺物・木炭粒が著しく少なく、全体に粘土質を呈することが相違点として指摘できる。この下位の26層に含まれる地山土ブロックは水平方向に潰れており、上位の人為土層（22～24層）の土圧によるとみられる。外岸側壁面を直に覆う28層は、黒色土を含まない明るい粘土質土層であり、構築直後の壁面に露出していた地山黄褐色土の再堆積あるいは風化した部分と考えられる。内岸側で壁面を直に覆う20層とは大きく異なっており、堆積開始段階には外岸側は表土の流入が抑制される環境であったことを示唆している可能性がある。加えて、20層に覆われる内岸側壁面が、後に再構築されたもの（例えば21層下面段階等）である可能性は留保しておかねばならない。

◎78T2（断面B1-B2・図6）

76-99～77-100グリッドにかけて、閉塞部の構成土層と、以南の埋土との層位関係を把握するため、21SD1に対し縦断方向に設定したトレンチである。北側（図右方）が閉塞部で、南端（図左端）で先掲78T1と直交する。幅約70cmの範囲を検出面以下170cm（標高22.6m）前後まで掘り下げ、トレンチ西壁面を記録した。

土層断面からは、閉塞部を構成する北側の層群が古く、その後、埋め残された南側低位部（本遺構内部）に土層が累積した様子が見て取れる。

18～28層は明色の地山土ブロック層で、閉塞部の主体を成す層群である。下部の28層は上部に比してブロックの径が大きくボソボソと締まりを欠くが、上部は10～20cmの厚さで順次緻密に土が積み上げられた状況が観察できる。概ね水平方向に延びる層界には旧表土ブロックも散見される（22・24・27層）。16・17層は水分を多く含み、乾燥すると収縮して空隙が生じるような黒褐～褐灰色の粘土で、層の外縁には酸化鉄斑の集積がみられる。このような性状は、一般的に木質腐食部にみられるものであり、構築過程における意図的な土留めまたは芯材等の痕跡である可能性を指摘できる。本層群の南縁は南側の遺構内部に向かって約50°の勾配でほぼ直線的に下る面を成している。以上の様相から、閉塞部の構築に際しては、まず28層以下が遺構内部に流し込まれた後、上部は入念な締め固めと整形を意識した積み上げが行われたと考えられる。

13～15層は上記構築土の崩落再堆積層とみられる。さらにこの上位にはかわらけの細片をわずかに含む黒褐色粘土質土（11・12層）の流入が観察されることから、上記の構築土と後述の新期人為層（9a・9b層）との間には一定の時間差が想定される。

9a・9b層は、閉塞部の主体を成す先行18～28層に比して、より精選された地山土が用いられた新期の人為土層である。下部（9b層）は大径のブロックを主体とし、上部（9a層）は緻密なブロック層となっている。9b層の下面には、樹皮・樹枝・茅束様の植物質材が敷かれており、本層下面南端

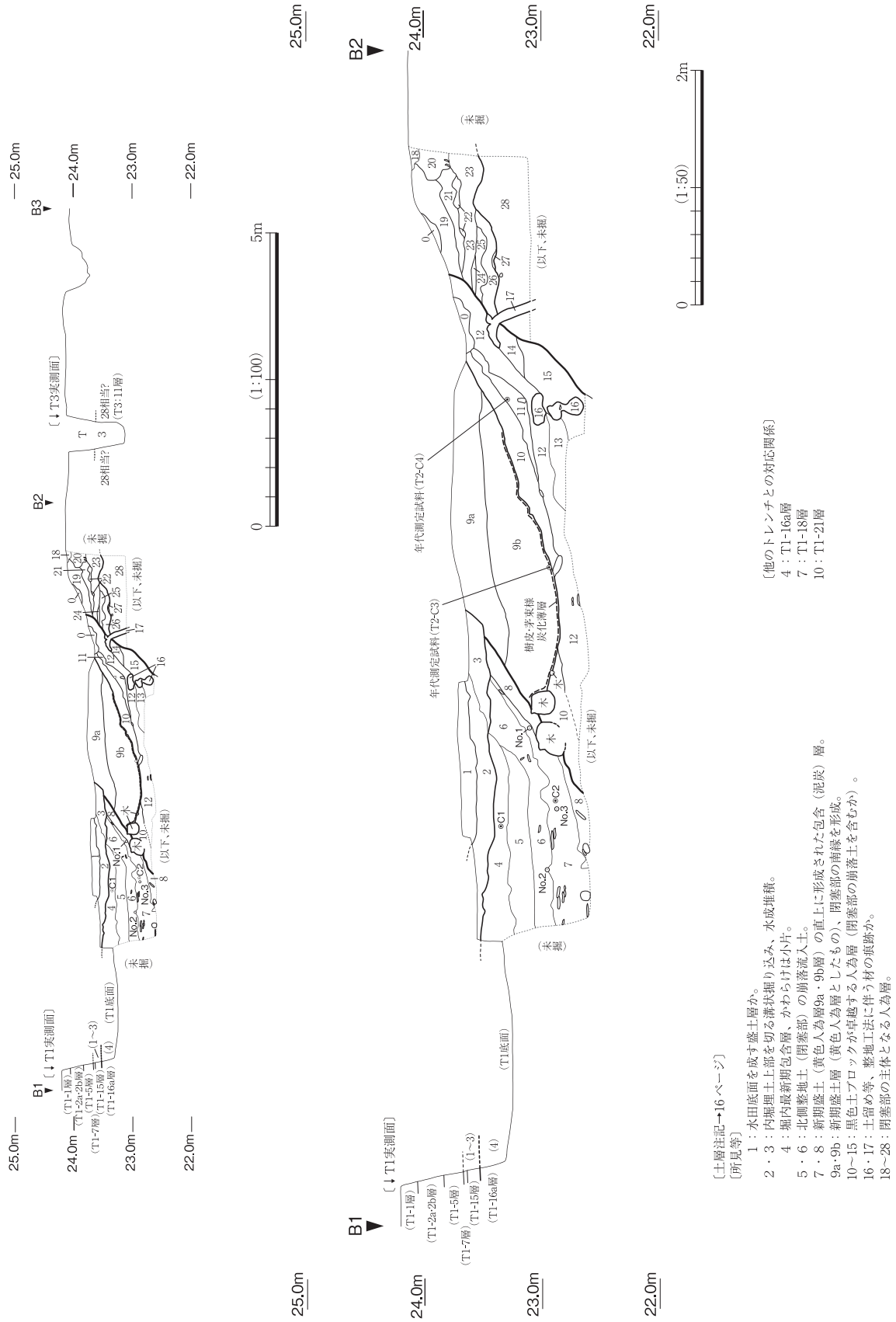


図6 21SD1断面図2 (78T2)

1 78次調査

【YG78-T1 南面 (SP.A2 ~ A3)】-21SD1-

0	攪乱層				
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4-7/6にぶい黄橙-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)下部に多量。
2a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。炭粒(径2-5mm)極微量。1・5層に似るが暗い。
2b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4-7/6にぶい黄橙-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)大量。2a層中に挟まる地山ブロック層。1層下部に似る。
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4-7/6にぶい黄橙-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-40mm)微量。2a・5層より黒味強。
4	2b層によく似る。				
5	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。炭粒(径2-5mm)極微量。全体に砂含み2a層に比しやや明るい。
6	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR3/2黒褐色シルトブロック・10YR6/6-6/8明黄褐色砂質シルトブロック少量。
7	10YR6/4-6/6	にぶい黄橙-明黄褐色	粘土ブロック層	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径2mm)極微量。
8	10YR3/2	黒褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径5-15mm)微量。トレンチ反対面では褐色砂の薄層と互層成す。水成堆積層。
9	10YR4/2-3/3	灰黄褐-暗褐色	砂	粘性弱	しまりやや疎。下部に小礫集中。水成堆積層。
10	10YR4/1	褐灰色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径2-5mm)極微量。13層によく似る。水成堆積層。
11	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。12層土ブロック多量。かわらけ小片微量。
12	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトブロック微量。10・11層より黒味強い。
13	10YR4/1	褐灰色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径2-5mm)極微量。10層によく似る。水成堆積層。
14a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。炭粒(径2-5mm)極微量。
14b	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。10YR6/4-6/6にぶい黄橙-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-40mm)やや多量。かわらけ小片極微量。
15	10YR3/1	黒褐色	シルト	粘性中	しまり中。炭細片(径10-20mm)微量。かわらけ小片極微量。
16a	10YR3/1-2/1	黒褐-黒色	シルト	粘性やや強	しまり中。円礫(径5-10mm)微量。炭細片(径10-20mm)微量。かわらけ小片多量。全体に黒味強い。※遺物取上げの「水田耕土下位黒色土」とは本層。
16b	19層によく似る。				
17a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/6-5/6明黄褐-黄褐色シルトブロック(径10-20mm)少量。かわらけ細片微量。
17b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/6-5/6明黄褐-黄褐色シルトブロック(径20-50mm)大量。炭細片(径10mm)微量。ほぼ地山ブロック層。
18	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。木炭小片・かわらけ(完形~大形破片)が集中。16・20層に似る。
19	10YR4/3-3/3	にぶい黄褐-暗褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/6-5/6明黄褐-黄褐色シルトブロック多量。
20	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径10mm)微(目立つ)。かわらけ(完形~大形破片)集中。
21	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	しまりやや密。かわらけ小片極微量。
22	10YR6/6-7/6	明黄褐色	粘土質シルト・シルトブロック層	粘性中	しまり密。10YR4/3-3/4にぶい黄褐-暗褐色シルトブロック微量。
23	10YR6/6-7/6	明黄褐色	粘土質シルト・シルトブロック層	粘性中	しまり密。10YR4/3-3/4にぶい黄褐-暗褐色シルトブロック少量(22・24層に比して多い)。
24	10YR6/6-7/6	明黄褐色	粘土質シルト・シルトブロック層	粘性中	しまり密。10YR4/3-3/4にぶい黄褐-暗褐色シルトブロック極微量。
25	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。木炭片(径10-20mm)微量。かわらけ小片極微量。
26	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/6-7/6明黄褐色粘土質シルトブロック(径20-50mm)上部及び下部にやや多量。混入ブロックは上方からの圧により水平方向に潰れている。
27	10YR3/1-3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。炭粒(径2-5mm)微量。
28	10YR5/2-4/2	灰黄褐	粘土質シルト	粘性中	しまり密。
(29)	2.5YR7/3-7/4	浅黄色	シルト	粘性中	しまりやや密。地山構成層。
(30)	10YR6/6-6/8	明黄褐色	砂質シルト	粘性弱	しまり密。地山構成層。(29)層の下位に堆積。

【YG78-T2 西面 (SP.B1 ~ B2)】-21SD1-

0	攪乱層				
1	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/3粘土質シルトブロック(径10-30mm)やや多量。上部に礫(径20-50mm)・かわらけ細片やや多量。全体に酸化斑、赤味持つ。上面が水田耕土下面に相当か。
2	10YR3/1-2/2	黒褐色	粘土	粘性やや強	しまり中。層厚20mmほどの粘土及びシルト層が互層を形成。水成堆積。T1-8・10・13層に似る。
3	10YR4/2-3/3	灰黄褐-暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック(径10-15mm)多量。かわらけ細片極微量。
4	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径5-10mm)多量。かわらけ片多量(小片主体)。※遺物取上げ「水田耕土下位黒色土」は本層。
5	10YR3/1-2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや密。10YR6/3-5/4にぶい黄橙-にぶい黄褐粘土質シルトブロック(径10-20mm)少量。炭粒(径5-10mm)極微量。
6	10YR4/1-3/1	褐灰-黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまり中。10YR6/3-5/4につい黄橙-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)やや多量。炭粒(径5mm)極微量。
7	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや疎。材痕跡か。隣接土層との層界がグライ化。
8	10YR3/1	黒褐色	粘土	粘性強	しまり中。泥炭層の下部。混入物・遺物をほとんど含まない。
9a	10YR6/4	にぶい黄褐色シルトブロック(径50~100mm)・白色粒子(径5mm、凝灰岩か)微量。全体に砂質強く酸化斑点在。	10YR6/2-6/3灰黄褐-にぶい黄褐色砂の混土層。	粘性やや弱	しまり密。円礫(径20~30mm)・
9b	10YR7/4-6/4	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径50~100mm)・	10YR6/4-6/6にぶい黄橙-明黄褐色粘土ブロック(径100-200mm)の混ブロック層。	粘性やや強	しまり密。10YR2/2黒褐色粘土ブロック(径50mm)極微量。大形ブロックで構成される土層。
10	10YR4/1-3/1	褐灰-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径5-40mm)多量(上方からの圧により混入ブロックは水平方向に潰れている)。炭細片(径10mm)極微量。
11	10YR3/1-2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。円礫(径50mm)極微量。かわらけ小片極微量。
12	10YR3/1-3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-30mm)微量。
13	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)多量。
14	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径2-5mm)やや多量(細かいブロックが全体に入る)。
15	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)多量。13層によく似る。
16	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや疎。材痕跡か。
17	10YR5/2-4/1	灰黄褐-褐灰色	粘土	粘性強	しまりやや疎。材痕跡か。隣接土層との層界がグライ化。
18	10YR6/4-5/4	にぶい黄橙-にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性弱	しまり密。10YR7/4-7/6にぶい黄橙-明黄褐色シルトブロック(径20-30mm)少量。10YR8/3-8/4浅黄褐色軟礫(凝灰岩か)少量。
19	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR7/6-6/4明黄褐-にぶい黄褐色シルトブロック(径10-50mm)少量。
20	19層に似るが、	10YR7/6-6/4 明黄褐-にぶい黄褐色シルトブロック	(径10-50mm)多量。	粘性中	しまり密。10YR7/3-6/3にぶい黄褐色シルトブロック(径10-50mm)多量。
21	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐-暗褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR7/3-6/3にぶい黄褐色シルトブロック(径10-50mm)多量。
22	10YR3/3-3/4	暗褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。
23	21層に似るが、	10YR7/3-6/3 にぶい黄褐色シルトブロック	(径10-50mm)大量。		
24	22・27層に同じ。				
25	10YR4/2-3/3	灰黄褐-暗褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-5/3にぶい黄橙-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径5-10mm)やや多量。
26	25層に似るが10YR6/3-5/3 にぶい黄橙-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック大量。				
27	22・24層に同じ。				
28	10YR4/2	灰黄褐色粘土質シルトブロック(径10-50mm)・	10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-50mm)の混ブロック層。	粘性やや強	しまりやや疎、ブロック径は20mm前後が主体。全体にボソボソしている。

からは表皮ののこる太さ30cm近くの丸太材（クリか）が2本並列した状態で出土した（図7）。丸太材の内側には棒状材（枝）が立て掛けられ、9b層下面の植物質材はさらにその上位に乗り上げるように連続している。この様相から丸太材は閉塞部の南縁を規定する「土留め」であり、人為層下面に敷かれた樹枝・茅束様の植物質材は、土層下面の安定を目的に施されたものと推測される。この新期人為土層で形成された閉塞部の南縁壁面は、凹地に向かって30°強の勾配をもって一旦安定したとみられ、その上位は再び自然流入土層（8層）によって覆われている。

8層の上位には大量の植物遺体を含む泥炭層（7層）が形成されており、完形かわらけ・木質遺物等をはじめとする濃密な遺物集中がみられた。先掲78T1：18層に対比されるものである。

その後、上位には崩落土層（5・6層）を挟んで、多量のかかわらけ小片と木炭粒を含む4層（78T1：16a層対比）が堆積する。本層以下が本遺構の本来の埋土であり、上位は後掲溝跡78SD1埋土に連続する2・3層（78T1：6-15層対比）に切られている。1層下面は本遺構の両岸の肩を切る攪乱層（78T1：5層以上）の下面に相当する。

◎78T3（断面C1-C2・図8）

75-99～77-98グリッドにかけて、21SD1に対し横断方向に設定したトレンチである。図右方が内岸側（東方）、図左方が外岸側（西方）である。前掲78T2の北側に位置しこれと直角方向に近接している。幅70cmの範囲を検出面以下130cm（標高22.7m）前後まで掘り下げ、トレンチ北壁面を記録した。

内岸側の壁面上部には地山土層（25層）の上位に旧表土層である暗色土層（22～24層）がみられ、本遺構はこれらを切って構築されている。外岸側では地山土層の上面はやや低くなっており、本来の地形は全体に猫間が淵側に向かって緩く傾斜していたことが理解される。

断面に観察される最も古い土層は、壁面を直に覆う流入土20・21層である。内岸側20層の上面には略完形かわらけ等の遺物集中がみられ、炭化物を多く含んだ黒味の強い19層がこれを覆う。自然流入による堆積はここまでで、その上位は両岸の間に横断的に充填された人為土に厚く覆われている。

18層は埋め戻しの最初期に相当する。全体に暗色を呈し一見すると地山土ブロックを全体に含む自然崩落層のように見えるが、仔細に観察すると主体を占める暗色部もまた旧表土由来のブロックであることが確認できた。岸際の表土層もろともに掘り崩したものであろうか。この上位の17層は、逆に大径の地山土ブロック層となっている。本層まではやや乱雑な埋め戻しが行われた印象を受ける。これより上位は地山ブロック主体の土層によって順次埋立てが進められている。11・13・15層の下面からは炭化した樹皮または茅の様な炭化した植物質が検出された。11層下面に特に顕著で、面的に密に敷き詰められた状況が認められる。充填土層の下面に意図的に敷かれたものであることは明らかであり、78T2トレンチ9b層下面のものと同様、土層下面の安定を目的に施されたものと推測される。

以上の人為的な土壌の供給は、まず外岸側から開始され（13～18層）、その後、中央部から内岸側の部分（5～12層）を埋め尽くしたことが分かる。層界には自然流入層が認められないことから、時間的断絶がほぼない一連の作業によるものである可能性が高い。

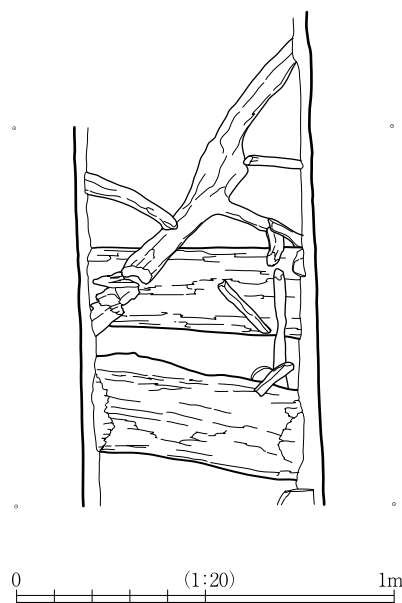


図7 21SD1-T2 土留め材

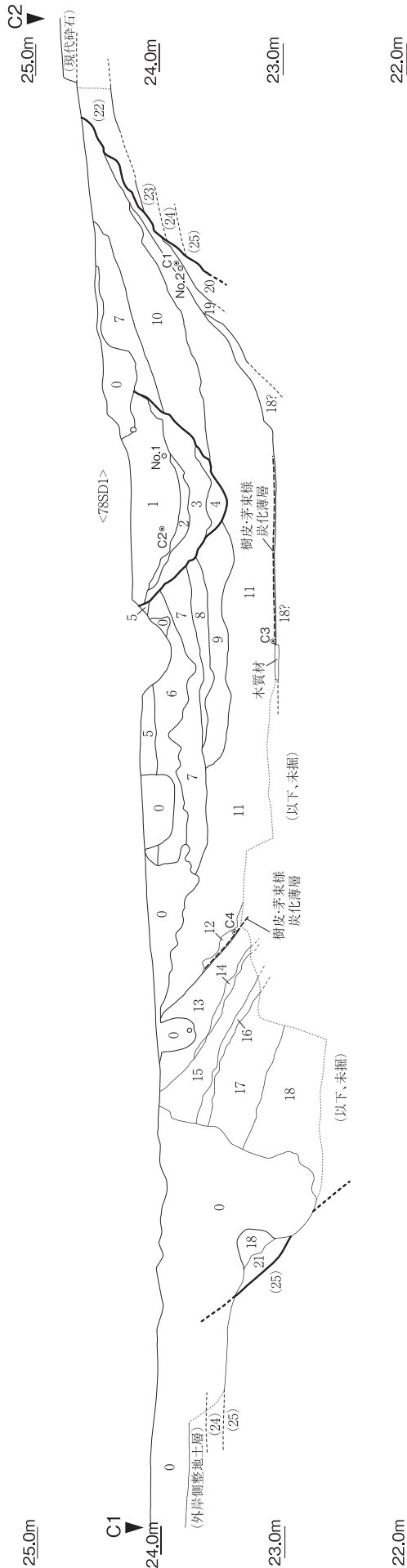


図8 21SD1 断面図3 (78T3)

【YG78-T3 北面 (SPC1~C2)】-21SD1-

- | | | | | | |
|------|--|------------|--------|-------|--|
| 1 | 10YR4/3-3/3 | にぶい黄褐色-暗褐色 | シルト | 粘性中 | しまり密。下面中央に礫(径5~20cm)集中。かわらけ細片やや多量。 |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロック・10YR3/4暗褐色粘土質ブロック(径10-20mm)多量。 |
| 3 | 10YR4/3-4/4 | にぶい黄褐色-褐色 | シルト | 粘性中 | しまり密。かわらけ細片少量。 |
| 4 | 10YR4/3-4/4 | にぶい黄褐色-褐色 | シルト | 粘性中 | しまり密。かわらけ細片少量。2層によく似る。 |
| 5 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。10YR7/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-30mm)大量。ほぼブロック層。 |
| 6 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。10YR7/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-30mm)少量。5層に比して全体に黒味。 |
| 7 | 10YR4/4-3/4 | 褐-暗褐色 | シルト | 粘性やや弱 | しまり密。7.5YR4/4-4/6褐色やや多量。全体に砂質強い。 |
| 8 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。10YR6/4-6/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土質シルトブロック(径20-40mm)多量。 |
| 9 | 10YR6/2-5/2 | 灰黄褐色 | 粘土 | 粘性中 | しまり密。 |
| 10 | 8層によく似る。 | | | | |
| 11 | 10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルト・10YR4/2-4/3灰黄褐色 | | 粘土質シルト | 粘性中 | に連続するとみられるが未確認。 |
| 12 | 10YR4/1-4/2 | 褐灰-灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性強 | しまりやや密。下面に樹皮様炭化薄層。木質部の痕跡が。 |
| 13 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。10YR6/2-6/3灰黄褐色にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-50mm)やや多量。 |
| 14 | 10YR4/1-4/2 | 褐灰-灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。12層に似るが10YR6/2-6/3灰黄褐色-明黄褐色粘土質シルトブロック少量含む。下面に樹皮様炭化薄層。 |
| 15 | 13層に同じ | | | | |
| 16 | 14層に同じ | | | | |
| 17 | 10YR6/2-6/3 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| 18 | 10YR2/1黒色・10YR3/2黒褐色・10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト | | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| 19 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| 20 | 10YR4/1-4/2 | 褐灰-灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| 21 | 10YR5/2-4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| (22) | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| (23) | 10YR2/2-2/3 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| (24) | 10YR4/3-3/4 | にぶい黄褐色-暗褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |
| (25) | 10YR6/3-6/4 | にぶい黄褐色 | シルト | 粘性やや弱 | しまり中。炭粒(径5-10mm)極微量。内岸側の壁を直に覆う初期の自然堆積土層。 |

【所見等】

- 1~4: YG78SD1埋土。
- 5~18: 明寒部の人為層。層間に自然流入土層なし。時間差はばく乱して埋められたが、作業単位の境界(層界)に植物質の炭化薄層観察される。工法に伴うか。
- 19: 遺物、炭化物集中。
- 20・21: 最初期の自然流入土。

◎78T4 (断面D2-D3・図9)

75-100グリッド北半部に集中していた攪乱群（近世以降の改葬済み墓坑群とみられる）の壁面を利用して、外岸側壁付近の構造を観察・記録したトレンチである。図右方が外岸側（西方）、図左方が内岸側（東方）で、トレンチ南壁面を記録した。また、断面の東側延長上（内岸側への横断方向）の状況を併せて図示している（D1-D2間）。

21SD1の外岸側壁面は8層下面で、その外側の9～13層が壁面上部を構成している。13層は地山黄褐色土層であるが、その上面は人為的な切土による平坦面となっている。この上位に改めて地山土ブロック主体の9～12層が積み上げられた様子が観察される。8層下面すなわち本遺構壁面が、これらの人為積土層を切っているのか、あるいは壁面構築のために積土を行ったのかについては判断の根拠を見出せなかった。

壁面を最初に覆う8層はやや明るい粘質土で、構築後一定期間は流入土による自然堆積が進んだものとみられる。今次調査区内においては、本層が外岸側プランに接して連続して分布することを確認している。この上位に堆積する7層には、角張った木炭片とかわらけ片の目立った集中が認められる。ごく薄い堆積ではあるが、下位と上位を画する何らかのイベントを示す可能性に注意しておきたい。

この上位は再び厚い人為層に覆われている（1～6層）。先掲の他トレンチでも確認されている外岸側壁に連続する土層である。地山土ブロックの粗密等で細分したが、短期間に一連の作業によって形成されたものと考えられる。

セクションポイントD1-D2間は、確認面における土層の平面分布と、78T2の土層断面をもとに作図したものである。各破線は推定を示すが、線端が実線と接する点は上記観察に基づくものである。本トレンチ1～6層に相当する人為土層群の分布については、平面観察から少なくとも壁上端の内側3.8m付近までの広がりを確認した。下部はさらに対岸側に向かって潜り込んでいると推測される。また、図中「黄色人為土層」と示しているのは、78T2トレンチで確認した「新时期人為層」（78T2：9a・9b層）である。先行の人為層群とその後の流入土層の上位に、入れ子状に堆積している。当該土層の平面分布範囲は、先掲78T2の土留め様の丸太材を「弦」とした半円形を呈するものとなっている。

〔重複・先後関係〕 既往調査の成果から、当初構築時期は後掲21SD2堀跡のそれよりも新しいと考えられる。構築後、遺構内への土壌充填は二段階認められるが、両者の時間差の程度は根拠がなく不明である。これらの人為土充填により今次調査区北半部付近に閉塞部が形成される段階がある。この閉塞部の人為土層は、78SD1溝跡に切られている。

〔放射性炭素年代測定試料〕 78T1から6点（図5：C1～C6）、78T2から4点（図6：C1～C4）、78T3から4点（図8：C1～C4）、78T4から2点（図9：C1・2）の木炭細片を採取している。

このうち、78T2採取の2点につき測定を実施した。新时期人為層9b層下面で採取したT2-C3は910±20yrBP（測定番号IAAA-161494）、その下位の11層中から採取したT2-C4は960±20yrBP（測定番号IAAA-161495）との結果を得ている。

〔出土遺物〕 図13～22

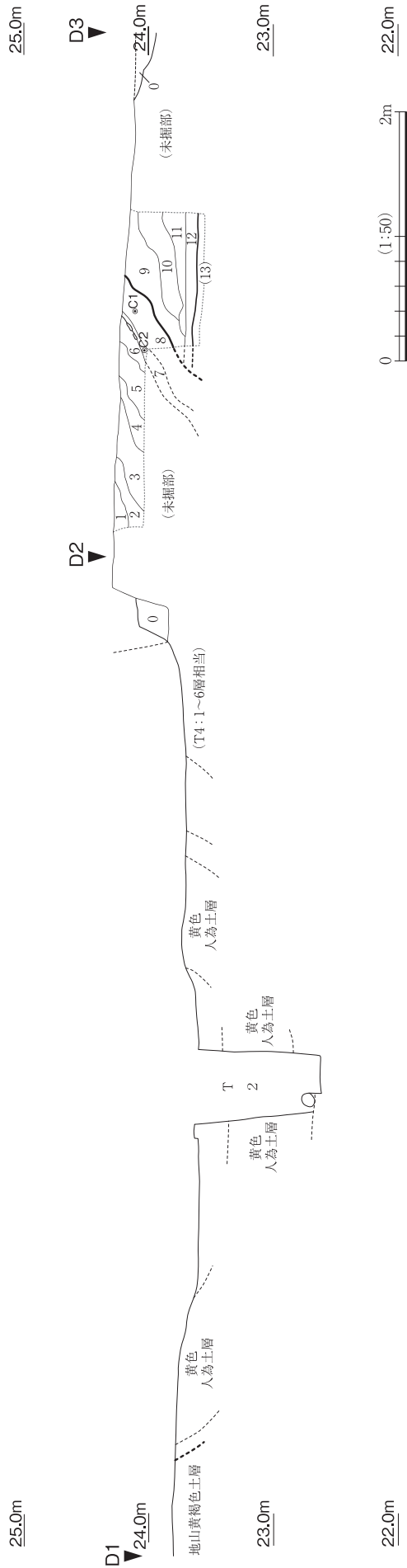


図9 21SD1 断面図4 (78T4)

【YG78-T4 南面 (SP.D2~D3)】-21SD1-

1	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐色-暗褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-30mm) 少量。
2	10YR3/2-3/3	黒褐色-暗褐色粘土質シルト	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土の小ブロック層。粘性やや弱。しまり密。
3	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐色-暗褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径20-100mm) やや多量。大きめのブロック目立つ。
4	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐色-暗褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-50mm) 多量 (4層より多く6層より少ない)。
5	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-30mm) 大量。ほぼブロック層。
6	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐色-暗褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-20mm) 少量。
7	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。黄褐色粘土ブロック (径2-5mm) やや多量。上面に木炭多量。上面に木炭多量。かわらけ小片含む。
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。木炭細片 (径5-10mm) 極微量。白色粒子 (径2-5mm、凝灰粒か) 微量。ほとんど混入物ない層。
9	10YR5/4-5/6	にぶい黄褐色-黄褐色	砂質シルト	粘性弱	しまり密。白色-淡黄色小粒 (径5-30mm、凝灰粒か) やや多量。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-20mm) 少量。10層よりやや暗く砂礫の混入多い。
10	10YR5/4-5/6	にぶい黄褐色-黄褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-30mm) やや多量。10YR7/4-6/6にぶい黄褐色明黄褐色砂質シルトブロック (径20-50mm) やや多量。9層より黄味強く明るい。
11	10YR5/4-5/6	にぶい黄褐色-黄褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR7/4-6/6にぶい黄褐色明黄褐色砂質シルトブロック (径10-70mm) やや多量。10YR4/4褐色粘土質シルトブロック (径30-50mm) やや多量。整地前田表土ブロックが目立つ層。
12	10YR3/3-3/4	暗褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。10YR7/4-6/6にぶい黄褐色明黄褐色砂質シルトブロック (径2-5mm) が数枚の薄層を成して水平に堆積。地山黄褐色粘土層 (13層) を削平した面の直上層。
(13)	10YR7/6-6/6	明黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。地山構成層。上面は切土面。

【所見等】

- 1~6: 内堀内に充填の人為層。
- 7: 木炭片・かわらけ集中層。
- 8: 土器状積土~内堀外岸上部を被覆する自然層 (積土の流出再堆積層)。
- 9~11: 田表土~地山土層起源のブロック層 (土塁状積土)。
- 12: 切土面を直に覆う最初の整地層。
- 13: 上部を削平された地山土層。

表4 21SD1堀跡 78T1～78T4トレンチ 土層対応表

トレンチ	78T1 <sp.A2-A3>	78T2 <sp.B1-B2>	78T3 <sp.C1-C2>	78T4 <sp.D2-D3>	性格・所見等			
層名	1-5	1			攪乱層(近世～)			
	6-15	2-3	1-4		溝跡78SD1			
	16a	4			21SD1 遺物包含(小細片主体)			
	17a-17b	5-6						
	18(~20?)	7			21SD1 遺物集中面(器形遺存度高)			
		8						
		9a-9b			21SD1 閉塞部充填土層(新)			
	21	10上部						
	22-24		18-27	5-10	1-6	21SD1 閉塞部充填土層(古)		
			28	11・12				
				13-18				
		(~20?)		19			7	21SD1 遺物集中(器形遺存度やや高)
		28		21			8	
				9-12	21SD1 外岸側壁面構成人為土層			
		22-24		旧表土～漸移層				
29-30		25	13	地山土層				

21SD2 (図10)

〔位置・検出状況・精査方法〕 先掲21SD1堀跡の構築面である微高地と猫間ヶ淵低位面の境界、段丘崖状の傾斜変換点に位置する。74-102グリッド付近を北北西-南南東方向に走行する帯状範囲として検出した。内岸側プランは地山黄褐色土層上位の自然堆積層である黒褐色土面で確認できたが、外岸側では、内岸側プランに平行して帯状に展開する地山土主体のブロック層範囲が観察されたものの、壁上端の位置が不明瞭であった。このため、走行方向に対して直交するトレンチ78T5を設定し、遺構内の堆積状況と併せて外岸側壁面の構造について確認を行うこととした。

なお、このトレンチは先掲21SD1-78T1断面(図5)に連続する位置に設定している。セクションポイントE2は78T1のA4と同地点を共有している。図11上半には78T1断面と本トレンチ断面を合成して示した。

〔形状・規模〕 断面に観察される上端幅は5.5m前後、底面幅は3.3～2.7m程である。本遺構は構築から廃絶に至る過程において数次の再掘削を受けており、上記は残存形態の数値、すなわち最大値を示している。内岸側壁上端から底面までの残存深度は210cm(底面標高約20.8m)、壁面勾配は内岸側で56°前後、外岸側では40°前後である。

〔埋土・堆積状況〕 <78T5> (断面E1-E2・図11)

78T5トレンチでは、まず堀跡本体部分に対し約2.0mの幅で遺構底面まで掘削をすすめた。これにより内岸側壁面と底面を確認したが、検出面でも判然としなかった外岸側については、明瞭な立ち上がりを見出すことができなかった。そこで外岸側壁面の構造を明らかにするためトレンチを延長し、堀本体埋土～低位面堆積層の連続断面を観察・記録した。以下、本遺構の構築から埋没に至る過程について、断面から読み取れる情報をもとに復元を試みたい。

まず、当該地点の本来の自然地形と土層に着目すると、地山構成土62層とその上位の黒褐色土61層が本遺構を境に急激に落ち込んでいるのがわかる。先述の通り、本遺構は図右の微高地面と図左の猫間ヶ淵低位面との境界部を選んで構築されている。

断面に観察される最も古い掘削面は60層下面である。この際に排出された旧表土(61層)と地山土(62層)は、低位面(図左半の61層上面)に土堤状に積み上げられている。この積土は、下部：暗色



図10 21SD2周辺平面図

土ブロック主体の層群（53～58層）、中部：明色粘土ブロック主体（46～52層）、上部：両者の混合層（40～45層）の、3つの層群に大別できる。表土→地山土の順に掘削をすすめ、その排土を下位から順に積み上げた過程を反映していると考えられる。

この土堤状積土層に関連して注目されるのは、当該層群の右端から垂直に立ち上がる二筋の薄層（37層）である。腐食した木質の痕跡とみられ、幅70cmのトレンチを横断し対向断面まで連続する状況が確認されている。外岸側の壁面となる土堤の構築に際し、板状材等を用いた補強や土留めを行った痕跡と推測される。土留め材の背後には34・35a・35b層等が充填され、さらに、当初掘削で低くなりすぎた壁面下端部にも土を補っている（36・60層）。これをもって外岸側壁面と底面の整形が完了し、25層下面を底面とする堀が機能を開始したものと考えられる。

はじめに底面を覆うのは水成の粘土層25層だが、その堆積はごく薄く、上位はすぐに崩落土層（24層）に覆われている。よって本段階の安定期間はごく短いものであったろう。外岸側ではこれに続く

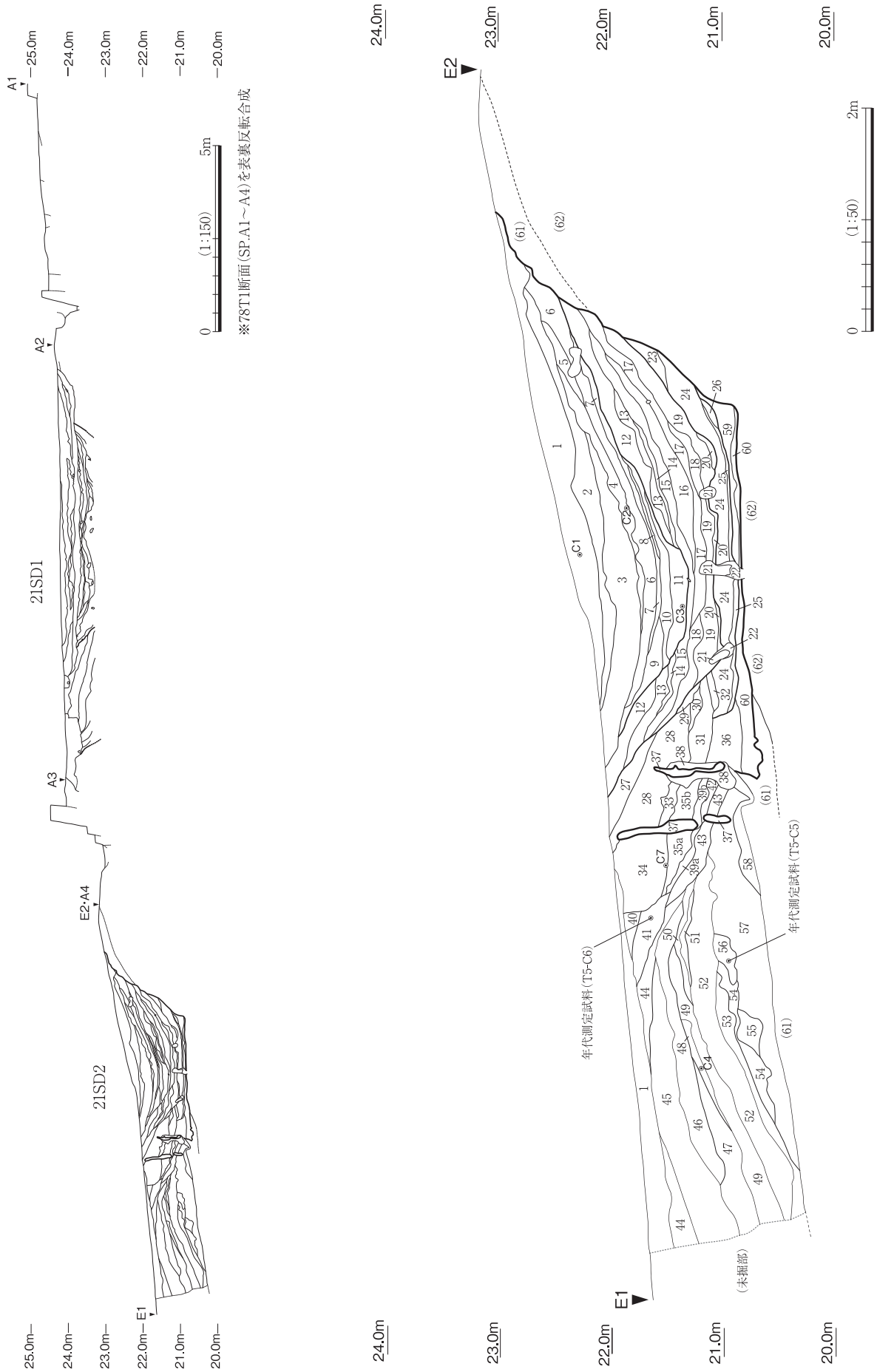


図11 21SD2断面図 (78T5)

1 78次調査

【YG78-T5北面 (SPE1 ~ E2) - 21SD2-

0	攪乱層				
1	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。小礫 (径10mm)・炭粒 (径5mm)・かわらけ細片それぞれ極微量。
2	10YR5/3-4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。小礫 (径10mm)・炭粒 (径5mm)・かわらけ細片それぞれ極微量。1層に比しやや明るい。
3	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒 (径5-10mm) 極微量。下部ほど粘土質強い。
4	10YR7/4にぶい黄褐色粘土・10YR6/6明黄褐色シルトのブロック層			粘性やや強	しまりやや密。内岸側からの崩落または人為層。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。炭粒 (径5-10mm) 微量。
6	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒 (径2-10mm) 極微量。下部ほど粘土質。
7	6層に似る。6層との層界に灰白火山灰の薄層挟む。				
8	10YR6/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性弱	しまり中。火山灰の再堆積層。
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり中。灰白火山灰多量。
10	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。6・7層に似る。
11	10YR5/3-5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。炭粒 (径2-10mm) 微量 (下部に集中)。全体に火山灰含む。
12	10YR5/3-5/4	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。
13	10YR6/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。全体に火山灰多量。14層より黄味。
14	10YR7/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。ほぼ灰白火山灰層。
15	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。層中に火山灰薄層が互層成す。
16	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。小礫 (径5-10mm) 極微量。下面に沿って10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
17	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。
18	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。下部に10YR5/3にぶい黄褐色砂・10YR6/4にぶい黄褐色粘土ブロック多量。
19	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトブロック・10YR3/2黒褐色シルトブロック・10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロックの混土层			粘性中	しまり密。
20	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
21	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。材痕跡か。
22	21層 (材?) によって下方に押し下げられた24層土。				
23	10YR4/2-3/2	灰黄褐色-黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径5-10mm) やや多量。上下位層に比し黒味強い。
24	10YR4/1-3/2褐灰-黒褐色粘土質シルトブロック・10YR6/3-6/4にぶい黄褐色シルトブロック・10YR4/2-3/2灰黄褐色-黒褐色粘土質シルトブロックの混土层			粘性中	しまりやや密。
25	10YR5/2-4/1	灰黄褐色-褐色	粘土	粘性強	しまり中。
26	10YR7/4-6/4	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR7/4-7/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土ブロック (径10-20mm) 少量。
27	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径5-20mm) 少量。
28	10YR6/4-6/6	にぶい黄褐色-明黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR7/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
29	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック (径5-10mm) 少量。
30	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR6/3-5/4にぶい黄褐色-にぶい黄褐色砂質シルトブロック (径10mm) 少量。
31	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR7/4-6/4にぶい黄褐色砂質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
32	10YR4/2-3/2灰黄褐色-黒褐色粘土質シルトブロック・10YR5/3-5/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・10YR6/6明黄褐色粘土ブロックの混土层 (各ブロックの径5-10mm)。粘性やや強			粘性中	しまり密。
33	10YR4/2-3/3	灰黄褐色-暗褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。10YR7/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) 下半部に多量。
34	10YR5/3-5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径5-15mm) 少量。10YR7/3にぶい黄褐色粘土ブロック (径5-15mm) 微量。小礫 (径5-20mm) 極微量。
35a	34層によく似るが小礫含まず粘土質シルトブロック主体。				
35b	35aによく似るが地山ブロックの径細かい。				
36	10YR4/2灰黄褐色粘土ブロック・10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルトブロック・10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロックの混土层 (各ブロック径5-20mm)。粘性中				しまりやや密。
37	10YR5/2-5/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり中。材痕跡か。トレンチ反対面にも同位置に認められる。
38	10YR6/2-6/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。37層 (材痕跡?) の影響で隣接土層が乱れた部分。
39a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-30mm) やや多量。全体に黒味強い。
39b	39a層に比して黒味が弱く全体に灰色呈す。				
40	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10mm) 少量。
41	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトブロック (径5-10mm) 微量。10YR6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-30mm) やや多量。
42	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。
43	10YR6/3-5/3	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性中	10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) やや多量。粘性やや強
44	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR7/4-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-15mm) 少量。
45	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルトブロック・10YR7/3にぶい黄褐色シルトブロック・小礫 (径5-15mm) 各微量。
46	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロック (径5-30mm) やや多量。
47	10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック・10YR4/2-4/3灰黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・10YR5/6黄褐色粘土質シルトブロックからなる混土层 (各径5-20mm)。淡黄色ブロック目立つ。				
48	10YR6/3-5/3	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-20mm) 少量。
49	10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック・10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトブロック・10YR5/6黄褐色粘土質シルトブロックの混土层 (各径5-10mm)。粘性やや強				しまりやや密。
50	10YR6/4-5/4	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。
51	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック (径10-30mm) やや多量。
52	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm)・10YR7/6-6/6明黄褐色粘土ブロック (径10-50mm) 下半部に大形ブロック多い。
53	10YR5/2-5/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR4/2灰黄褐色粘土ブロック (径5-15mm) 上部に多く含む。
54	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。10YR7/3-6/3にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-40mm) 低位側に偏在。
55	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/2-6/3灰黄褐色-にぶい黄褐色粘土ブロック (径10-20mm)・10YR6/6明黄褐色砂質シルトブロック (径10-20mm) 大量。
56	10YR6/6明黄褐色シルトブロック層。粘性中				しまりやや密。
57	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック (径20-40mm) やや多量。60層によく似る黒色ブロック主体の土層。
58	10YR6/2-6/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや密。10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) 極微量。
59	10YR7/4-7/6	にぶい黄褐色-明黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。62層 (地山構成層) からの流入土。
60	10YR3/1-2/2黒褐色粘土質シルトブロック (径10-40mm)・10YR4/1-4/2褐灰-灰黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm)・10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック (径10-30mm) の混土层。粘性中				しまりやや密。57層によく似る黒色ブロック主体の土層。全体に黒味強い。
(61)	10YR3/1-2/2 黒褐色		粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒 (径2-5mm) 極微量。旧表土の自然堆積層。
(62)	10YR7/3-7/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。地山構成層。

大きな壁面崩壊が起こっている。内側の土留め材付近（38層周辺）では壁面が遺構内部に向かってやや大きく孕み、また、押し出された材の下端に引きずられて生じた土層の歪みが58層右半に観察される。この崩壊により、25層下面期の外岸側壁面は下端部付近（31・32層下面）まで壊されている。

崩壊部では土留め材の上部が露出した状態になったとみられ、ここに地山土（28層）等を充填し壁面の再構築が為されている。この新期の積土層群を壁面とした新たな逆台形堀は、20層下面を底面として再度機能を開始している。20層下面段階の特徴の一つに、乱杭痕跡のような小規模凹凸（21・22層）を底面に持つ点が挙げられる。同様の事象は77次調査21SD2-77T1・同77T2トレンチの「層群④」下面でも観察されており、20層下面は同段階に対比されるであろう。

20層下面段階の堀を埋めるのは、周囲からの流入土及び遺構内部の流水に伴う堆積土からなる層群である（12～20層）。17層下面・15層下面等がそれぞれ先行土層を切りながら徐々に堆積が進み形成されている。このうち13～15層には灰白色火山灰の混入が特に顕著に見られた。本トレンチ周辺に良好に残存する古代の自然堆積層に火山灰層は認められないが、既往調査では猫間ヶ淵上流部にその存在が確認されており、当該層群に含まれる火山灰は上流側から流下したものと考えられる。本層群はこのように断続的な複数の流水期を経て形成されていることが理解され、同様の特徴をもつ77次調査21SD2-77T1・同77T2トレンチの「層群⑤」に相当すると考えられる。

これらをさらに深く切っているのが後続の11層下面である。11層の下部には木炭小片の集中が観察された。量は多くないが、木炭粒の混入が目立つようになる本層以上の堆積層のそれに比較して、径が大きく角張っている点に注意したい。11層の上位は再び火山灰を含む砂質土層と粘土層が互層を成して埋積が進んでいる（5～10層）。ここに含まれる火山灰は先行土層の侵食に伴い壁面から流入した「再々」堆積のものであろう。本層群は主に11層の性状及び同層下面の標高からも77次調査における「層群⑧」に対比されるものと考えられる。なお、今次調査における同層群の様相を勘案して、77次調査「層群⑧」の下限については、既報でその可能性を示唆したとおり、「21SD2-77T1：8層」または「12層」の下面が相当するものと解釈したい。

その後、6層上面の段階に至り、内岸側から地山黄褐色土ブロック層（4層）の流入が起こっている。図から読み取れるとおり、堆積面の標高は自然の地山土層62層よりも高く、遺構本体の壁面崩落によるものではない。内岸側から直接投入されたか、あるいはより高位に構築された内岸側壁上方の人為土層からの崩落か、いずれかの可能性が考えられる。先掲21SD1の外岸側、すなわち本遺構と21SD1との間には、切土・盛土・充填等、積極的な土地改変が確認されており、これらに併行または後続する時期に位置づけられるだろう。本層の上位は再び自然流入土（3層）に覆われるが、12世紀乃至その直後の可能性をもつのは本層までであり、さらに上位はかわらけの極細片や小礫等を含む新しい堆積層（中世後期以降か）となっている。

〔重複・先後関係〕 既往調査の成果から、当初構築時期は21SD1より古い。外岸側壁面を構成する土堤状積土は25層下面段階に構築され、その後20層下面段階を経て堀本体の埋没が進んでいる。土層性状等の対比から11層下面段階以降は21SD1に併行すると推測される。

〔放射性炭素年代測定試料〕 78T5の土層断面から7点（図11：C1～C7）の木炭細片を採取し、うち2点の測定を実施した。土堤状積土層の下部を構成する56層から採取したT5-C5は 1230 ± 20 yrBP（測定番号IAAA-161493）、土堤状積土層上部41層のT5-C6は 950 ± 20 yrBP（測定番号IAAA-161492）との結果を得ている。T5-C5の測定値が古いのは、縄文時代～平安時代前期に対比される自然堆積層61層に含まれていたものが掘削を受け、積土構築の初段階に積み上げられた結果として首肯できる。

〔出土遺物〕 図23

表5 21SD2 堀跡 78T5トレンチ 土層対応表

層名	所見・性格等		77次トレンチ(21SD2-77T1・77T2)の層群との対比
1-2	自然堆積(近世～)		—
3	自然堆積		層群⑧上部
4	人為層またはその崩落層		層群⑦関連人為層の崩落等か
5-10	水成堆積主体(火山灰含む)		層群⑧ (既報で「砂質」としたのは火山灰の混入による)
11	角張った木炭小片目立つ		
11下面	先行堆積層をU字に切る面。人為も加わる		層群⑧下面※
12-20	自然堆積層(水成層挟む)。14-15は再堆積の火山灰層		層群④～⑤
20下面	逆台形堀(新)構築。下面に杭痕状凹凸		層群④下面
27-32	外岸側壁面(土堤)再構築		—
31・32下面	外岸側壁面の崩壊。38の孕み・58の歪み		—
24-25	自然堆積(流入・崩落土)		層群①
25下面	逆台形堀(古)機能面		層群①下面
36・59・60	底面整形		
34・35a・35b	土留め材裏込め土か	37・38 木質材による 土留め	
40-45	外岸側壁面(土堤)構築(上部)		
46-52	外岸側壁面(土堤)構築(上部)		
53-58	外岸側壁面(土堤)構築(上部)		
60下面	逆台形堀(古)構築面		

※ 今次成果を勘案し、77次層群⑧下面は77T1の8層下面または12層下面と改めたい。

※※層群②・③相当は、流失または掘削の影響が確認できていない。

② 土 坑

78SK1 (図12)

〔位置・検出状況・精査方法〕 78-99グリッドに位置する。削平面である地山黄褐色土層上面において、地山土ブロック主体の円形範囲として検出した。プラン中央にはかわらけ細片と炭化物を含む柱痕状の黒褐色土範囲が認められた。このことから、大形柱穴、特にも既往調査で確認されている張出しを持つ柱穴に類する可能性を考慮して、まず南西部4分の1を精査し内部構造の確認を行った。結果、同種遺構にみられる特徴は見出されず、未掘部分については保存することとした。

〔規模・形状〕 一部の精査に止めたため全体形状は不明であるが、検出面における開口部径は140cm前後、底面径は100cm前後と推測される。底面までの残存深度は36cmである。壁は開口部付近までほぼ直立して立ち上がり、底面は概ね平坦に整っている。

〔埋土・堆積状況〕 底面から検出面に至るまで、地山黄褐色土主体のブロック層が堆積している(2～6層)。本層群からは少量のかわらけ片が出土した。内部に自然流入層が認められないことや、本来の地山黄褐色土層上面よりもさらに上方から地山土ブロックが流し入れられていることから、掘削後間を置かず人為的に埋め戻された可能性が高いと考えられる。なお検出面において柱痕状を呈していた1層は、精査の結果、2層以下を切る小ピットであることが確認された。本層は多量の木炭細片とかわらけ小片を含む黒褐色土である。多量の木炭が生成する事象に起因する堆積層と考えられ、類似土層は付近に広く点在することから、他遺構との対比に有用な土層と思われる。

〔重複・先後関係〕 南西部上端がより古期の溝状遺構(未精査)を切っている。また、中央上部を新期ピット(1層)に、西端部を新期ピット(時期不明)に切られている。

③ 溝 跡

78 SD1 (図12)

〔位置・検出状況・精査方法〕 調査区北端部、75-97グリッド付近において、21SD1埋土を横断し概ね東-西方向に走行する帯状の暗褐色土範囲として検出した。検出面は後世の開田または宅地化に伴う削平面である。75-97グリッド南西部で21SD1外岸側からその内部へ向かって交差し、弧状に湾曲して北西-南東方向に向きを変えつつ21SD1閉塞部の上部を走行する。さらに77-99グリッドで21SD1内岸の外側に並走するように延伸し、同グリッド南東部で21SD1上部に重複する新期掘り込みに分岐・連続する状況が観察される。精査は調査区北端部75-97グリッドのみを完掘し、他は部分的な小トレンチによる確認にとどめた。

〔規模・形状〕 調査区北端部から21SD1内岸沿いに並走して溝状を呈する部分の全長は19m強で、最も良好に残存する21SD1-78T3断面付近では、上端幅175cm前後、残存深度85cmを測る。完掘した75-97グリッド付近では、下部は幅30cmほどの平坦な底面から両壁が短く直立して箱形を呈し、壁面中部から上部にかけてはやや大きく外傾して立ち上がり、全体が薬研状の形態を成している。分岐先の凹地内(21SD1-78T1と21SD1閉塞部との間)では明瞭な掘り込みは認められず、低位部に流入・堆積した状況を示している。

底面標高に着目すると、調査区北部西端で23.2m、同東端・断面a-a'付近で23.3m、21SD1-78T3との交点で23.5mと、北西側に向かって低くなっている。また凹地内では、分岐点からごく緩い傾斜で下り、21SD1-78T1付近で23.3mとなっている。このことから、21SD1内岸側の高位面から、調査区北西側の猫間が淵低位面方向、及び21SD1閉塞部南側の凹地へ向けた導水(排水)が意図された可能性がある。

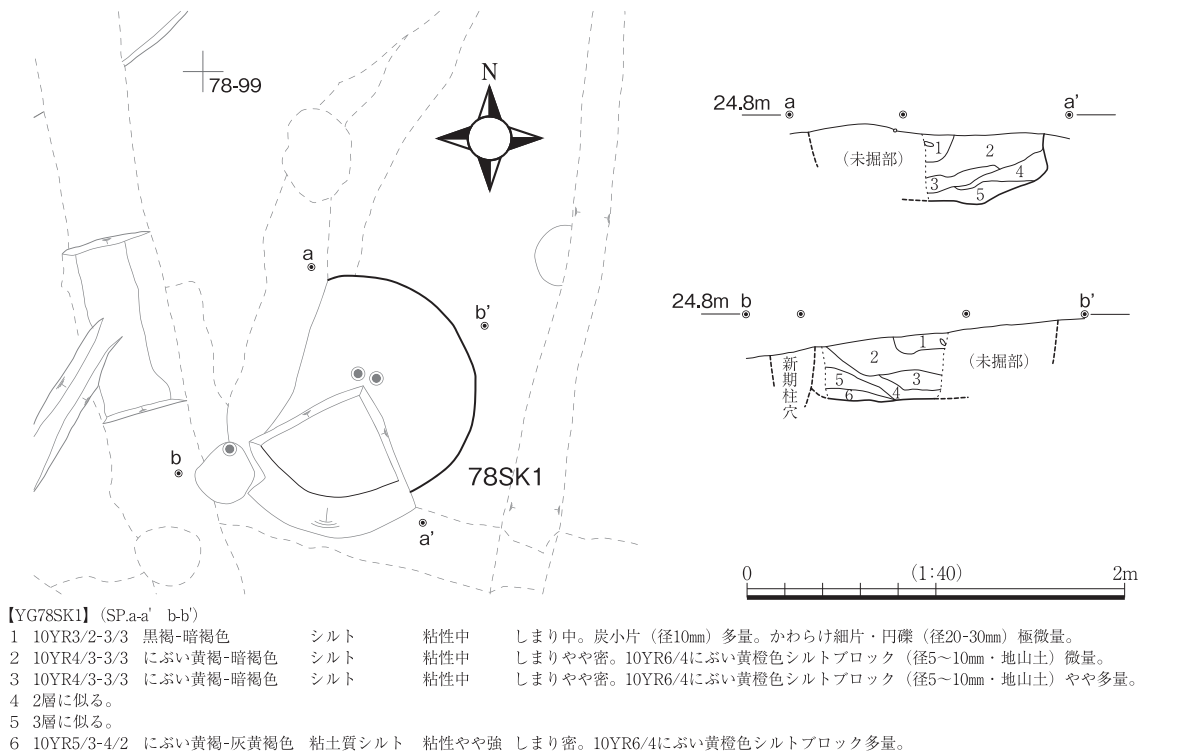
〔埋土・堆積状況〕 埋土の主体はにぶい黄褐色土～暗褐色土である。地山土ブロックで構成される21SD1閉塞部と重複する範囲ではやや明るい土色を呈し、一方、分岐して同閉塞部南側の凹地と重複する部分では黒味を強めている。各地点における壁面構成層からの流入土が埋土の主体を成すためであろう。

埋土中部には径5～20cmの礫の集中が認められた。この礫の分布は分岐先の凹地内においても21SD1埋土上部攪乱層(21SD1-78T1:5層)の下位に連続している。21SD1-78T1:6～15層(図5)が本遺構の埋土に相当する。これらの礫群は、いわゆる「暗渠」に伴うものに類似するが、礫間に空隙や酸化鉄の集積等は認められず、礫群上位の埋没後にその機能を果たし得たかは疑わしい。下部の堆積が一定程度進んだ段階に遺構内に入り、その後再び上位を自然流入層に覆われていることから、むしろ道路等、周辺構造物からの二次的な転落による可能性が高いと思われるが、本来の構築面は後世の削平で失われており、礫群の由来については不明とせざるを得ない。

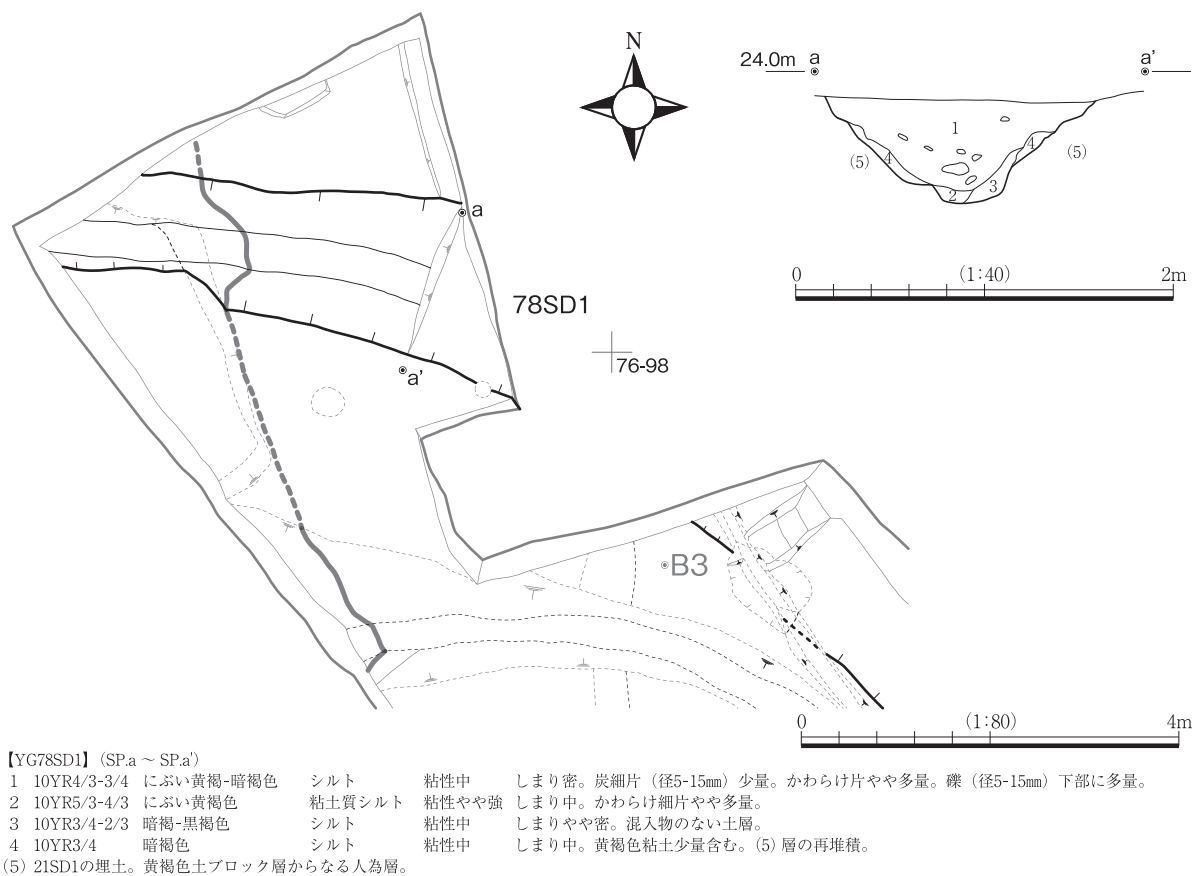
なお、埋土にはかわらけ片を主体とする比較的多量の12世紀遺物が含まれていたが、これらは他の挟雑物と共に土層中に混在するものであり層界への集中は見られなかった。よって周辺の地表や堆積層に含まれる遺物が、二次的に遺構内部に堆積したものと考えられる。

〔重複・先後関係〕 21SD1閉塞部の構成土層を切り、上部を後世の攪乱層下面に切られている。

(村上)



78SK1



78SD1

図12 78SK1・78SD1 平面・断面図

(3) 出土遺物

出土遺物は総重量のうち、かわらけが337,200.7gと最も多く、次いで陶磁器類が9,082.9gと多い。陶磁器類は国産陶器が8,960.2gで、輸入陶磁器は122.7g出土している。この他に瓦が1,696.8g、このほか、木製品や時期不明の金属品類などがある。

今回の調査区内では、近世以降の表土及び盛土層を除去した直下で遺構検出面にあたる土層が確認される範囲が多く、遺構検出面において出土した遺物も多くは遺構の平面プラン内からの出土である。これらも含めて、攪乱の土層や12世紀以降の水田に由来する土層からの出土遺物が多い。21SD2が位置する南側の調査区では、表土を除去した直下に遺構検出面にあたる土層が確認された範囲が多いが、一部に12世紀以降の包含層等の出土資料もある。掲載した資料は図示可能なものだが、遺構精査時に設定したトレンチからの出土資料である。それ以外の多くは形状の復元できない資料で、細片も多く遺跡機能時以降に堆積した資料である。

なお、かわらけは概ね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（大宰府市教育委員会2000）を参考にしている。

表6 78次調査出土遺物数量表

		かわらけ	国産陶器	輸入陶磁器	瓦
21SD1	T1	173,161.6	4,250.6	46.8	872.2
	T2	85,399.4	1,921.3	30.1	486.0
	T3	4,609.0	130.7	17.1	27.6
	検出面等	2,371.6	227.1	14.3	207.5
21SD2	T5	401.0	0.0	0.2	
	検出面等	845.1	0.0		
78SD1		28,728.4	812.5	5.7	84.2
78SK1		71.0	0.0		
表土・カクラン	73-102	545.8			
	73-102・103	27.5			
	74-102		6.8		
	74-103	183.9	128.0	1.7	
	75-97	4,350.5			
	75-99	63.0			
	76-98	3,472.9	47.8		
	76-99	2,089.4	166.2		
	77-99	14,506.7	241.2	2.4	
	78-99	1,228.6			
	78-100	31.7	5.5		
	78-100・101	400.5			
	79-99	26.4	1.2		
	77・78-99	96.0			
	95-97		111.2		
その他	14,590.7	910.1	4.4	19.3	
合計		337,200.7	8,960.2	122.7	1,696.8

① 土器・陶磁器類

21SD1出土遺物（図13～22）

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが265,541.6g、国産陶器が6,529.7g、輸入陶磁器が108.3g出土しており、このうちかわらけ218点、国産陶器158点、輸入陶磁

器16点を図示した(1~392)。ただし、出土資料全体のうちの多くは検出面や上層の12世紀以降の堆積とみられる上層からの出土である。中層以上の資料は12世紀代の遺跡廃絶後の堆積とみられ、遺物の多くも遺跡が廃絶した前後からの自然の流入とみられる。以下では、トレンチごとに出土資料のうち図示したものの特徴を中心に基本的に下層から記述する。

78T1出土土器類(図12~18)

1~5・130・230は25層からの出土遺物である。25層は厚い人為堆積土の下層にあたる自然堆積土層である。1・2はロクロかわらけの大皿、3は手づくねかわらけの小皿、4・5は手づくねかわらけの大皿である。2は打ち欠きの可能性がある。4は内面に漆が付着する。5は内面に墨書が確認できるが、線が1条のみで本来の墨書は不明である。130は常滑産の甕類体部である。230は25層出土の白磁壺類の体部片である。

6~12は20層からの出土遺物である。20層は自然堆積の土層で、遺物がまとまって出土している。6はロクロかわらけの小皿、7はロクロかわらけの大皿である。小皿はやや口径の大きい器形だが、7は器高の低い皿形に近い器形をとる。8は手づくねかわらけの小皿、9~12は手づくねかわらけの大皿である。11は比較的口径と器高の大きい大型の器形だが、それ以外は口径14cm以下の器形で口径が小さい特徴である。

13~24は18層からの出土遺物である。人為層の上層に堆積した自然堆積土層で、遺物が集中して出土している。13はロクロかわらけの大皿である。器高が4cmを超える比較的高い器形をとる。14~18は手づくねかわらけの小皿、19~24は手づくねかわらけの大皿である。小皿は口径が9cm前後にまとまる。大皿は19は口径が15.3cmと大型の器形で体部外面のナデ調整も2段に行われる。20~24は口径14cm以内の器形が多い。なお、ここまでの土層からはかわらけ類は一定量出土するものの陶器類はきわめて少ない。

25~45・131・132・231~234は17b層からの出土遺物である。17b層は自然堆積土で12世紀以降の流入と見られる。26・27はロクロかわらけの大皿である。25は端部が打ち欠きの可能性がある。28~32は手づくねかわらけの小皿、33~45は手づくねかわらけの大皿である。231は青磁壺類の頸部片、232は青磁碗類の口縁部片である。いずれも龍泉窯系青磁である。233は中国陶器の壺類の体部、234は白磁碗類の口縁部である。手づくねかわらけの大皿は口径が14cm以下と小さい器形が多くを占め、一部に口径14cmを超える器形の資料が少量含まれる。この特徴は12世紀代でも後半の傾向と捉えられる。131・132は渥美産陶器である。

46~126は16a層からの出土遺物である。16a層は21SD1の遺構埋土としては上位の堆積で、自然堆積土層である。46~52はロクロかわらけの小皿、53~57はロクロかわらけの大皿である。48は底部がやや高く高台状になる。大皿は器形の全体が把握できる資料は少なく、立ち上がりの形状などからはいずれも器高が高い資料ではなく皿状の器形をとる資料とみられる。57~74は手づくねかわらけの小皿、75~116・119~121は手づくねかわらけの大皿である。小皿では外面のナデなどの調整が精緻なものも含まれるが、いずれも小形の器形をとる。大皿は多くは口径14cm以下の資料で、さらに口径13cm以下の小形の器形が多数を占める。口径が比較的大きい資料でも器高が低く、皿形の器形である。122・123は内面に墨書が確認できるが、いずれも文字などの判読できるものではない。124~126は内折れかわらけである。133~146は16a層出土の国産陶器類で、甕類の体部片が多い。格子文や縦長格子文の押印をもつ資料がある。129は柱状高台の高台部で、上層からの出土資料である。

147~154は6~15層出土の、155~229は5層以上出土の国産陶器類である。これらは21SD1の本来の埋土より上層にあたり、新期の遺構の堆積もしくはそれ以降に堆積した土層とみられる。多くは甕

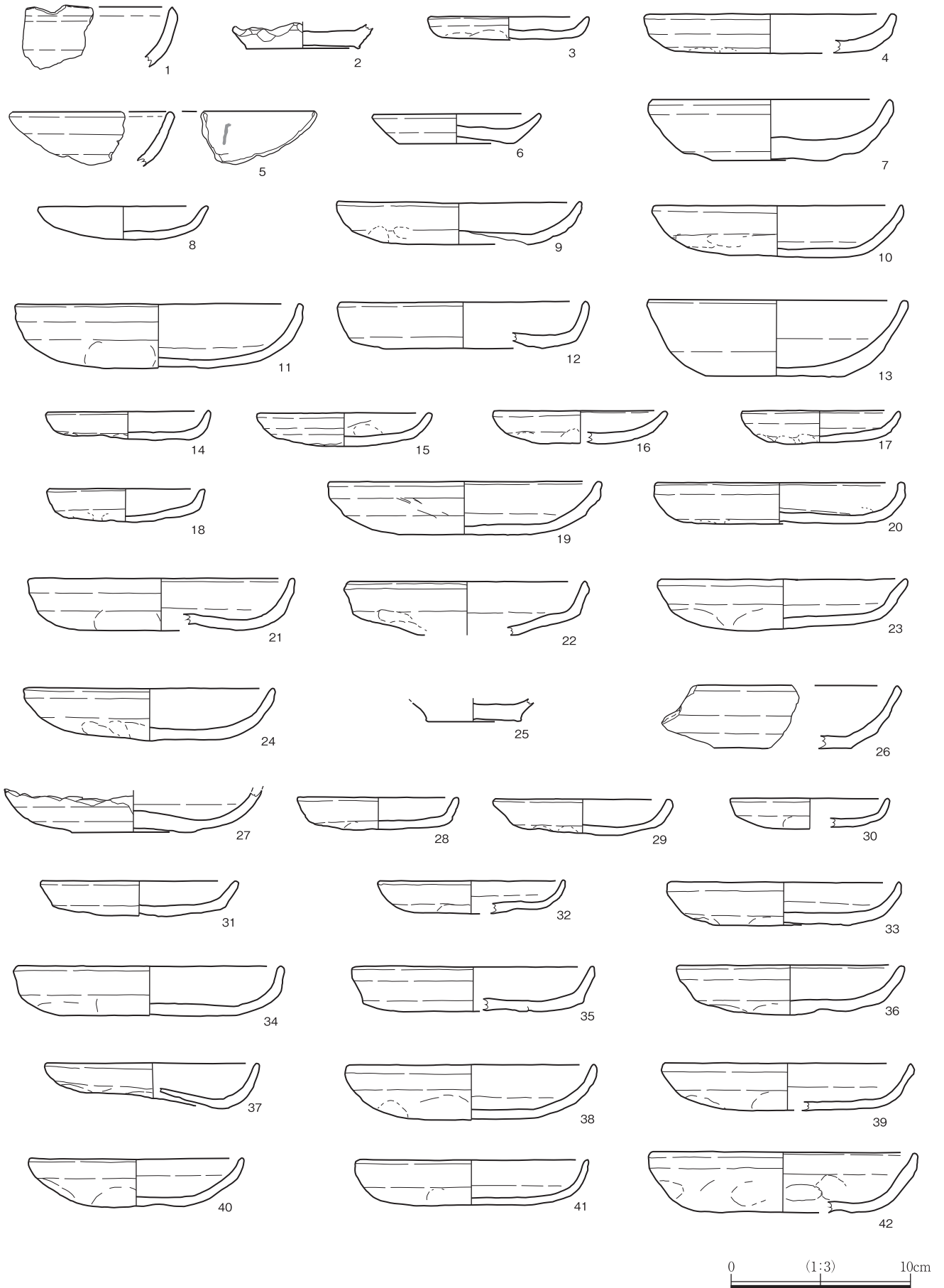


図13 21SD1 出土土器類実測図1

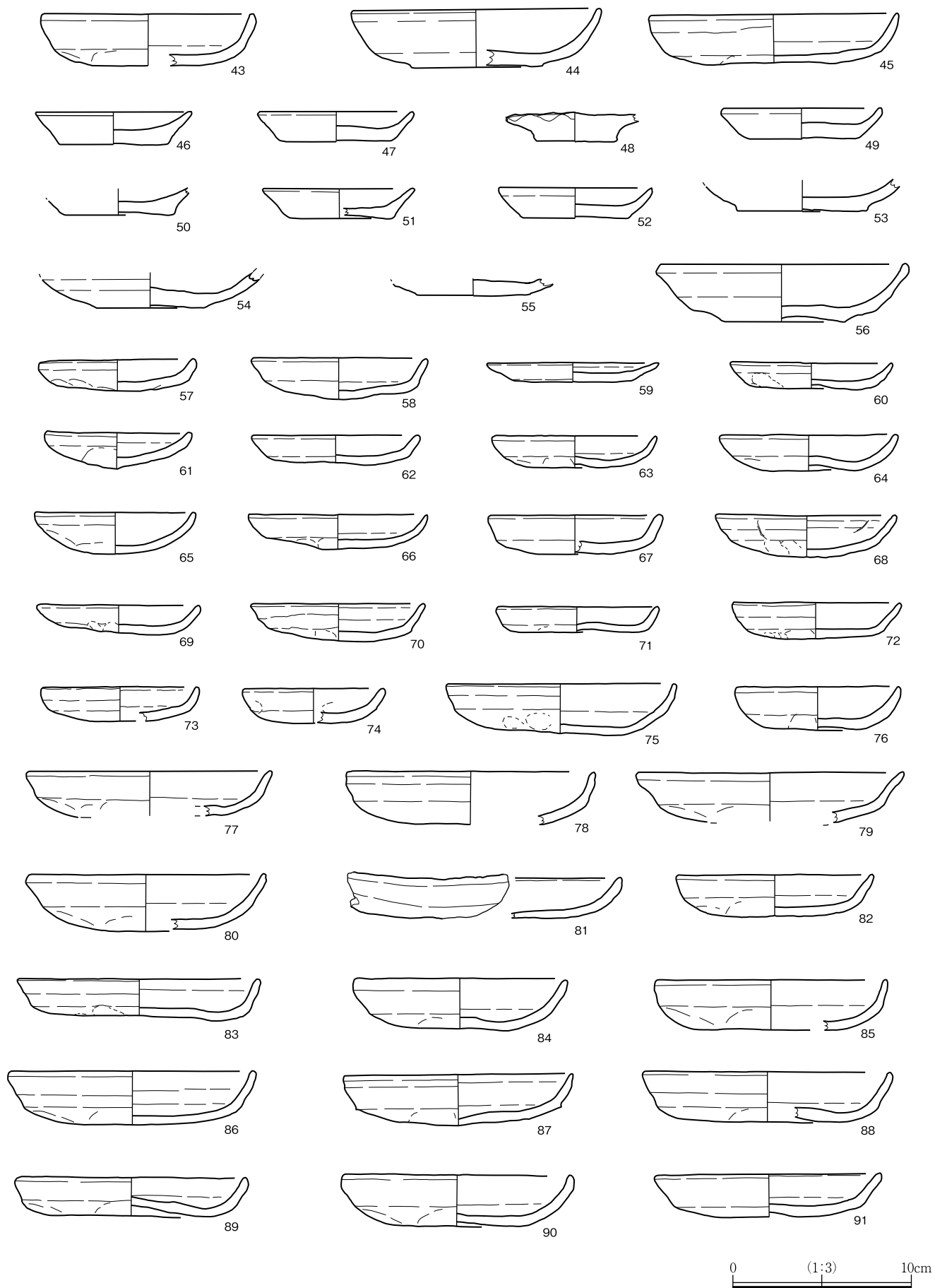


図14 21SD1 出土土器類実測図 2

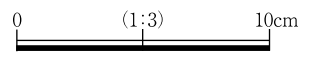
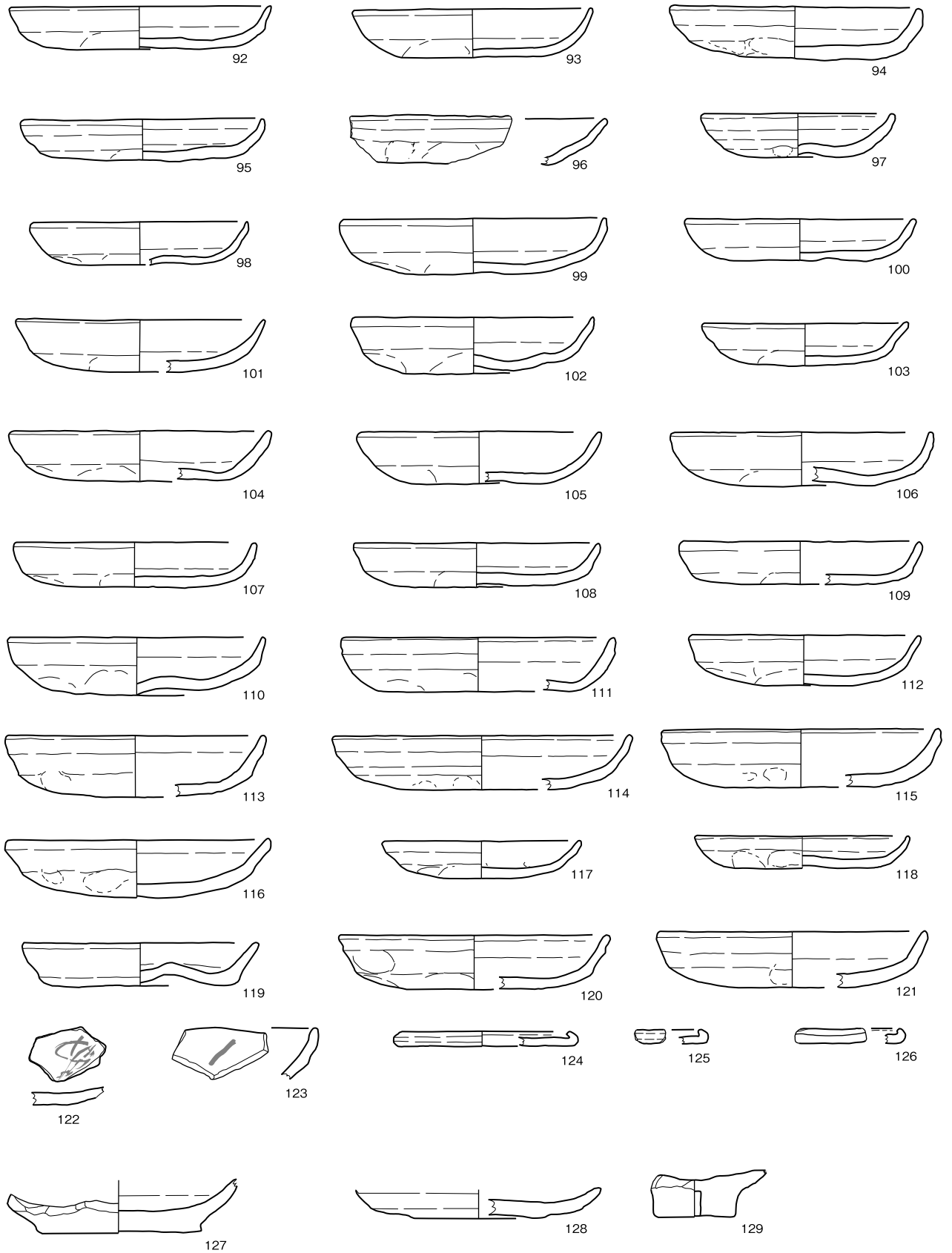
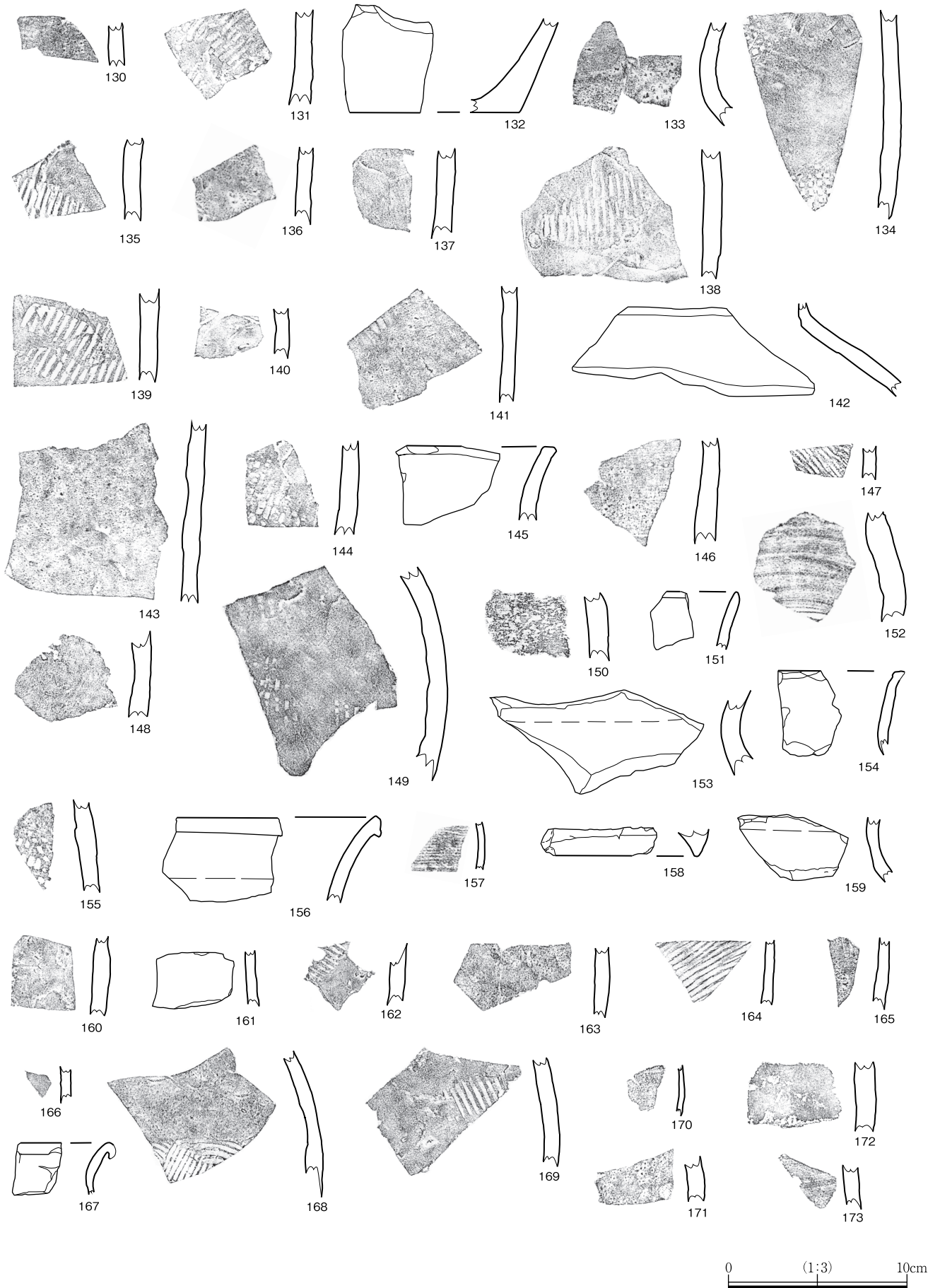


図15 21SD1 出土土器類実測図3



0 (1:3) 10cm

図16 21SD1 出土土器類実測図 4



0 (1:3) 10cm

図17 21SD1 出土土器類実測図5

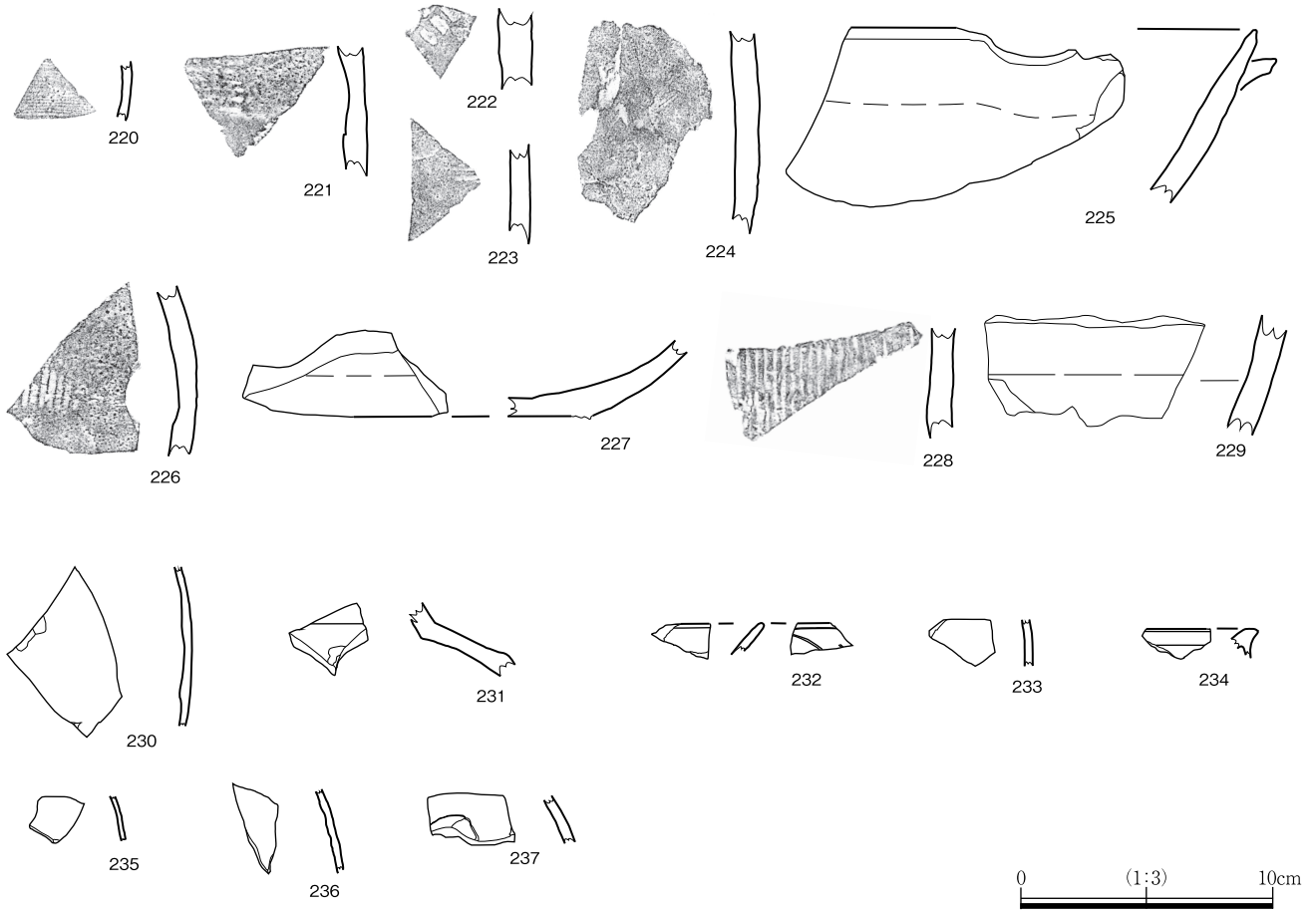


図18 21SD1 出土土器類実測図6

類の体部片で、片口鉢や碗類が少量含まれる。体部の文様は格子文や縦長格子文の押印が多い。187は菱形文、189は格子文を基本に、格子にXが描かれた文様をもつ。225は下層の22～28層出土片を含む、片口鉢である。227は片口鉢の体部下半で、内面は摩耗が著しく黒色の付着物が確認できる。235は中国陶器壺類の体部片、236は白磁壺類の体部片、237は白磁四耳壺の体部片で耳部が一部残存する。

78T2出土土器類 (図19～21)

238～247・312・313は11・12層出土資料である。11・12層は新旧関係をもつ2つの人為堆積土の間層にあたる。これらの構築時期を示唆する資料であろう。238～240はロクロかわらけの小皿、241・242はロクロかわらけの大皿である。大皿はいずれも器高が低い、皿形の器形である。243・244は手づくねかわらけの小皿、245～247は手づくねかわらけの大皿である。大皿は247はやや大型の口径だが、いずれも14cm前後以下の小型の器形とみなせる資料である。312・313は国産陶器で甕類の体部片である。

248～292・359は7層出土資料である。7層は遺物がまとまって出土し、遺構廃絶に近い時期の堆積の可能性がある。248はロクロかわらけの小皿、249～252はロクロかわらけの大皿である。254～263は手づくねかわらけの小皿、264～291は手づくねかわらけの大皿である。小皿はいずれも口径、器高は一定のまとまりを示す。大皿は267・270・288のように口径が15cmを超える資料も含まれるものの、多くは口径14cm以下の小形の器形である。器高も低い資料が多く、全体に皿形の器形を基本とする。292は内折れかわらけである。359は青磁碗類の口縁部で、龍泉窯系青磁である。

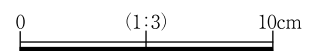
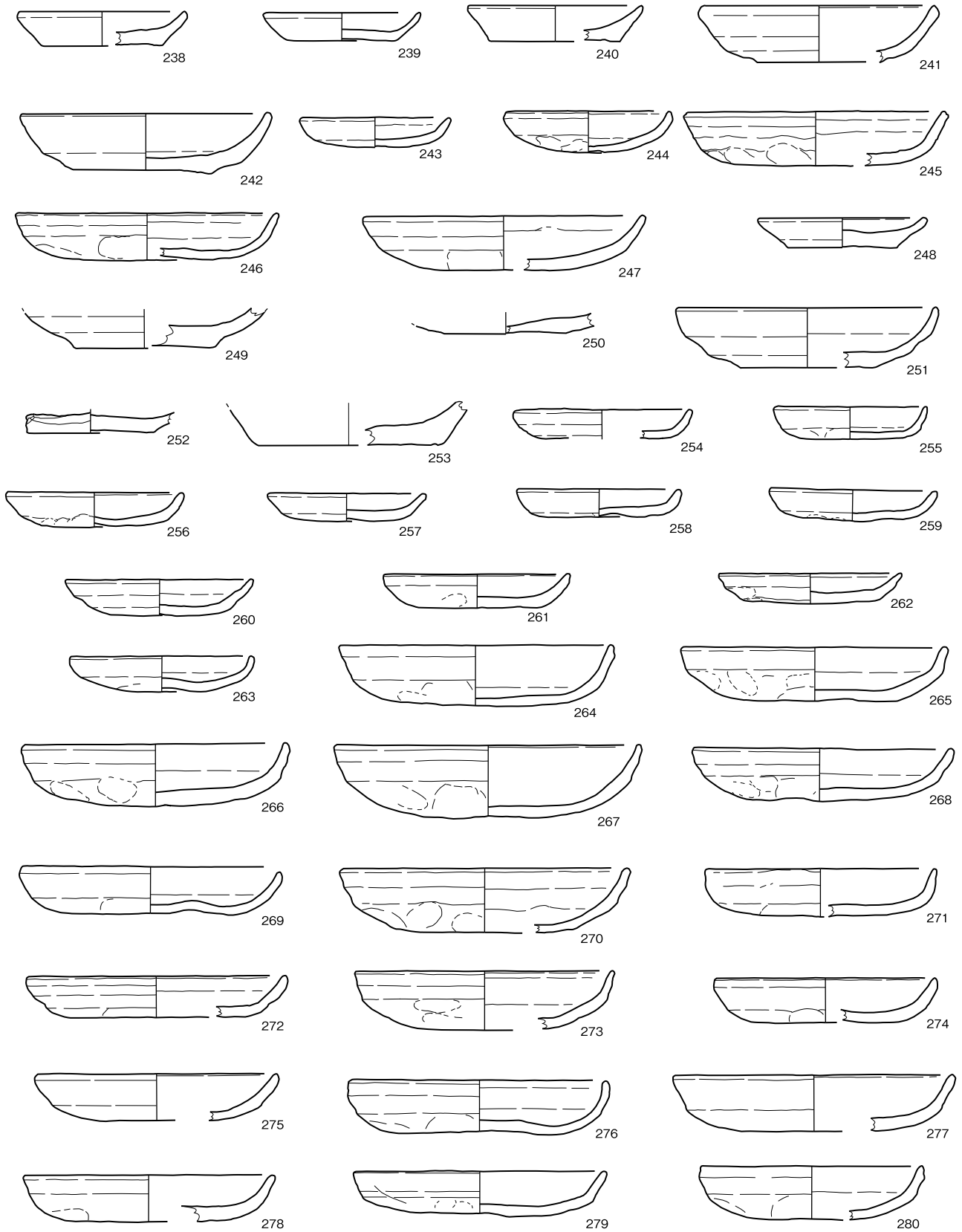


図19 21SD1 出土土器類実測図7

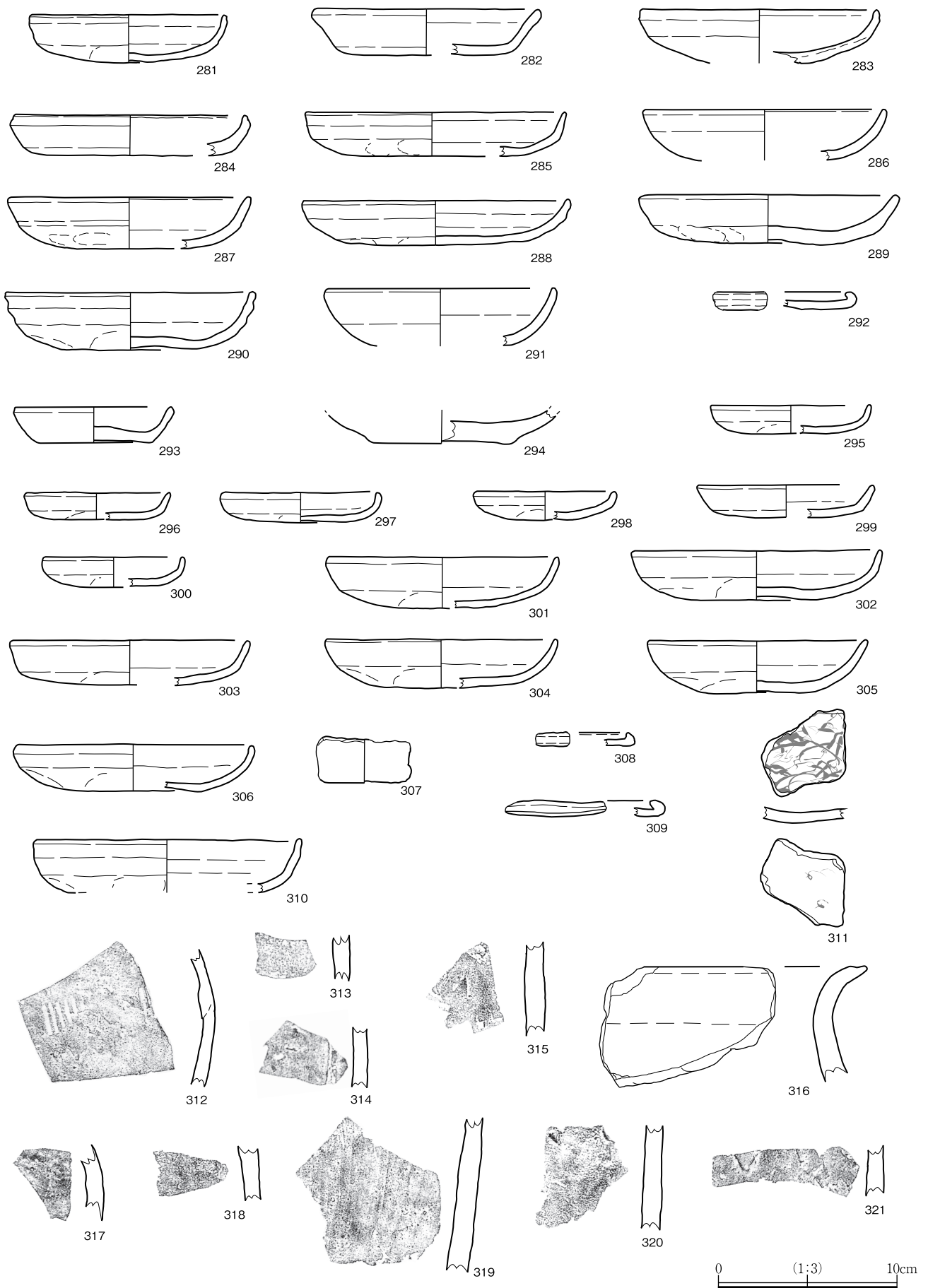


図20 21SD1 出土土器類実測図 8

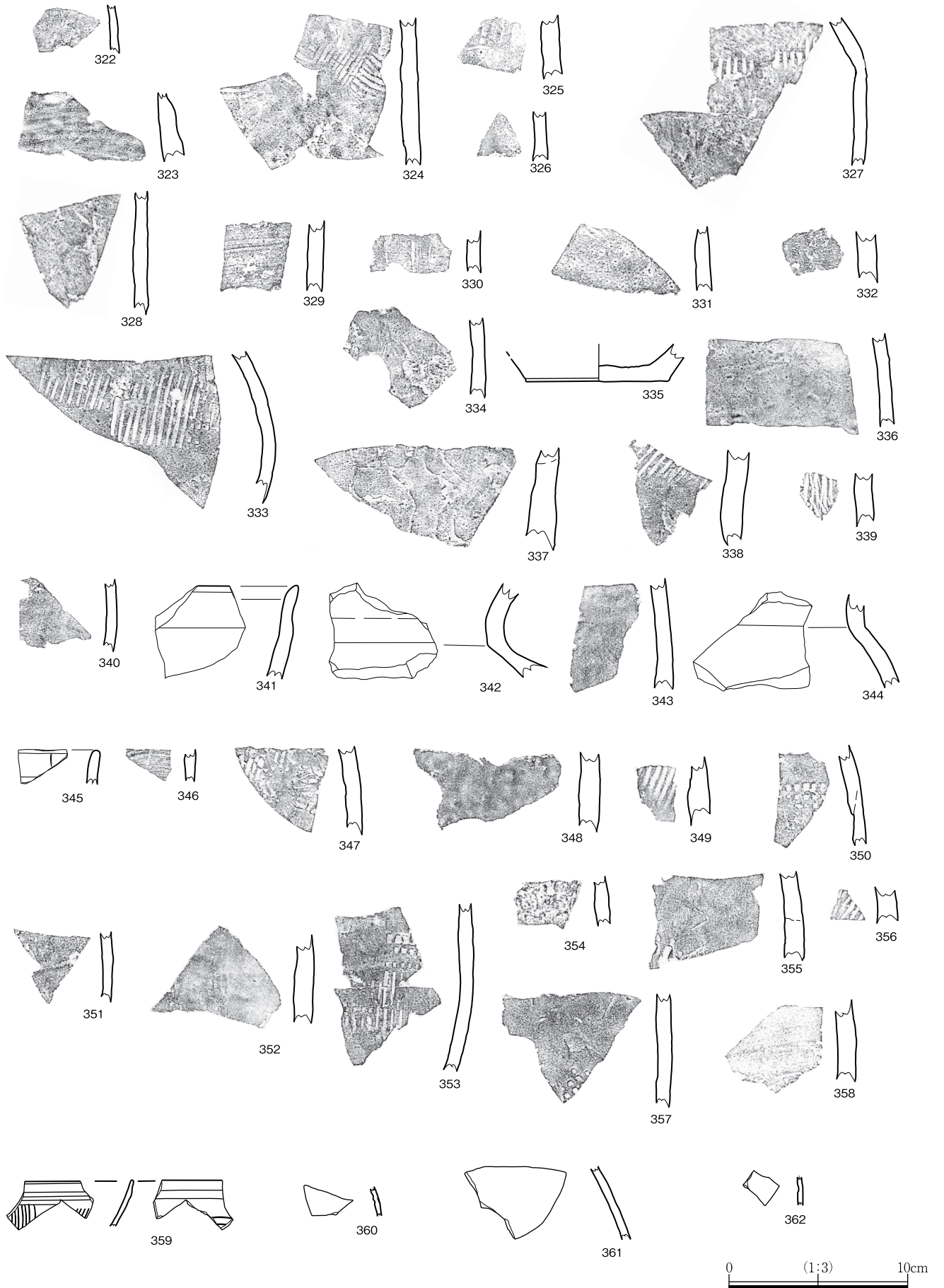
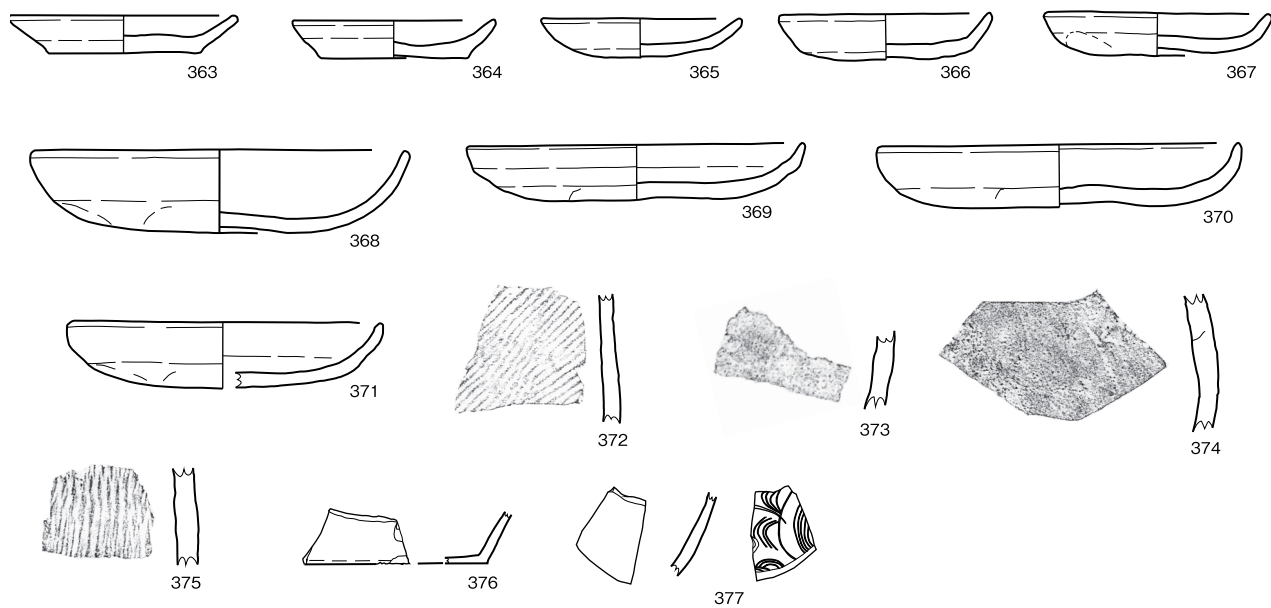


図21 21SD1 出土土器類実測図9



T3

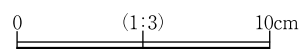
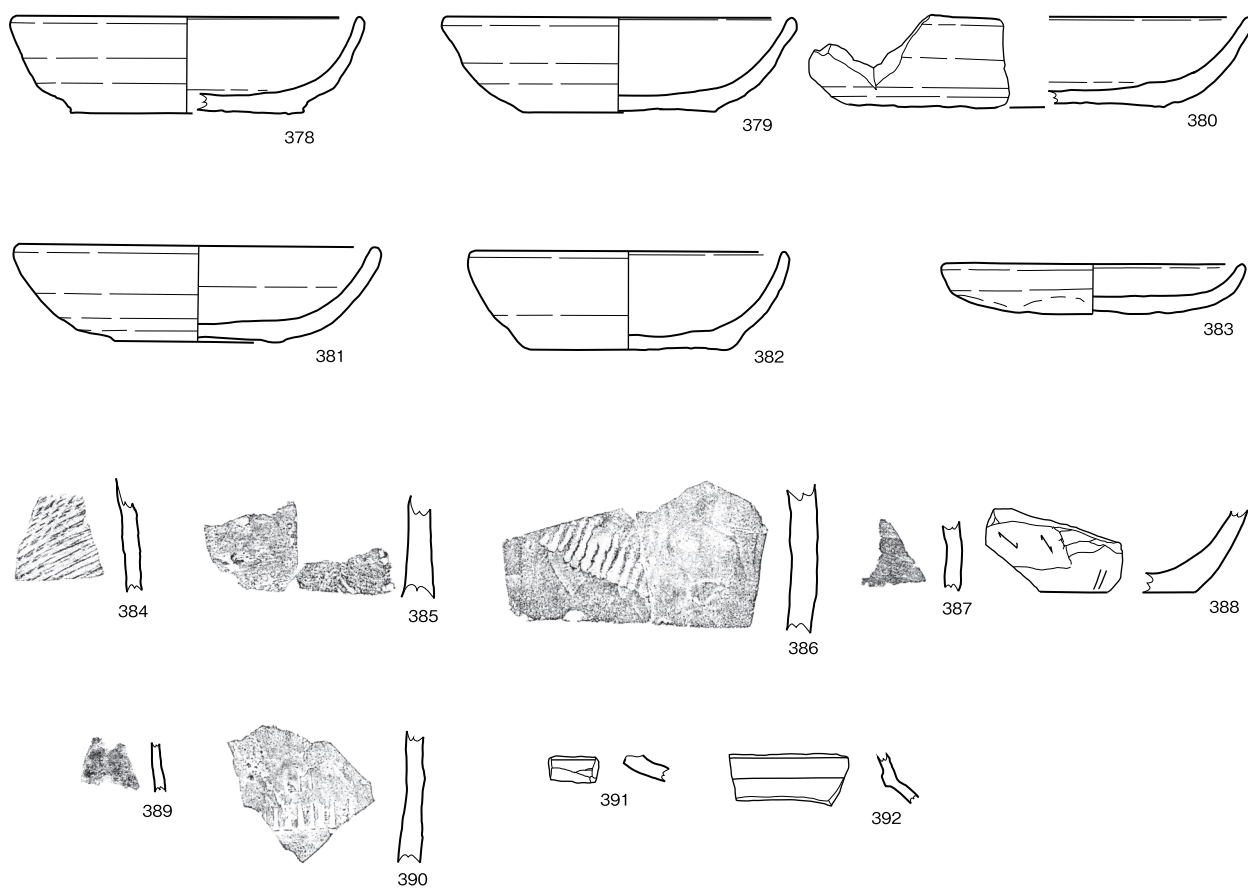


図22 21SD1 出土土器類実測図10

293～311・314～358・360～362は2～4層の上層出土の資料である。これらは21SD1堀跡より新期の遺構埋土等に当たる土層である。293はロクロかわらけの小皿、294はロクロかわらけの大皿である。295～300は手づくねかわらけの小皿、301～306は手づくねかわらけの大皿である。307は柱状高台の台部片、308・309は内折れかわらけである。311は内外面に細い筆跡の墨書がある。内面は乱雑に、外面は平仮名の「め」とみられる。314～358は国産陶器類である。多くは甕類の体部片だが、口縁部や頸部片も少量含まれるほか、片口鉢等もある。文様は格子文や縦長格子文が多いが、両者が組み合うものや(353)、縦長格子文が組み合うものもある(324)。360～362は白磁壺類の体部片である。

78T3出土土器類 (図22)

363・364はロクロかわらけの小皿、365～367は手づくねかわらけの小皿、368～371は手づくねかわらけの大皿である。363・367・371は19層下面からの出土である。これらは厚い人為堆積層の下層の自然堆積層で、21SD1堀跡の堀としての機能時の資料とみられる。372～375は国産陶器で、甕類の体部片である。376は中国陶器壺類の底部片、377は龍泉窯系の青磁椀である。内面には櫛描きの文様が描かれる。

378～392は21SD1の周辺からの出土である。384～390は国産陶器類、391・392は白磁の水注類の頸部片とみられる。

最後に21SD1の出土資料の様相をまとめると、出土資料の多くは上層からの資料だが、図示した資料は遺構の機能時に関連するとみられる土層からの出土遺物を抽出した。21SD1の遺構埋土にあたる土層からの出土資料も土器類の特徴からは12世紀後半代にあたる。出土資料全体の傾向からは、ロクロかわらけと手づくねかわらけのうち、いずれの土層からの資料も手づくねかわらけの資料が多く、ロクロかわらけが少ない。また、ロクロかわらけと手づくねかわらけのいずれの種別も、器形の特徴は12世紀後半代と考えられる資料が多く、それ以前の特徴をもつ資料は散見されるものの極めて少ない。資料全体の特徴からは遺構の年代を大きくは12世紀後半にみることができる。

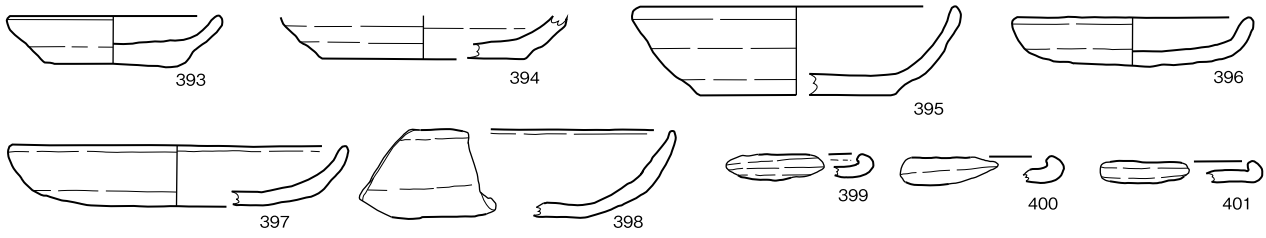
21SD2出土遺物 (図23)

21SD2は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみで、かわらけが1,246.1g出土しており、このうちかわらけ6点を図示した(393～398)。図示した資料はいずれも上層部分からの出土で、21SD2の出土資料は構築時や掘り直し時点までの遺物は少なく、かわらけでも器形が復元できる資料は少ない。特に機能時に関わるとみられる土層からの出土遺物は手づくね、ロクロのいずれとも小皿のため、時期の特定は難しい。また、これらも構築時に近い資料ではない。393はロクロかわらけの小皿、394・395はロクロかわらけの大皿である。396は手づくねかわらけの小皿、397・398は手づくねかわらけの大皿である。

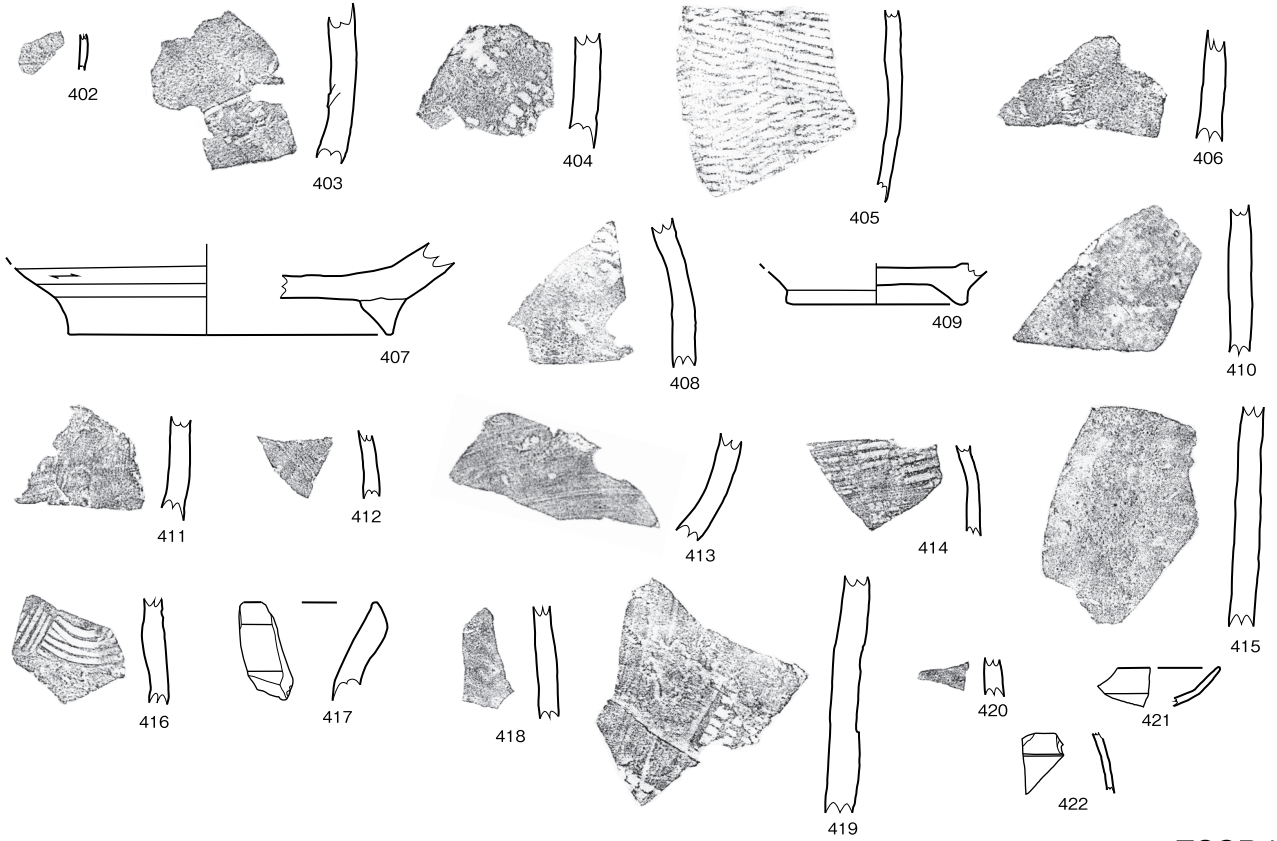
いずれの資料も上層からの出土資料で、21SD2の掘削や機能時に直接関連する資料とはみなしえない。時期を明確にする資料は得られていないが、21SD2の堆積土層からの出土資料の寡少さは、遺跡の他の地点とも同様の傾向である。

78SD1及びその他遺構外出土遺物 (図23・24)

78SD1はかわらけ3点、国産陶器19点、輸入陶磁器類2点を図示した(399～422)。399～401は内折れかわらけである。402～420は国産陶器類で甕類等の体部片が多い。407は片口鉢の、409は山茶碗類の底部片である。413は片口鉢等の体部片である。408は押印が明瞭ではないが、楕円形の文様の可



21SD2



78SD1

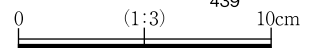
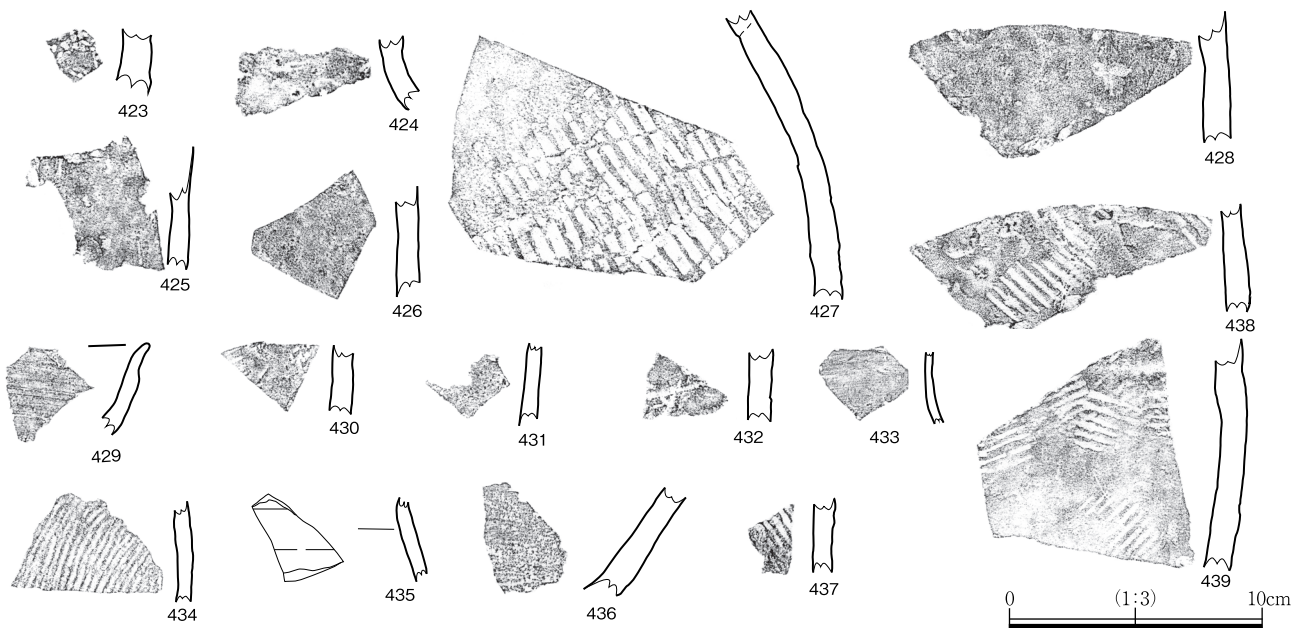


図23 21SD2 その他遺構出土土器類実測図1

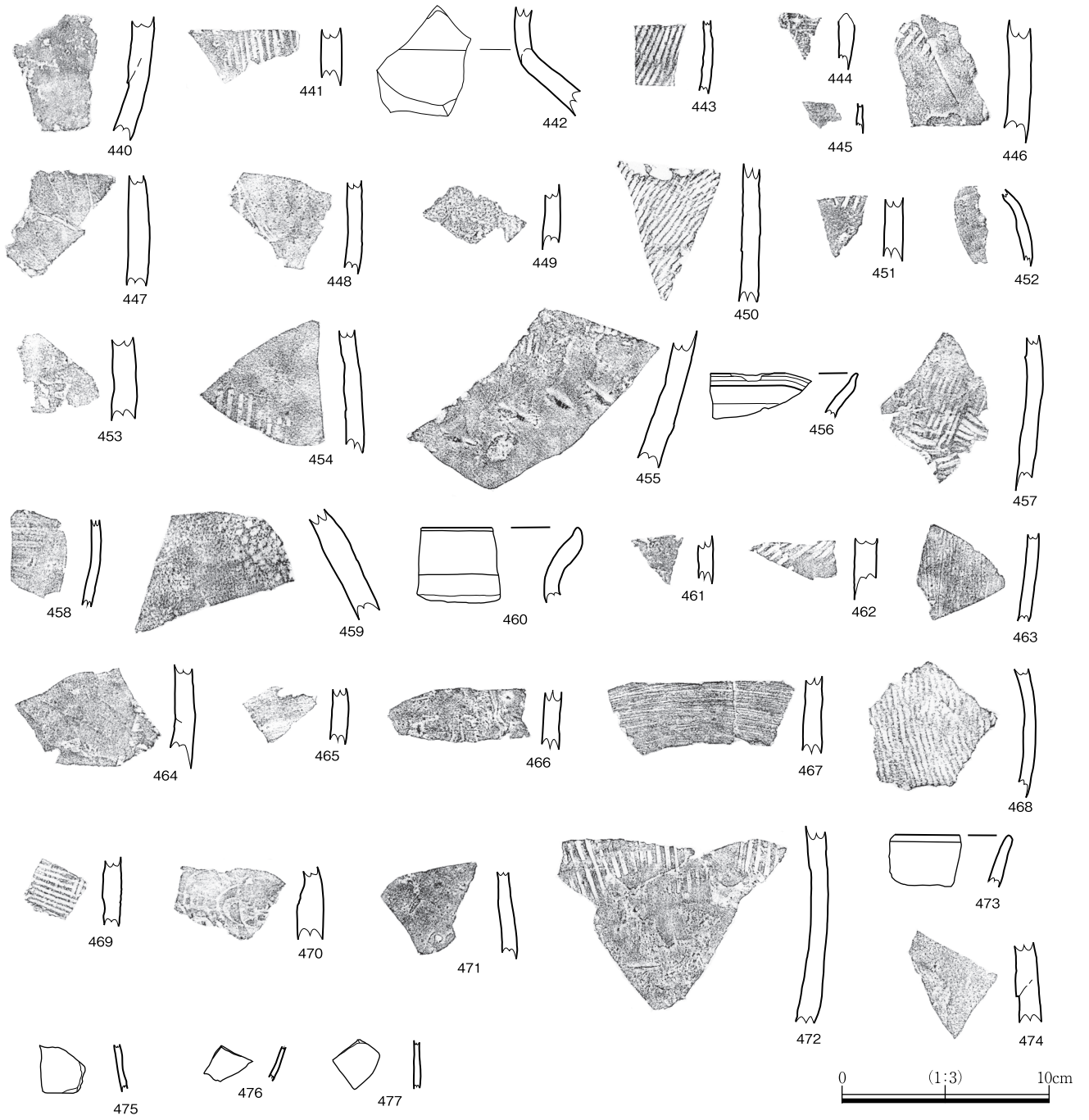


図24 21SD2 その他遺構出土土器類実測図 2



図25 出土遺物実測図 (瓦)

能性がある。416は円形と縦長格子文の押印である。多くは縦長格子文などの文様である。421は白磁碗類の口縁部片、422は白磁壺類の体部片である。

遺構外からの出土遺物は国産陶器類52点、輸入陶磁器類3点を図示した(423~477)。多くは甕類の体部片である。470は小片のため押印の全形は判別できないが、楕円形の文様で、花文等の可能性もある。475~477は輸入陶磁器類で、475は白磁壺類、476は青白磁碗類、477は白磁壺類の体部片である。

② 木製品(図26~31)

木製品はいずれも21SD1堀跡からの出土だが、出土量は少ない。加工痕跡のある資料を中心に図示したが、製品としての全体の形状や機能が判明する資料は少ない。

478~500は21SD1-78T1からの出土で、いずれも16a層からの出土である。加工痕跡が表裏面もしくは端部にあるものの、形状などからは部材等が多いとみられる。478は大型の部材とみられる。479・480は形代とみられる。482は表裏両面が平坦に加工されている。484は端部に焦げがみられ、表面が平坦に加工される。

501~655は21SD1-78T2からの出土である。501は12層からの出土で、漆碗である。外面は黒漆、内面は朱漆である。朱漆の資料は平泉では事例が少ないが、柳之御所遺跡出土資料でも小形の碗類に少数みられ、本資料は体部上半が欠損しているが同様のものとみられる。502~528は11・12層からの出土で、いずれも加工痕跡が確認できるが製品と確定できるものはない。502・503・506・507は厚みがある木片で、片面もしくは両面が整形加工されており、何らかの部材等として利用されたとみられる。この他、523・525など端部がケズリなどで加工された資料も部材片とみられる。その他、加工木材が多い。

529~655は7層からの出土である。529は墨書が確認できる。平仮名などの文字の可能性もあるが、残存が少なく確定できない。片側は欠損している。折敷片の可能性があろう。530は大型の加工木材で、表面にケズリの痕跡が残る。532は方形の部材である。535は端部に切り込みが複数入る。536は円形の部材である。543~546は大型の木片で、厚さは薄いものの折敷のような小型品とは形状が異なる。何らかの部材片とみられるが、確定できない。548は円形に加工された部材である。小型製品の一部とみられるが、判別できない。553は断面方形の木製品である。556は中央に抉りがあり、断面が三角形の部材である。560は将棋駒である。「歩兵」「と」の墨書が確認できる。なお、「歩」の墨書の上部にもそれとは独立して2条の縦線の墨書があり、製品生産時の痕跡とみることができれば注目できる。565は漆碗で内外面に黒漆がみられる。高台部の底部外面にも漆が塗布されている。568は大型の部材で、湾曲して内面には加工痕が明瞭に観察できる。

なお、この他に図示できていないが漆碗の細片や漆膜部分が出土している。

③ その他の遺物

瓦はいずれも小破片のため、瓦当面が確認できる軒平瓦1点のみ図示した(図25-656)。唐草文系の瓦当文様で、遺跡内では比較的古相の可能性をもつ。そのほかいずれも小破片が多く、51点の出土で、総重量は1,696.8gである。

軒瓦も剣頭文系の既知の文様をもつものである。また、この他に平瓦、丸瓦片が出土しており、これらは表・写真に掲載した。平瓦、丸瓦はこれまで遺跡内で確認されている資料と同様のものである。平瓦は多くは凸面にタタキ目、凹面に布目痕をもつ。丸瓦は凸面ナデ、凹面に布目痕をもつ。図示した唐草文系の文様の資料を除いて、文様や整形、焼成の特徴は12世紀後半とみなされてきた資料と同様である。

(櫻井)

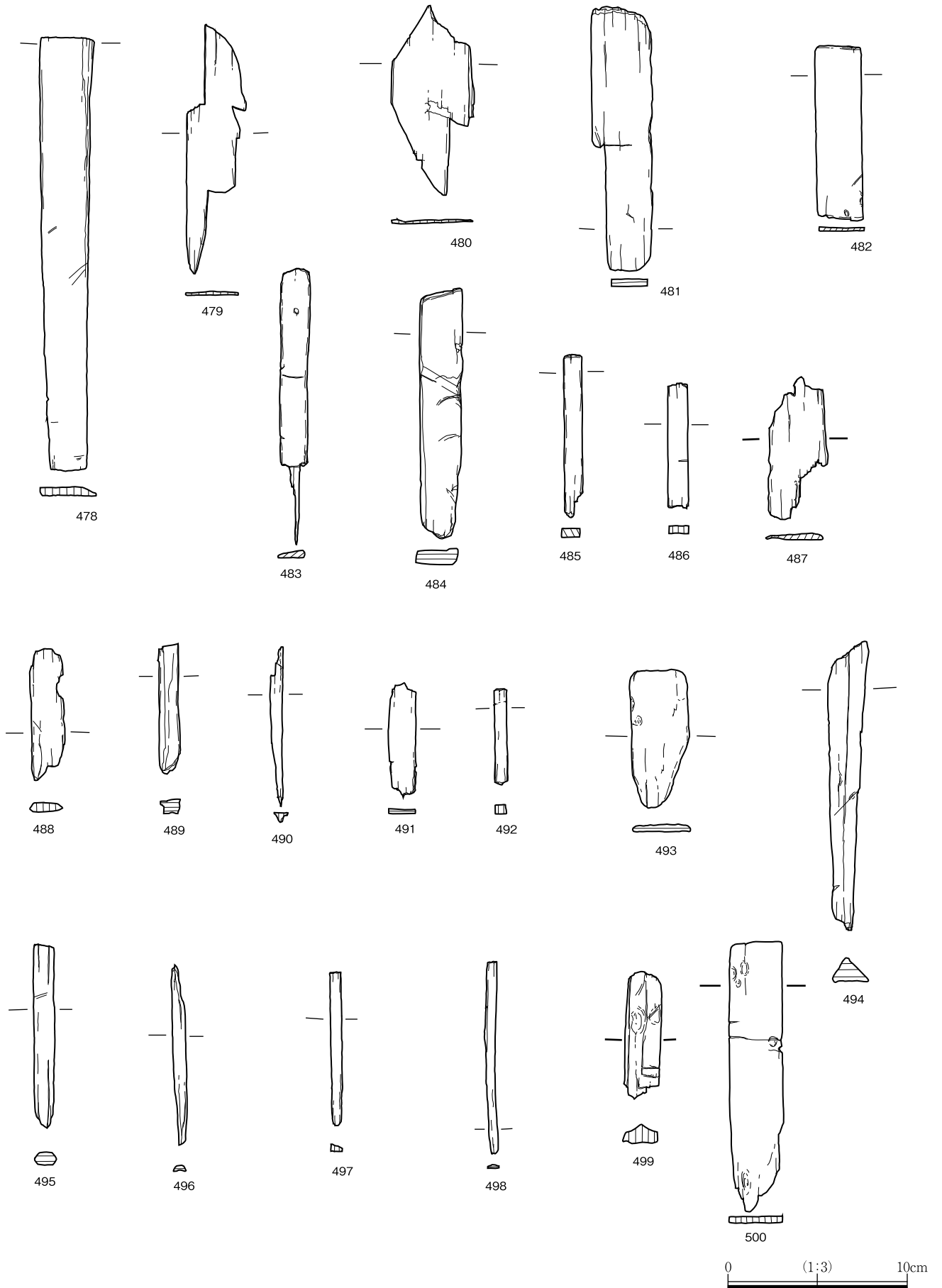


図26 21SD1 出土木製品類実測図1

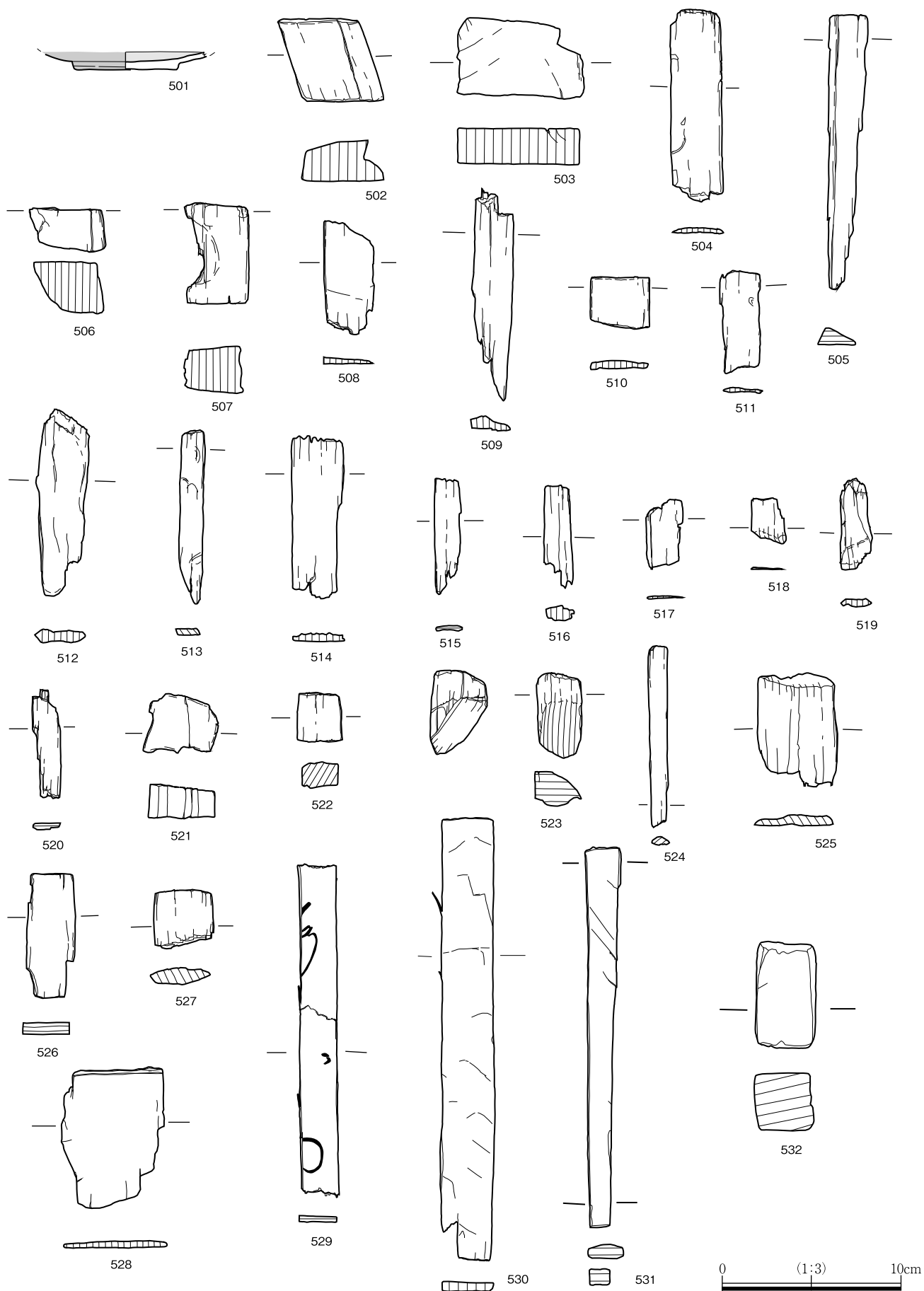


図27 21SD1 出土木製品類実測図 2

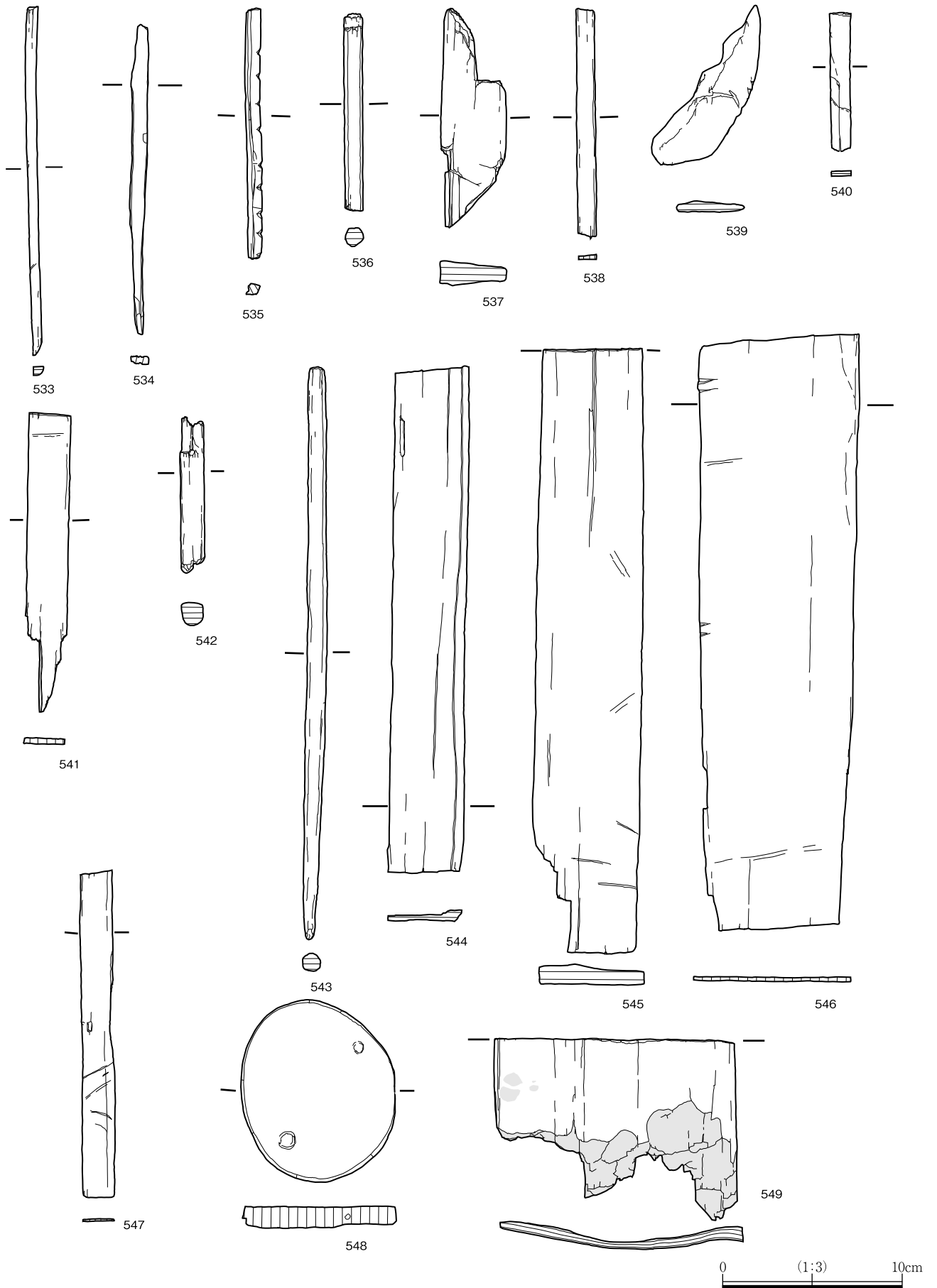


図28 21SD1 出土木製品類実測図 3

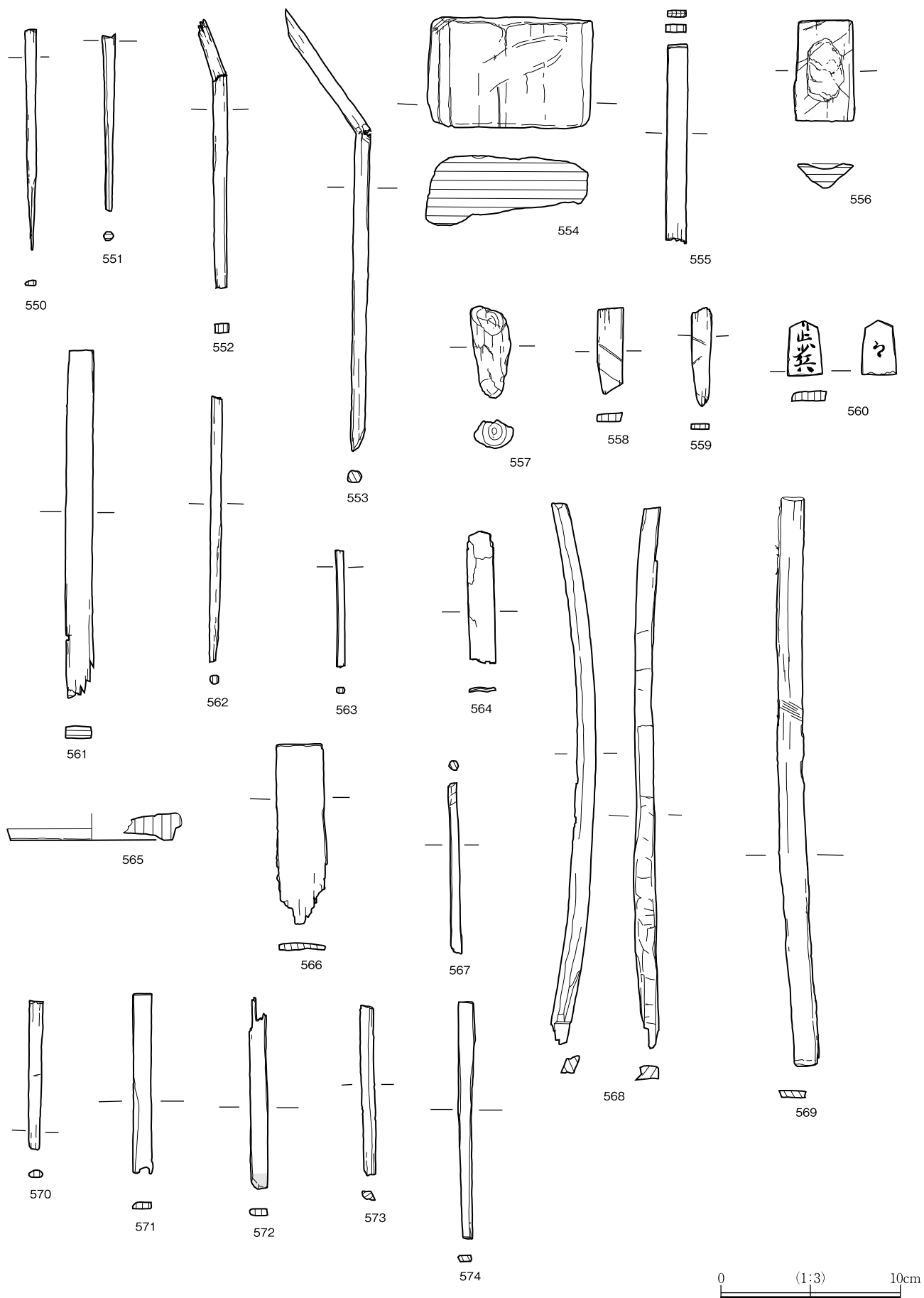


図29 21SD1 出土木製品類実測図 4

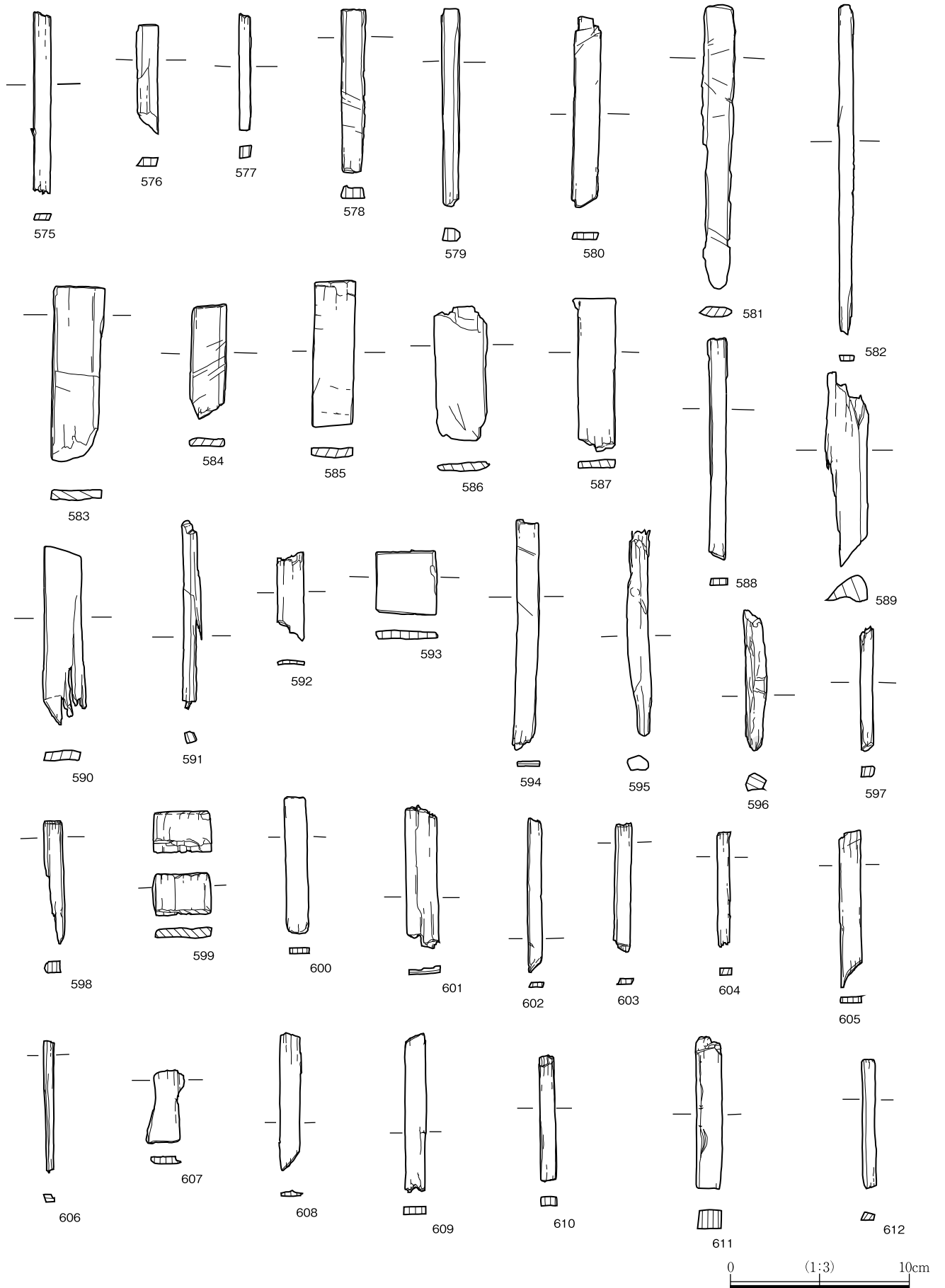


図30 21SD1 出土木製品類実測図5

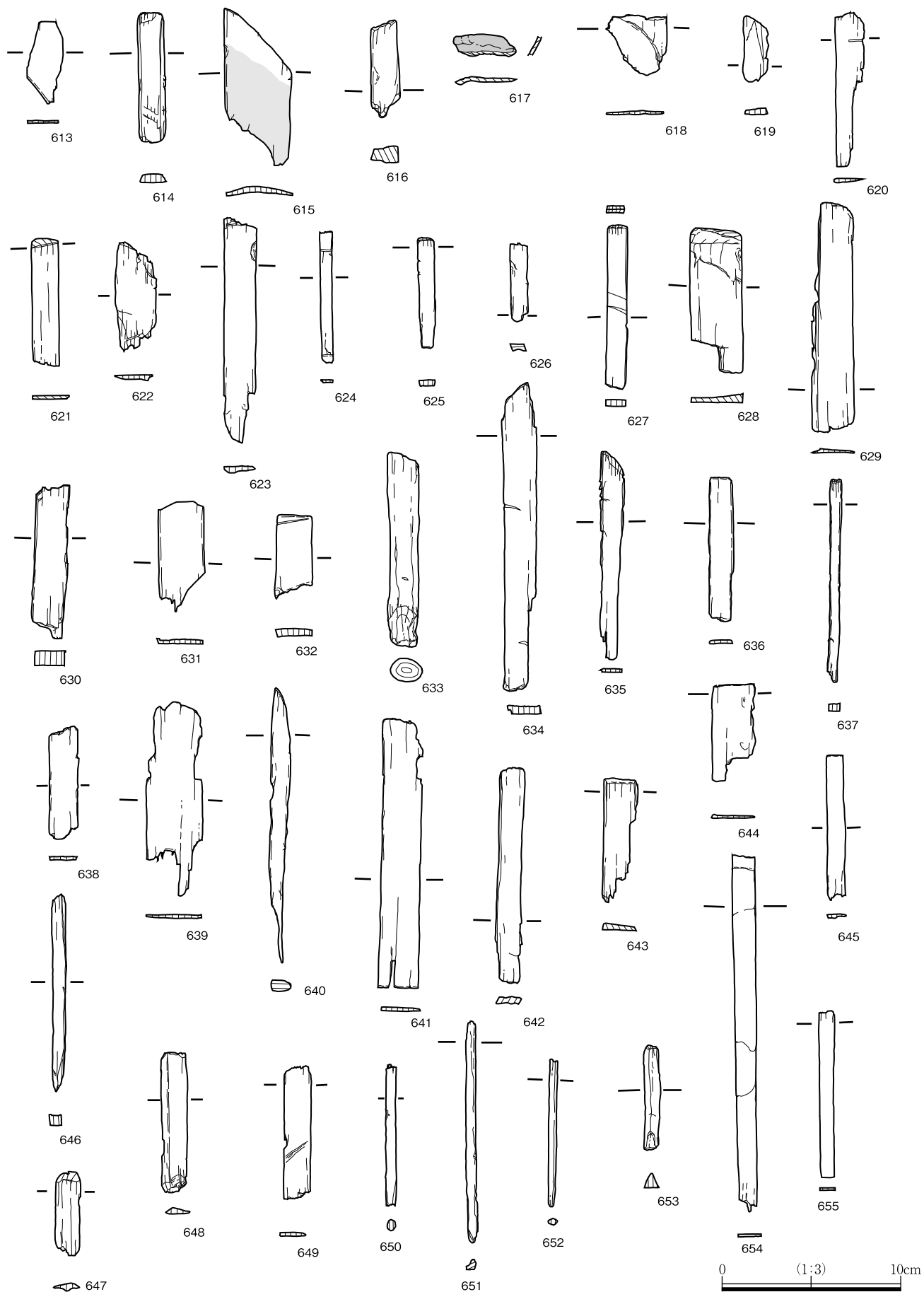


図31 21SD1 出土木製品類実測図 6

2 79 次 調 査

(1) 調 査 の 概 要

79次調査区は平成24年度に実施した73次調査区と平成25年度に実施した第74次調査区との未調査範囲にあたる。公有地化以前の状況は宅地及び田地で、本来の地形は南北方向には、南側の猫間ヶ淵跡へ向かって下がる地形とみられる。宅地部分（北半）と田地部分（南半）で標高は大きく異なり、地形的に段差が生じている。東西方向では堀内部から外部の南西方向に向かって下がる地形である。また、現況で整備事業開始以前においても、調査区の東西端と堀跡の走向位置で地形的に段差が生じている。これは堀掘削時に掘り窪められて改変が行われ、さらにその後の田畑へと転用する際に、その低地部分を利用したことによるとみられる。これは12世紀当時の遺構掘削より以前において、堀跡が構築されるこの範囲の全体が平坦であったことを意味するものではないことは留意される。旧来の開析谷などの小規模な地形的に下がる旧地形部分を、12世紀代に堀として利用した可能性は残る。

79次調査区は、南区は遺跡を囲む2条の堀跡（72SD1・72SD2）が位置するとみられる範囲で、これまでの調査で確認されている整地層などの土層の分布状況を確認し、周囲の遺構状況を把握することを目的としている。

調査区内は北半、南半のいずれの範囲も宅地造成時の削平などによる地形の改変が著しい。北区は宅地等の攪乱が多数検出面で確認できる。南区は田地としての利用のため平坦に削平が行われているが端部などで攪乱による溝等が確認できる。検出面までの層序は、地点によって層の有無や層厚の差はあるが、基本的には同様である。調査区内の基本層序は下記の通りである。

- I 表土層
- II 宅地造成時とみられる盛土層
- III 暗褐色の土層。12世紀とそれ以前の時期の旧表土にあたる層だが、79次調査区では多くの範囲で削平等により確認できない。
- IV 黄褐色の粘土層で、いわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。なお、他の地点も同様だが、この層も細分は可能である。

なお、このうちⅢ層は調査範囲全体では確認できず、多くの調査範囲はⅣ層の上面にⅡ層の盛土層が堆積し、削平等により改変が行われたことがわかる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図32）。

堀跡 2条（土橋状の掘り残しの範囲1カ所）

整地層 1カ所

(2) 検 出 遺 構

① 72SD1堀跡（図32）

〔位置〕 53-48グリッドから55-52グリッド付近に南北に走る堀跡である。両側ともに、地山にあたる黄褐色土層で確認している。今回の調査範囲では16mほどの延長を確認した。

〔規模〕 幅は約11.0mで検出している。両端はいずれも本来の遺構掘り込み面が水田耕作時等の削平により失われており、本来の幅はやや大きくなることが想定できるが、両端の地形状況や隣接地点での精査状況などから、現況との差は上幅においては1～2mほどの差に収まり、堀の規模を勘案すれば、それほど大きな差異ではないとも判断できよう。今回の調査範囲では掘り下げを行っていない

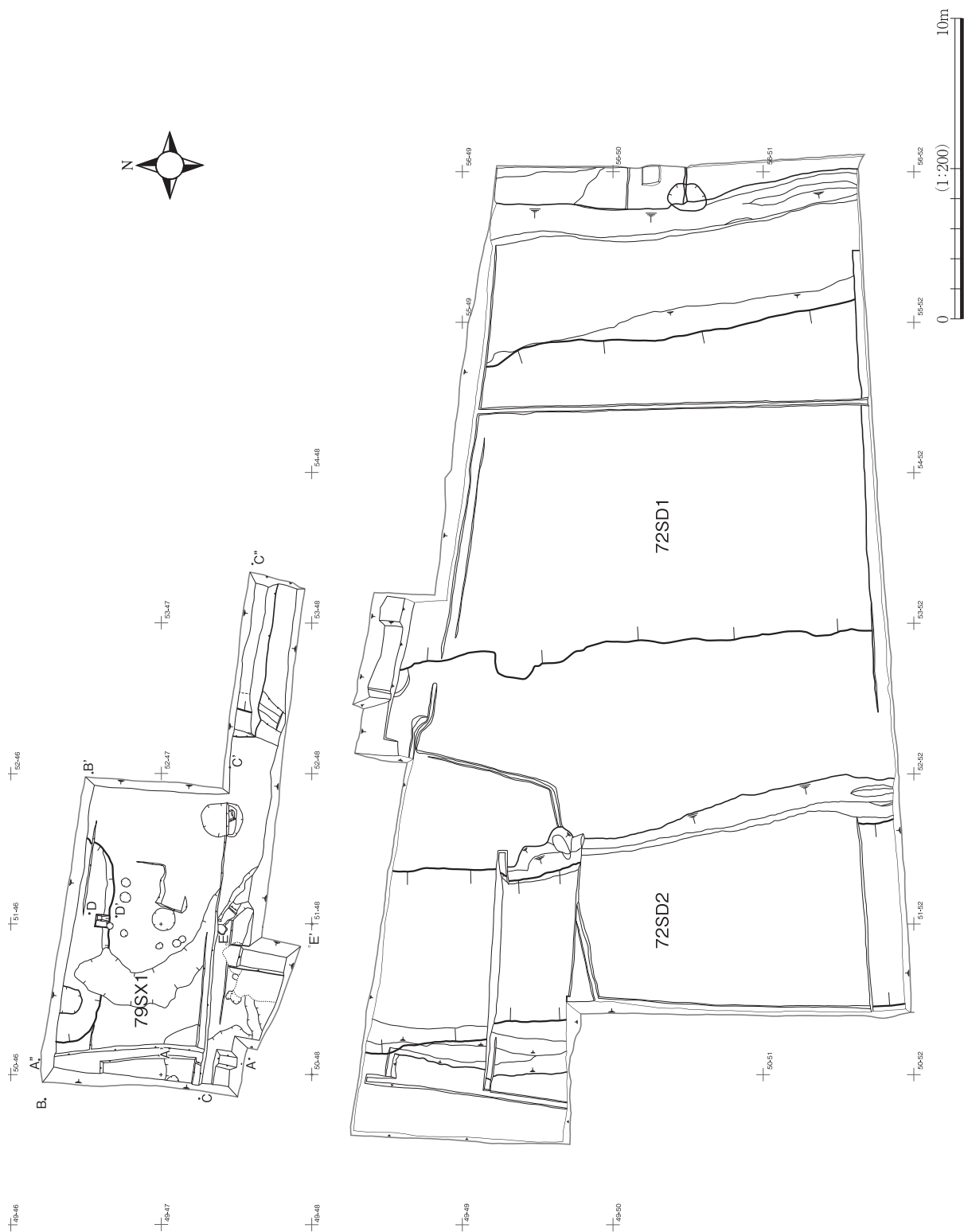


図32 79次調査遺構配置図 (1/200)

が、南側に隣接する74次調査の成果をふまえると、検出面からの深さ4 mほどのV字に近い急峻な形状と推測できる。

〔周囲の状況〕 72SD1堀跡の検出範囲は調査区の南北に分かれ、南半と北半では標高が1 mほど異なり周囲の状況にも差がみられる。ここでは南半と北半それぞれの周辺状況を記す。

○調査区南半 外側の岸は地山となる黄褐色土層の上面で検出している。水田耕作等に伴って、この土層までの削平が行われたとみられ、本来は現況の残存層位より上部の土層から掘り込まれた遺構とみられる。岸は直線的に南北に走る状況で確認される。一部に不整形の広がりもみられるが、現況での堀跡上層の土層も水田等に伴う土層で、これらの不整形部分の土層も同様で、後世の攪乱の可能性はある。

この面では関連する遺構は確認されていない。なお、72SD2堀跡との間隔は、南側に位置する74次調査範囲と含めても4～5 mほどで一定しており、関連する遺構は現況では確認されていない。削平の程度は厳密には確定できないが、周辺地形の様相を勘案した場合には1 m以内程度と目される。その場合、大規模な柱穴や土坑はこの範囲には削平以前においても存在していない可能性が高い。

内側の岸は地山となる黄褐色土層の上面で検出している。この周囲でも水田耕作等に伴って、削平が行われたとみられる。72SD1堀跡の現況での検出面となる黄褐色土層は標高26 mほどである。一方で、東側の56-49から56-52グリッドにかけては検出面の標高が27 mとなっており、本来の内側の岸の掘り込み面の標高はこれに近いものとみられる。72SD1堀跡を検出した西側は1 mほどの削平を受けているとみられる。

東側の標高が高い範囲および東側に接する56次調査では整地層を確認している。整地層からは遺物が出土しておらず時期には不定の部分が残るが、56次調査では整地層の下層からも遺構を検出している。整地土層の56次調査区を含めた平面的な広がりについても判然としない部分は残るが、堀跡の周囲で整地が行われ、堀内部の平坦面が広く造成されたことがわかる。ここでは整地層上面で土坑1基(79SK1)を確認している。精査していないが、削平面で断面を確認でき、削平以前のものであることはわかる。埋土の特徴からは整地層と同様に12世紀代の遺構とみておきたい。

○調査区北半 調査区北半では外側の岸部分のみを確認している。図36 C' -C" 断面で立ち上がりを確認している。遺構本来の立ち上がり上端部は水田耕作等により失われたとみられる。後世の攪乱により拡大したとみられるが、調査区が接する73次調査では72SD1堀跡の両端を確認しており、今次の調査で確認した部分と対面する範囲でも検出しており、幅14 mほどで確認できたことになる。攪乱・削平の程度からは、遺構本来の幅との差はあるものの、規模と比すれば遺構の理解に大きな影響を与えるものではないとみなすこともできよう。

② 72SD2堀跡 (図32)

〔位置〕 90-46から57-52グリッドにかけて検出している。両岸側ともに地山となる黄褐色土層の上面で検出している。今回の調査範囲では20 mほどの延長を確認した。

〔規模〕 幅は6 mほどで確認している。両端はいずれも本来の遺構掘り込み面が削平により失われており、本来の幅はやや大きくなることが想定できるが、両端の地形状況がある程度本来の堀の形状を示し、現況との差はそれほど大きなものではないと判断できる。今回の調査範囲では掘り下げを行っていないが、南側に隣接する74次調査の成果をふまえると、深さ2 mほどで断面は台形に近い形状と推測できる。掘り直し等が行われた可能性も高いとみられる。

〔周囲の状況と関連遺構〕

72SD2堀跡の検出範囲は、調査区の南北に分かれるが、南半と北半では標高が1 mほど異なり周囲

の状況にも差がみられる。ここでは南半と北半にわけ、それぞれの周辺状況を記す。

○調査区南半 72SD2堀跡の内側の岸は黄褐色土層の上面で検出している。X=49グリッド以北は遺構本来の肩部分により近い位置で検出しているものと判断できる。X=49グリッド以南は水田耕作によって一段下がっている範囲で確認できる。この部分は堀跡が、水田耕作によって東側に拡張されて本来の肩が壊されていることがわかる。ただし、水田耕作時に窪んでいた範囲を広げたであろう事が推測できる。また、49グリッド以北及び74次調査での確認状況などの走向方向と位置をふまえても、72SD2堀跡の規模等を大きく変えるものではなく、現況地形がある程度堀跡の形状を反映していることが想定できる。こちらの端部では関連する遺構等は確認されなかった。削平等はあるものの、大規模な土坑や柱穴は本来よりこの範囲には存在しなかったと判断できる。

外側の岸を確認したのはX=50グリッド以北である。現況地形では西側が0.8mほど標高が高くなっており、この段差が堀の形状を反映している可能性が高いと思われたが、その後の改変もあり74次調査では現況よりやや西側で岸を確認できるなど、大きな差異はないと推察できるが、関連遺構の確認のため調査を行った。72SD2堀跡の肩は水田耕作時に広げられている部分も南側を中心に存在する者の、北側では削平が少なく本来の位置を保つものとみられた。この範囲での幅も5～6mほどと他の範囲とはほぼ同様である。岸上部の平坦面では関連する遺構は確認されなかった。また、より南側の74次調査区や35次調査区では整地層を確認しているが、79次調査区では整地等はみられなかった。旧表土等も残存していないことから、削平により失われた可能性も高いと考えられる。

以上から、削平等により本来の遺構の肩は失われている部分が多いものの、全体の形状や位置は大きな削平は受けておらず、現況の検出時の幅5～6mが一定程度、本来の幅や形状を反映しているものと理解できる。

○調査区北半 調査区北半は検出面の標高27mほどと、調査区の中で標高の高い範囲である。

南北方向の断面では(図34 A-A’)、9層及び10層がいわゆる地山面にあたる。8層は暗褐色の土層で、旧表土にあたる土層と捉えている。これを直接覆う7層は黄褐色の土層で、人為堆積土で埋め戻し土もしくは整地層とみられる。東西方向の断面から連続し、72SD2堀跡を埋め戻した土層から連続する。6層は黄褐色土の粘土質の土層で、8層を掘り込む土層として分層した。7層との前後関係は判然とせず、当初の整地土層の可能性も残る。5層もこれと関連する土層である。4層は7層の人的な土層を直接覆う土層である。人為的な土層で、7層との境界に薄い砂層が形成される。4層より上層の土層までは後述のC-C’断面の所見より、12世紀より新しい盛土等と判断したが、7層との分層は平面的および掘削時の分層は難しい。4層と7層は時期的には異なるものの前者が後者を削平もしくはそれに由来する土層で形成されたことによる近似とみられる。これより上層の1層及び2層は新しい段階に形成された土層とみられる。これらをまとめると、南北方向の断面の、1・2層は新しい段階の盛土層、4層は7層と近接可能性も残るものの砂層が間に入り、7層もしくは類似した土層に由来するものの、夾雑物が多いことから、新しい段階の整地と判断した。7層以下を12世紀段階の土層と判断している。8層が表土として機能した可能性が高いが、明確な地業は確認できない。

調査区北端の東西方向の断面では(図35 B-B’)、10層及び11層がいわゆる地山面にあたる。8層及び9層は粘土質の褐色がかかった土層で人為的な埋め戻し土とみられる。8層はA-A’断面の7層に連続する。埋め戻しに際して72SD2堀跡のみでなく、周辺部分も含めた、やや広い範囲で整地されたことがわかる。5～7層及び3・4層はこれらの上層に限定的に堆積する。5・6層は炭化物を含み、時間幅が短い可能性もある。1層及び2層はA-A’断面の新しい段階の盛土層である1・2層と連続する。これらから、東西方向断面B-B’の、1・2層は新しい段階の盛土層、3～6層は人為堆積土上層の土層、8・9層は72SD2堀跡を埋め戻す土層と判断している。また、72SD2堀跡の南北方

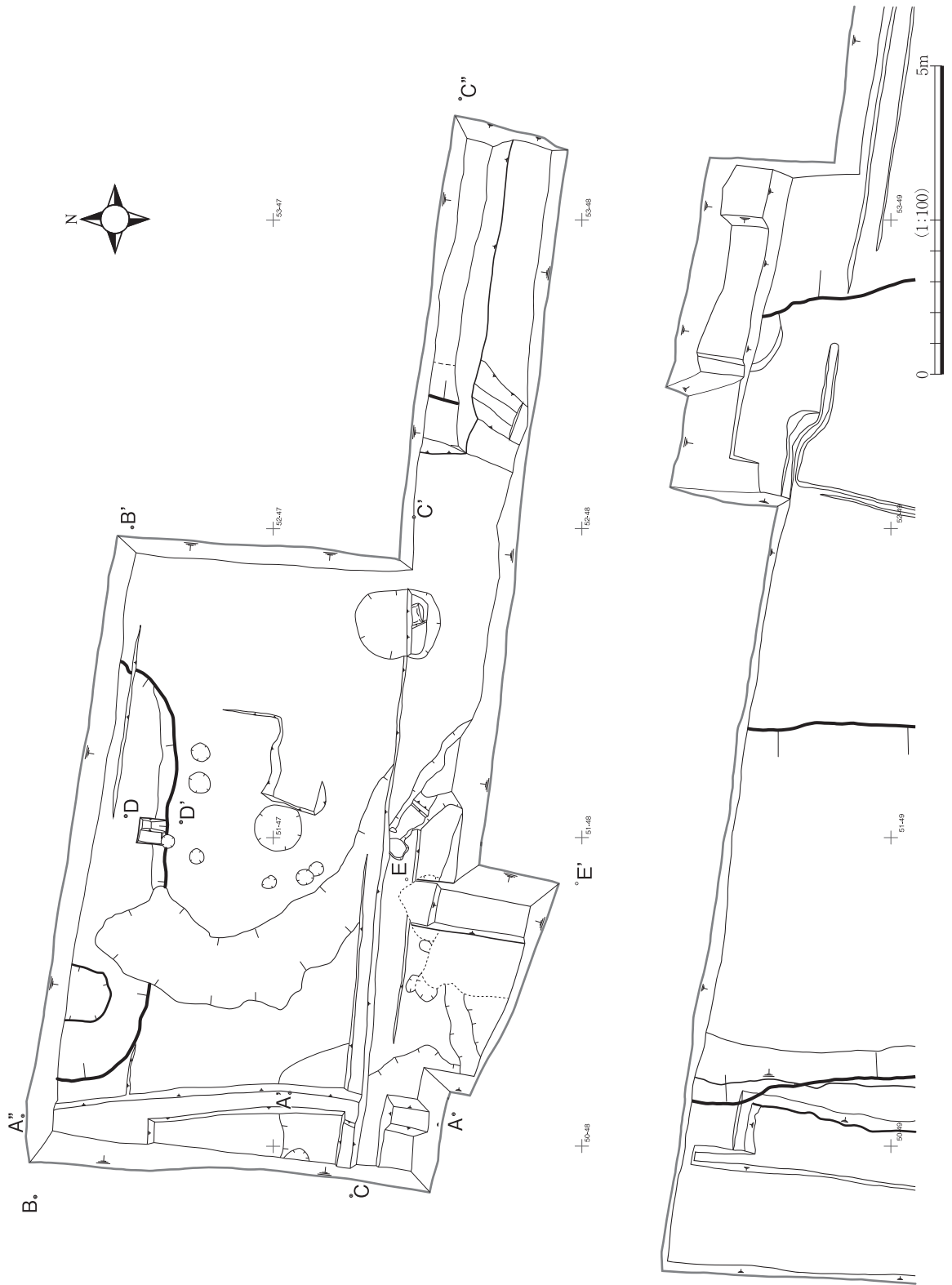


図33 79SX1 平面図

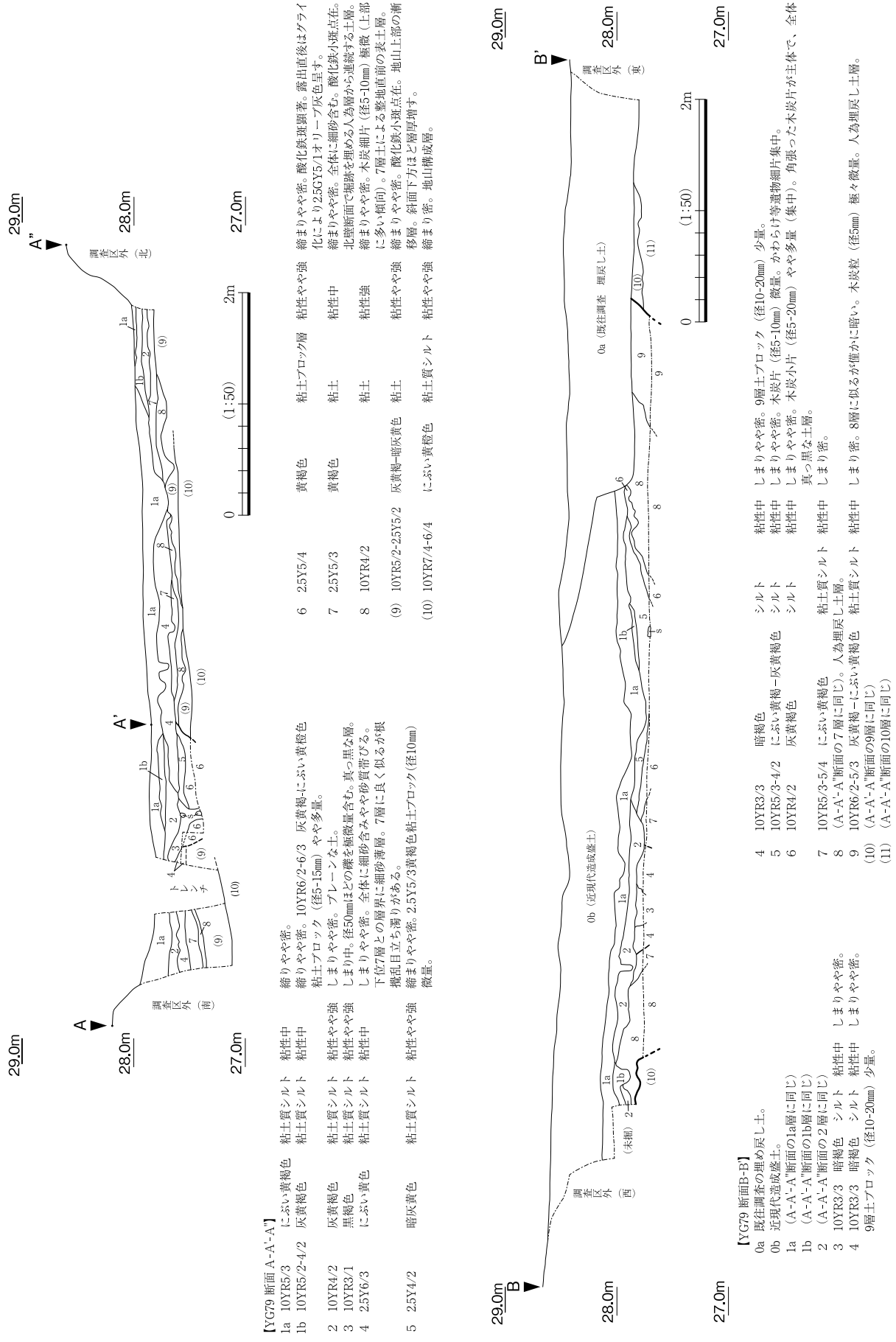
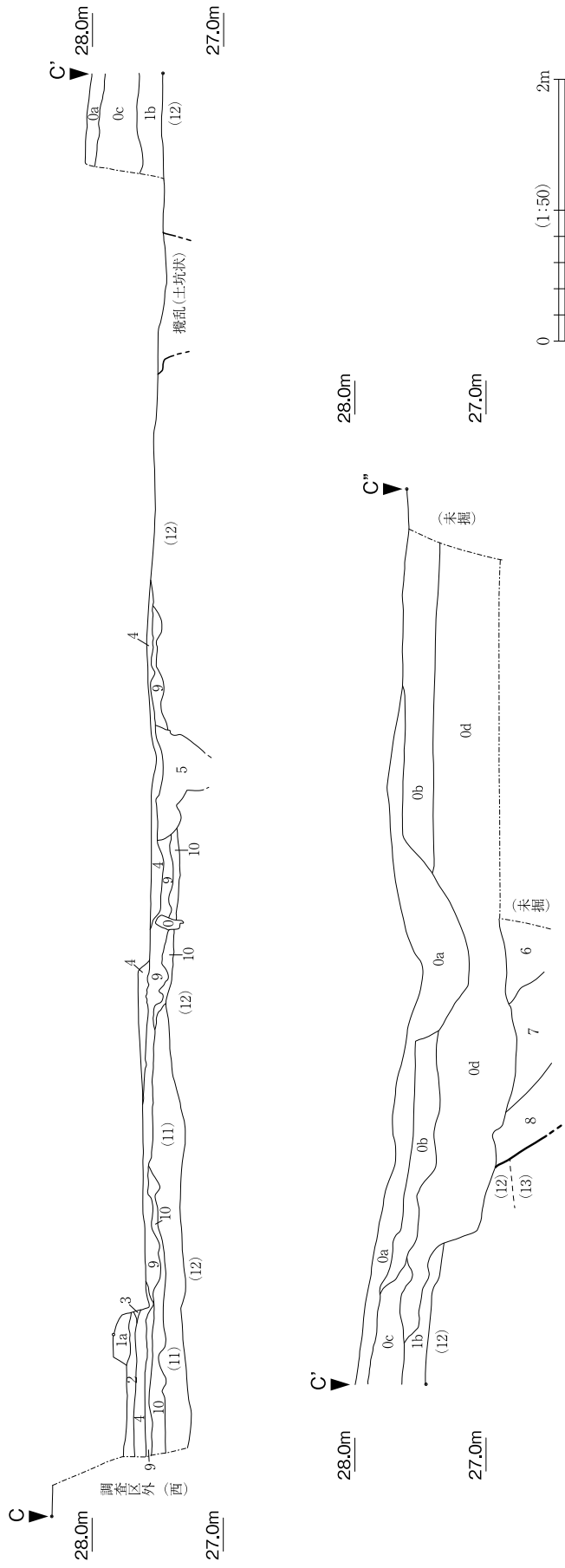


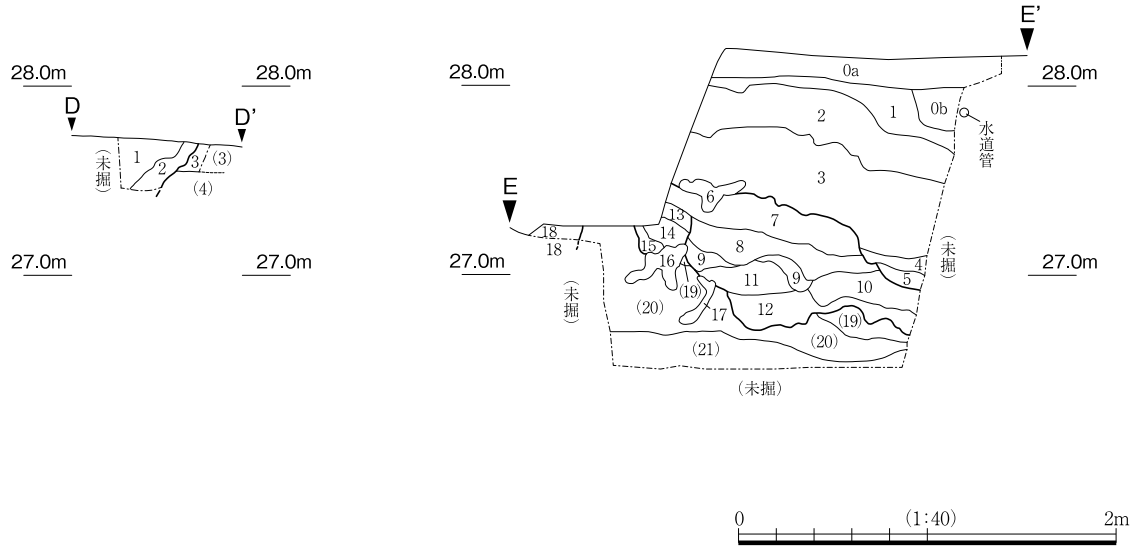
図34 断面図1



【YG79 断面 C-C'-C''】

0a	現表土	粘りやや弱	細砂	褐色	6 10GY5/1	粘りやや弱	粘りやや疎。8層細砂やや多量。臭味強い。
0b	近現代水田耕土	粘りやや強	粘土質シルト	暗オリーブ灰色	7 5GY4/1	粘りやや強	カヤ等植物遺体極微量含む。グライ化。
0c	近現代造成盛土	粘り中	砂質シルト	にぶい黄褐色	8 10GY5/1	粘り中	粘り中。壁崩落(流出)層。グライ化。
0d	造成盛土(年代不明。本層下面により内側端部外岸の壁土部分が切られている。)	粘り中	粘土質シルト	にぶい黄褐色-暗褐色	9 10YR4/3-3/3	粘りやや強	粘り中。壁崩落(流出)層。グライ化。
1a	10YR5/3	粘り中	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘り中	上部に相当(炭の混入部)。本地点の整地直前の表土が。
1b	10YR5/3	粘り中	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘り中	ラックに酸化鉄集積。上方からの水分(水田・水路等)による後成変化が。
2	10YR4/2	粘り中	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘り中	粘り中。漸移層。
3	10YR4/1-3/1	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
4	10YR5/3	粘り中	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
5	10YR3/3	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
6	10GY5/1	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
7	5GY4/1	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
8	10GY5/1	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
9	10YR4/3-3/3	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
10	10YR7/2-6/2	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
11	10YR5/3	粘りやや強	粘土質シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
12	10YR6/4-6/6	粘りやや強	シルト	にぶい黄褐色		粘りやや強	粘り中。漸移層。
13	7.5GY6/1	粘りやや強	細砂	緑灰色		粘りやや強	粘り中。漸移層。

図35 断面図2



【YG79 断面 D-D'】

- | | | | | | |
|---|---------|--------|----|-----|--|
| 1 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土 | 粘性強 | しまりやや密。木炭粒（径5mm）極微量。クラックに沿って酸化鉄集積。 |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土 | 粘性強 | しまりやや密。10YR6/4砂質シルトブロック（径10-20mm）やや多量。クラックに沿って酸化鉄集積。 |
- (3) B-B'の10層。
(4) B-B'の11層。

【YG79 断面 E-E'】

- | | | | | | |
|------|--|-------------|--------|-------|--|
| 0a | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | 粘性中 | しまり中。凝灰礫微量。草根・山砂ブロック全体に含む。客土層。 |
| 0b | 水道管敷設溝埋土。0aに似る。 | | | | |
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり中。木炭粒（径1-2mm）極微量。0aとの層界に径20-80mm礫集中。表土層。 |
| 2 | 10YR6/2灰黄褐色粘土・10YR6/6-5/4明黄褐色-にぶい黄褐色シルト・10YR4/2-3/3灰黄褐色-暗褐色シルト（3層土）からなるブロック層。粘性やや強 しまり密。地山ブロックが主体。近現代造成盛土。 | | | | |
| 3 | 10YR4/2-3/3 | 灰黄褐色-暗褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中。木炭粒（径2mm）極微量。近現代遺物含む旧表土。 |
| 4 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粘土質シルト | 粘性強 | しまりやや疎。3層深部下面のグライ化部。 |
| 5 | 2.5GY4/1 | 暗オリーブ灰色 | 砂質シルト | 粘性やや強 | しまり中。グライ化層。地山ブロック少量含む。色調除けば8層に似る。8層に連続あるいは同層の再堆積部分の可能性あり。 |
| 6 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土 | 粘性やや強 | しまりやや密。酸化鉄小斑微量。木質部痕跡の可能性あり。 |
| 7 | 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト・10YR5/6黄褐色シルトから成るブロック層。5-10mmの小径ブロック主体。粘性中 しまり密。全体に砂質帯び酸化鉄の発達により赤味。 | | | | |
| 8 | 5Y6/1-6/2灰-灰オリーブ色粘土・2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトのブロック層。7層に比してブロック径大きくグライ化している。粘性やや強 しまり密。 | | | | |
| 9 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 粘土 | 粘性やや強 | しまり中。グライ化。8層下面に見られる小凹部の黒色層。木質（土留め等）の痕跡か。 |
| 10 | 8層に良く似る。8層との層界に平行する積み上げ単位が観察できる。 | | | | |
| 11 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。全体に酸化鉄小斑（点状）顕著で赤味帯びる。 |
| 12 | 5Y6/2-6/3灰オリーブ-オリーブ黄色粘土質シルトブロック層。粘性やや強 しまりやや密。5Y6/1-5/1灰色粘土ブロック少量含む。ブロック径は両者とも10-20mm。地山ブロックが主体。 | | | | |
| 13 | 10YR4/2-3/3 | 灰黄褐色-暗褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり密。木炭粒（径2-5mm）微量。自然堆積の旧表土か。8層に切られている。 |
| 14 | 10YR5/2-5/3 | 灰黄褐色-にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり密。全体に酸化鉄小斑（点状）顕著。 |
| 15 | 14層土に地山土ブロック多量。 | | | | |
| 16 | 10YR5/2-5/3 | 灰黄褐色-にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。地山ブロック（径2-5mm）やや多量。14・15層が乱された部分。根攪乱か。 |
| 17 | 10YR5/2-5/3 | 灰黄褐色-にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。根攪乱か。 |
| 18 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。近接土坑埋土の一部。14層に似る。 |
| 19 | 10YR5/1-5/2 | 褐灰-灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。20層との層界不明瞭。漸移層の可能性。 |
| (20) | 10YR7/3-7/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。地山構成層。 |
| (21) | 2.5Y6/3 | にぶ黄色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり中。クラック発達し間隙に5Y6/1灰色砂質シルト。クラック上面観は亀甲状。断面では大径ブロック層の様に見える。 |

図36 断面図3

向の掘り込みは図36 (D-D' 断面) で一部確認しているが、60~70° 程度の傾斜で立ち上がる。堀跡の肩部分と埋め戻し土との間には自然堆積などの明瞭な間層は確認できない。これが72SD2堀跡構築後に短期間で埋め戻しが行われたためか、確認した部分が72SD2堀跡の上端部に限定されていることによる事象なのかは判断できない。他地点の調査成果からは、堀跡に一定の機能時が想定でき、後者の可能性が高いと思われる。

調査区中央南よりの東西方向の断面では (図35 C-C')、10~12層はいわゆる地山面にあたる。9層は、南北断面A-A' 断面の8層と連続し、旧表土にあたりとみられる。5層は調査区を南北に走る溝の遺構埋土である。溝は不整形で12世紀より新しく、雨裂の可能性がある。4層はA-A' 断面の4層と連続し、新しい段階の整地土層とみられる。これが新しい時期の溝埋土である5層を覆うことから、上述のA-A' 断面の4層と7層は時期が大きく異なるものと判断できる。

これらの所見から、73次調査区と79次調査区南半の間の4.5mほどの部分で72SD2堀跡が掘削されていない部分があることがわかる (図34)。遺構構築当初から掘り残されていたことが、地山面が延長することからわかり、掘り残しは72SD2堀跡を分断し、堀が途切れる範囲である。堀構築の当初から、堀に残された土橋状の範囲として機能したとみられる (79SX1土橋)。

79SX1土橋 79SX1土橋は、両端部で確認されている72SD2堀跡が途切れる幅4.5mほどで確認した。周囲の堀底面は不明だが、現況での検出面での比高も1mほどあり、堀の底面はそれよりも下がることから、堀構築時点では堀底面から土橋部分の上面まで1mを超える比高があったと判断できる。

南端部に設定した断面では (E-E')、20層及び21層は地山にあたる。19層は20層と同様の土層とみられる。16・17層は木の根等による攪乱と判断した。19層及び20層の上面が地山層の上面と捉えている。13~15層では、14・15層は人為的な堆積土、13層は自然堆積による土層である。これを切るように堆積する7~12層は地山ブロックを多く含み、土質からも人為堆積土主体の土層と捉えている。13~15層の土層が72SD2堀跡の堆積土になるか、13・14層の層界が72SD2堀跡の構築時の土層になるかは確定しがたい部分が残るが、平面での形状などから13~15層が72SD2堀跡の当初の堆積で、平面的には15層の掘り込み部分から堀跡のラインと捉えておきたい。このように南端部分は、72SD2堀跡の構築にあたって、堀構築時に残されていた範囲にあたるが、南側では断面状況から、整地等が頻繁に行われたと考えられる。

北端部分の土層状況からは、72SD2堀跡が構築された後に、周辺域を含めて埋め戻しが行われたことがわかる。この埋め戻しは、79SX1とした掘り残し部分をふくめて周囲に広く行われていることが、同一の土層の広がりから認識できる。掘り残し部分の当初期の機能面は旧表土層と捉えており、上部は炭化物等を含み機能面とみることができようが、道路地業などで確認されるような遺構は確認できない。断面での確認のため硬化の程度は明確ではない。これらから79SX1土橋とした範囲は、明確な路面は存在していないものの、堀の構築に際して残され、72SD2堀を分断する通路として利用されていた可能性が高いと判断している。また、堀内部及び外部でこの周囲に方向を向けた道路跡が複数確認されていることも留意される。

72SD2堀跡の埋め戻しが行われて以降の、堀跡を含めて整地が行われたことから、72SD2堀跡が位置した部分を含めて利用が行われたと理解できる。79次調査区の北側に位置する73次調査においても、73次調査範囲の中央から南側にかけては72SD2堀跡の検出時の最上層は同様の整地層にあたる。したがって、同様の埋め戻しが10m近くの範囲で行われたことになる。このことから、72SD2堀跡の埋め戻しにより、整地を行い平坦面を広く造成した可能性が高い。

(3) 出土遺物

出土遺物は総重量で14,903.6gである。遺物は総重量のうち、かわらけが8,655.9gと最も多く、次いで陶磁器類が6,247.1gと多い。陶磁器類は国産陶器が6,201.6gで、輸入陶磁器は46.1g出土している。

79次調査区内では、近世以降の表土及び盛土層を除去した直下で遺構検出面にあたる土層が確認される範囲が多く、遺構検出面において出土した遺物も多くは遺構の平面プラン内からの出土である。また、検出にとどめ遺構精査時トレンチの設定が少ないため全体の遺物量が少ない。多くは形状の復元できない資料で、細片が多く遺跡機能時以降に堆積した資料である。国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」(太宰府市教育委員会2000)を参考にしている。

表7 79次調査出土遺物数量表

		かわらけ	国産陶器	輸入陶磁器
72SD1	検出面等	805.3	409.8	
72SD2	検出面等	3,094.0	1,002.6	
表土・カクラン		4,756.6	4,789.2	46.1
合計		8,655.9	6,201.6	46.1

土器・陶磁器類

その他の遺構及び遺構外出土遺物 (図37・38)

国産陶器類42点、輸入陶磁器類4点を図示した(657～702)。国産陶器は口縁部及び頸部、体部片については押印が確認できるものを中心に図示した。657～698は国産陶器類である。甕類の体部片が多い。文様の多くは縦長格子文もしくは格子文による押印である。658、687は刻文が確認できる。674は格子文と花文が押印される。699～702は輸入陶磁器である。699は白磁の壺類の体部片である。700は龍泉窯系の青磁で、内面に櫛描きによる花文、外面は701は龍泉窯系の青磁碗で、外面は縦方向の櫛描き、内面は櫛描きによる文様が確認できる。702は白磁四耳壺で耳部が欠損している。

(櫻井)

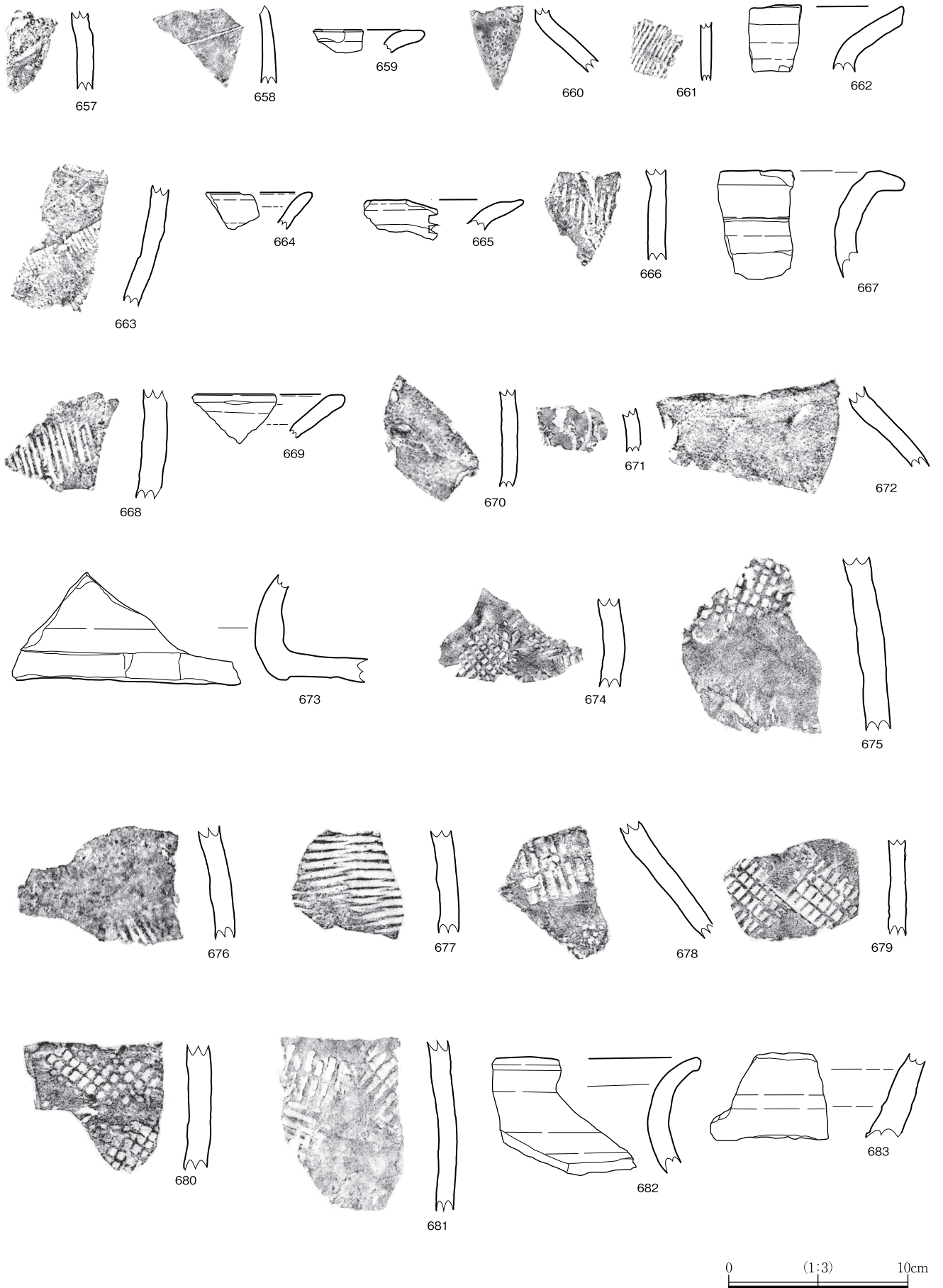
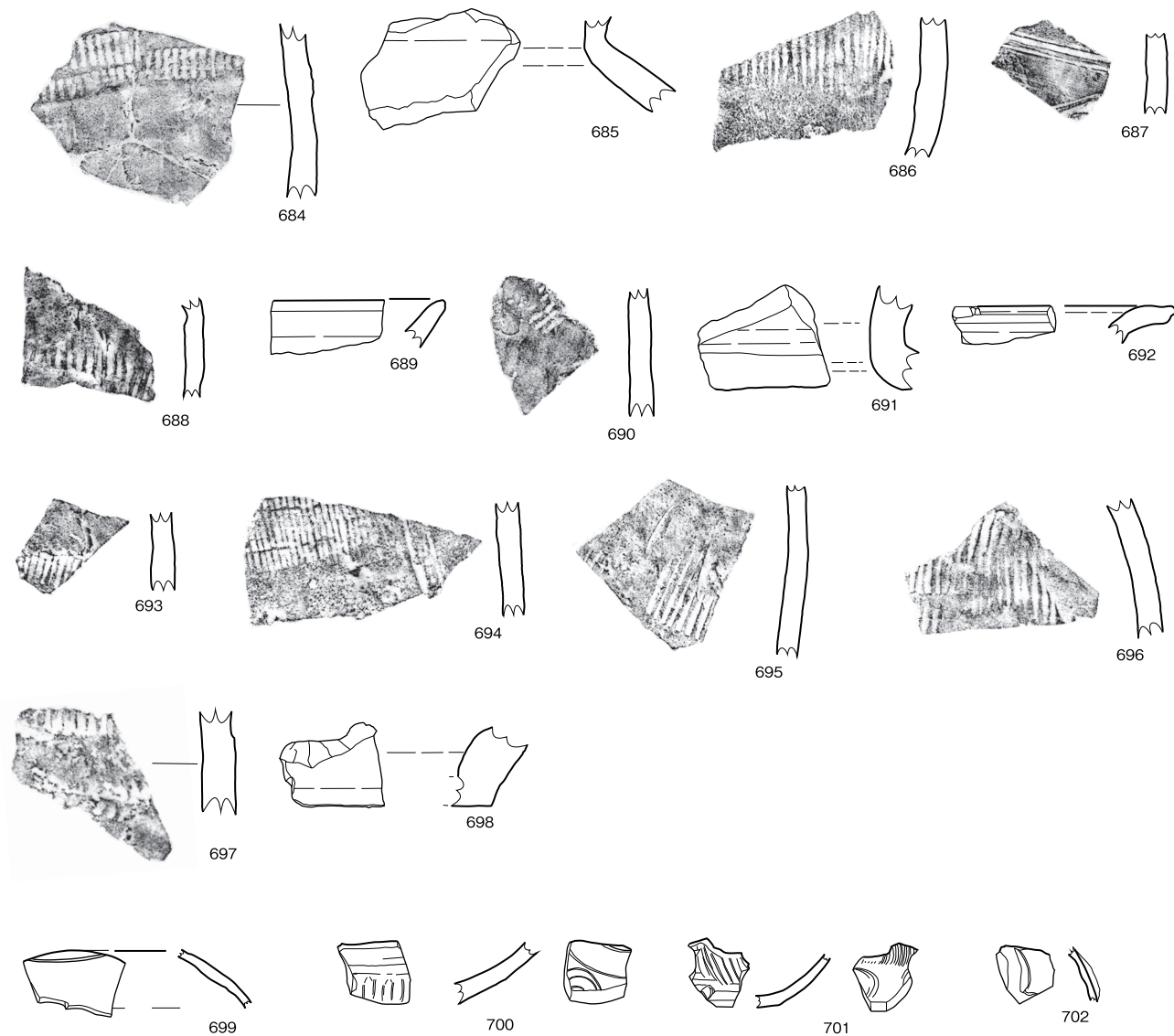


図37 79次調査出土土器類実測図 1



0 (1:3) 10cm

図38 79次調査出土土器類実測図2

Ⅲ 自然科学分析

柳之御所遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在する。測定対象試料は、堀跡から出土した炭化物4点である（表8）。

柳之御所遺跡は2条の堀跡に囲まれている。外側の堀跡（21SSD2）は、低地部分では整地を行って構築されている。この整地層からT5-c6、T5-c5が採取された。年代は12世紀前半から中葉頃かと推定される。内側の堀跡（21SD1）には、2度の人為堆積による土層が認められ、その間に自然堆積層が見られることから、2時期の変遷が考えられている。この人為堆積層間の自然堆積層からT2-c3、T2-c4が採取された。T2-c3は新しい人為堆積層の直下に当たる。これらの年代は、12世紀後半頃かと推定される。

2 測定の意義

試料が出土した堀跡の年代を検討する材料を得る。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表8に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表8）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表8に、補正していない値を参考値として表9に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。

pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表8に、補正していない値を参考値として表9に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表9に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表8、9に示す。

21SD2出土試料の ^{14}C 年代は、T5-c6が $950\pm 20\text{yrBP}$ 、T5-c5が $1230\pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、T5-c6が1029~1150cal AD、T5-c5が717~864cal ADの間に各々複数の範囲で示される。12世紀前半から中葉頃かという推定に対し、T5-c6は整合的な結果であるが、T5-c5は古い年代値を示した。これらの試料は整地層からの出土であるため、整地土が堀跡よりもかなり古い年代の土層に由来し、T5-c5はその土中に含まれていた古い炭化物であった可能性がある。また、これとは別に、以下に記す古木効果によって実際より古い年代が示されている可能性もある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された4点の試料には、いずれも樹皮が確認されていないことから、炭化物の本来の年代はここで示された値よりもいくらか新しい可能性がある。特に推定より古い年代値となったT5-c5については、この点を考慮する必要があると見られるが、古木効果だけで説明するには年代差が大き過ぎるとも考えられる。

21SD1出土試料の ^{14}C 年代は、T2-c3が $910\pm 20\text{yrBP}$ 、T2-c4が $960\pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、T2-c3が1046~1161cal AD、T2-c4が1027~1150cal ADの間に各々複数の範囲で示される。12世紀後半頃かという推定に対し、おおむね整合的か、若干古い値を示した。上述の古木効果が影響している可能性もある。2点はほとんど同年代を示しているが、やや上層から出土したT2-c3の方が若干新しい暦年代範囲を含む。

試料の炭素含有率は、すべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 8 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-161492	T5-c6	21SD2	炭化物	AAA	-25.35 ± 0.27	950 ± 20	88.84 ± 0.26
IAAA-161493	T5-c5	21SD2	炭化物	AaA	-26.93 ± 0.27	1,230 ± 20	85.81 ± 0.24
IAAA-161494	T2-c3	21SD1	炭化物	AAA	-26.96 ± 0.27	910 ± 20	89.25 ± 0.25
IAAA-161495	T2-c4	21SD1	炭化物	AAA	-25.97 ± 0.28	960 ± 20	88.79 ± 0.26

[#8263]

表 9 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-161492	960 ± 20	88.77 ± 0.25	951 ± 23	1029calAD - 1049calAD (18.5%) 1085calAD - 1124calAD (38.0%) 1137calAD - 1150calAD (11.7%)	1024calAD - 1059calAD (26.4%) 1065calAD - 1154calAD (69.0%)
IAAA-161493	1,260 ± 20	85.47 ± 0.24	1,229 ± 22	717calAD - 743calAD (21.4%) 766calAD - 779calAD (10.9%) 791calAD - 828calAD (21.2%) 839calAD - 864calAD (14.7%)	692calAD - 748calAD (31.5%) 762calAD - 880calAD (63.9%)
IAAA-161494	950 ± 20	88.90 ± 0.25	913 ± 22	1046calAD - 1092calAD (41.5%) 1121calAD - 1140calAD (16.0%) 1148calAD - 1161calAD (10.7%)	1035calAD - 1169calAD (95.4%)
IAAA-161495	970 ± 20	88.61 ± 0.26	955 ± 23	1027calAD - 1049calAD (20.9%) 1086calAD - 1124calAD (36.4%) 1137calAD - 1150calAD (10.9%)	1022calAD - 1059calAD (28.5%) 1065calAD - 1155calAD (66.9%)

[参考値]

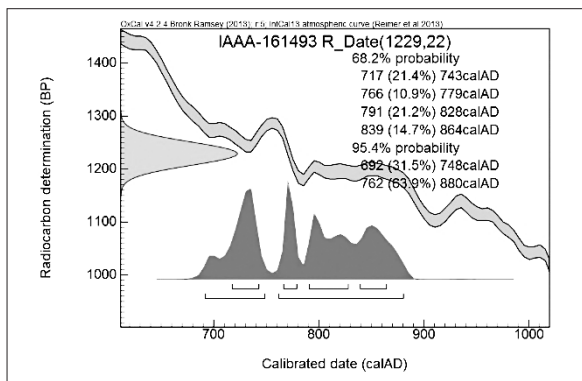
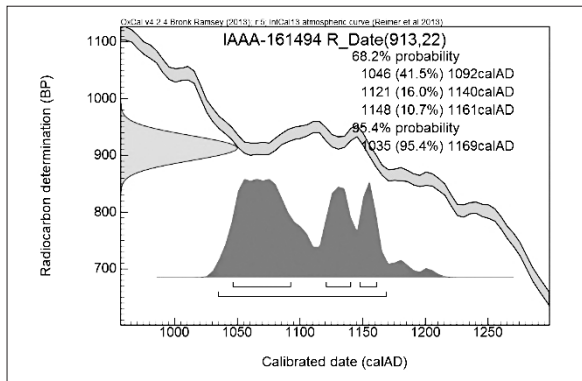
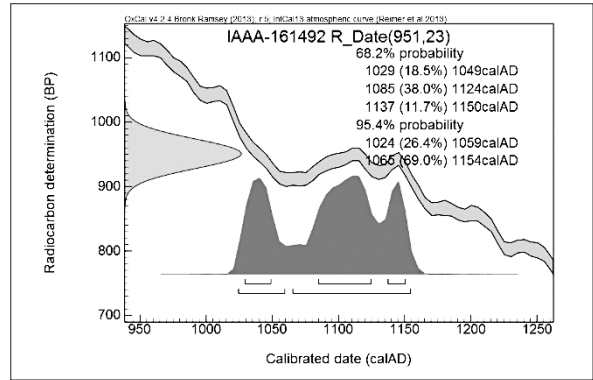
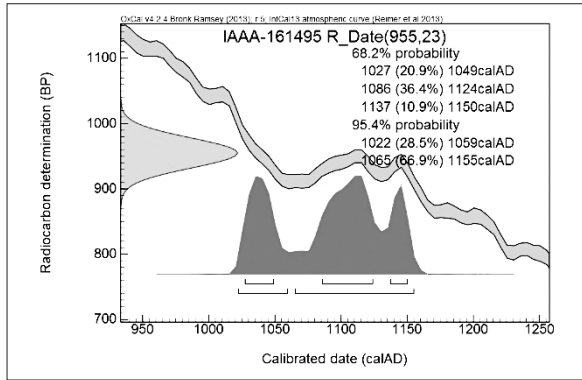


図39 暦年較正年代グラフ (参考)

IV 総括

1 調査成果の概要

(1) 78次調査範囲での堀跡の概要と特徴

78次調査では、21SD1（内側の堀跡）が幅10mほどで確認した。走向方向は屈曲を示すが、これまで確認されている同遺構と連続して把握できる。21SD1堀跡の外側の岸でも整地によって肩部分が造成されている。これが21SD1構築時のものか、それ以前に行われその後に21SD1が構築されたかは確定できないものの、この部分で整地が行われ平坦面が拡張されたことは理解できる。また、21SD1堀跡が構築され、一定の開口期間を経た後に、人為的な堆積土によって埋め戻され、堀が閉塞されている。この埋め戻しの時期は不定だが、人為堆積土は21SD1堀跡の外側に由来するとみられる。内側の堀跡の外側の位置に由来するとみられる人為堆積土は76次調査でも確認しており、土量からは堀等を想定するには十分ではないものの、高まりとして存在したと考えられる。ここで確認された埋め戻しは性格にも不明確な部分が多いが、堀の外側から堀内部に向かって、高まりを削って押し込まれるように埋め戻しが行われている。

21SD2（外側の堀跡）は幅5.5m、深さ2mほどで確認できた。これまで確認されている同遺構と連続する。外側の立ち上がり部分の整地が特徴的である。

78次調査区では直接的な遺構の重複関係は限定的だが、既往の調査成果をふまえると、遺構の前後関係を下記のように捉えられる。

21SD2堀跡→21SD1堀跡→21SD1埋め戻し

(2) 79次調査区での堀跡の概要と特徴

79次調査では、72SD1（内側の堀跡）が幅11mほどで確認できた。これまで確認されている同遺構と連続する。周囲には関連する遺構は確認されていない。

72SD2（外側の堀跡）は、幅5mほどで確認できた。また、堀構築時に掘り残された部分が4.5mで確認でき、外側の堀跡に土橋（79SX1）が位置したことが確認できた。72SD2堀跡の北側周辺では埋め戻しが行われている。埋め戻し時には、土橋（79SX1）として認識された掘り残し部分も整地が行われている。

既往の調査成果をふまえると、79次調査区での遺構の前後関係を下記のように捉えられる。

72SD2堀跡・79SX1土橋→埋め戻し・整地

(≡) 72SD1堀跡

2 堀跡周辺の様相

(1) 整地層について

78次調査では2条の堀跡のそれぞれに関連して整地層を確認している。時系列に沿って確認すると、21SD2堀跡の構築に際して猫間ヶ淵跡の低地部分で地業が行われている。本来低地だった部分を整地して堀の形状が成形されている。150mほど北側にあたる56次調査でも同様の痕跡が確認されており、21SD2堀跡は地盤が安定しない部分では整地地業を行って構築されたことがわかる。21SD2堀跡との時間的前後関係は不明だが、現況での21SD1堀跡の外側の岸にあたる、2条の堀跡の間の場所でも整地が行われている。これは南端部で行われている整地と同様の可能性があるが、土質が異なる部分も

あり、時期の異なる複数回の整地が行われた可能性も残る。

78次調査区では21SD1堀跡の全体を埋め戻すように人為堆積土の土層が確認された(図40)。これまでの調査では21SD1堀跡は自然堆積の土層で、遺跡廃絶後に徐々に埋まっていたと把握されており、大きく異なる特徴である。78次調査区の範囲では21SD1堀跡が構築され、自然堆積が一定程度あった後、埋め戻しが行われたことが把握できる。なお、埋め戻しも複数回の可能性もあるが、時間幅は不確定である。遺構の廃絶に近い時期に埋め戻しが行われたことがわかり、12世紀後葉以降と捉えられる。遺跡が主として機能していた段階よりやや下の段階と捉える方が、遺跡全体の変遷の中では理解しやすい。ただし遺跡の機能との時間幅は、大きいものではないと捉えておきたい。

なお、遺跡全体で整地が確認できている範囲をみると(図41)、削平の影響もあるが標高の低い範囲にあたり、これらが平坦面を拡張するために行われた可能性が高い。それぞれの整地の時間的な対応関係は把握が困難だが、多くは同様の土質で確認できており、位置も上述のように共通した特徴をもつ。また、整地層からの遺物が少ないことから、それぞれの地点での当初期の整地は、12世紀後半まで下る部分は少ないとみておきたい。外側の堀の縁辺部の整地は堀の位置とその選択が自然地形の端部に沿って行われたことによるとみられる。

(2) 79SX1土橋跡について

柳之御所遺跡ではこれまで堀に関連する橋跡が4遺構、想定される範囲として1遺構確認されている。この他に23SG1池跡に係る橋跡が1基(64SX1)、猫間ヶ淵跡で無量光院方向から延びる橋状の遺構を1基(75SX1)確認している。

79次調査で遺跡北端部に外側の堀跡に関連する79SX1土橋を確認した。土橋は幅4.5mほどで確認しており、旧表土とみられる黒褐色の土層のみで道路路面の地業は確認できていないが、通路として利用された可能性が高い。この位置は周辺地形の状況から、高館側から延びる台地頂部の縁辺にあたりとみられる。この位置から南側は猫間ヶ淵に向かって傾斜する地形の変化する位置で、旧地形やそれを活かした造成の初期などに通路に使われた可能性が想起できる。

また、北端部では72SD1堀跡(内側の堀跡)では直接橋に関連する柱穴等は確認できていない。やや南側で確認している41SX2橋跡は、柱穴の規模がこれ以外の橋脚に比してやや小さく、内外部で確認している道路跡のいずれとも連続性が見いだしがたい。主要な通路として利用された橋跡としては疑問点が残ろう。ところで、内側の堀跡に構築時期が先行する外側の堀跡(21SD2・72SD2)はこれまでの調査成果から各所で埋め戻しの痕跡が確認できる。部分的な埋め戻しに留まる範囲が多いものの、全体が埋め戻されたと見なすことができるのは南端部にあたる。内側の堀に係る橋(21SX35)の延長部分は全体に埋め戻しが行われ、外側の堀に係る橋跡も橋部材が廃棄されていることから、外側の堀の廃絶後にこの周囲に埋め戻しが行われ、改めて通路として利用されたとみられる。ここで79次調査区の周囲の状況を確認すると、72SD1堀跡を検出した周囲は削平も著しく、検出面の削平が大きい。特に、72SD1堀跡の肩部分は後世の水田造成により拡張されていることが想定できる。したがって、遺構本来の肩部分は失われ、遺構の確認は堀埋土を相当程度精査した状況で確認することが必要となる。

次に、72SD2堀跡(外側の堀跡)の堆積状況を確認すると、79次調査区の北端側では72SD2堀跡が上面まで埋め戻されているとみられる。また北側に隣接する73次調査区でも検出状況からは72SD2堀跡の上面まで人為的な堆積土層が確認できる。また、一部は精緻な埋め戻し状況がみられた。79次調査区の南端側は本来の地形からも傾斜の変化する位置だったと想定できるが、人為的な堆積土が複雑な堆積を示しており、通路としての維持やその後にはわたって精緻な地業が想定される。これらから、

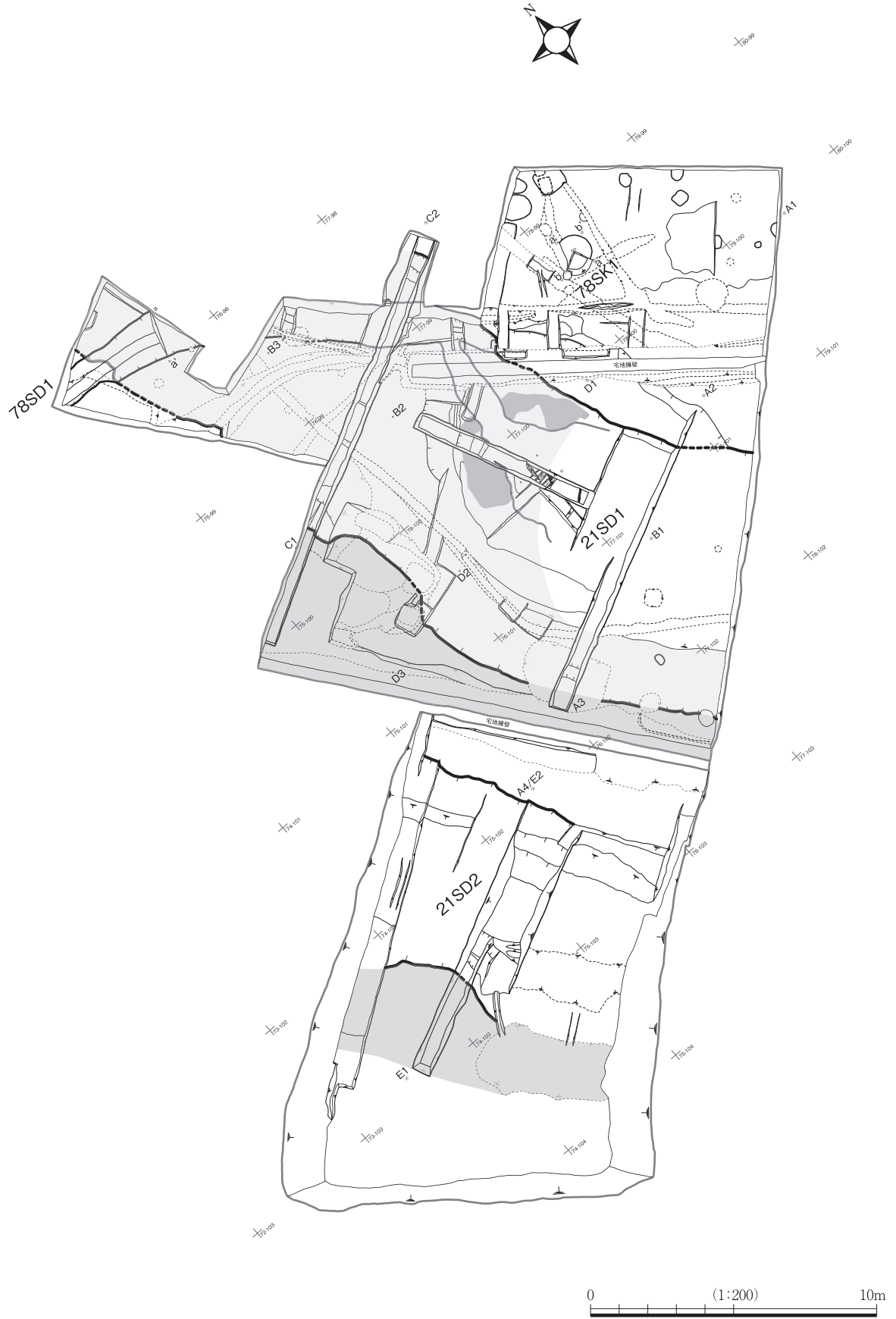
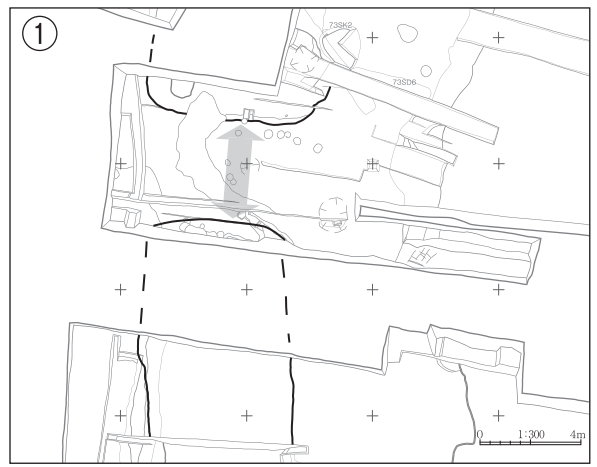


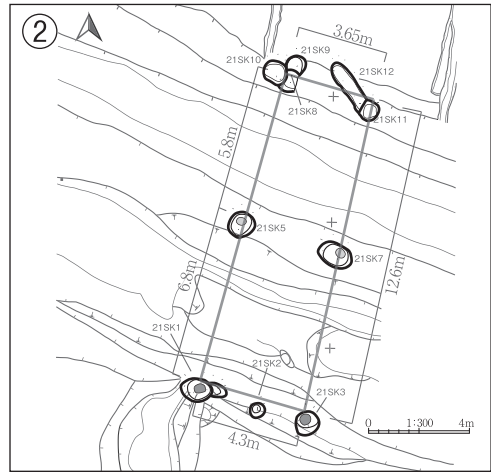
図40 78次調査区人為層分布



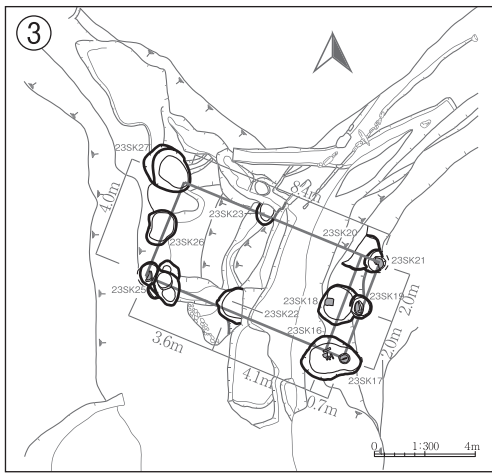
图41 柳之御所遺跡整地層分布



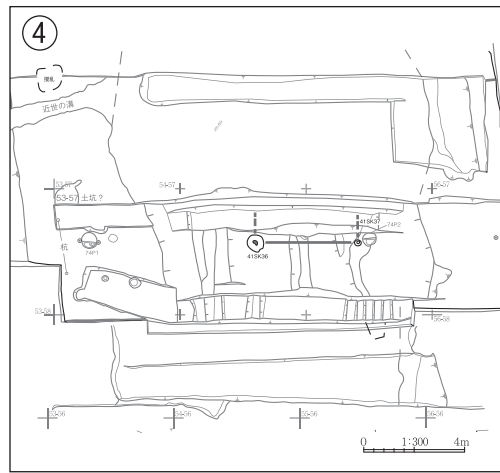
79SX1



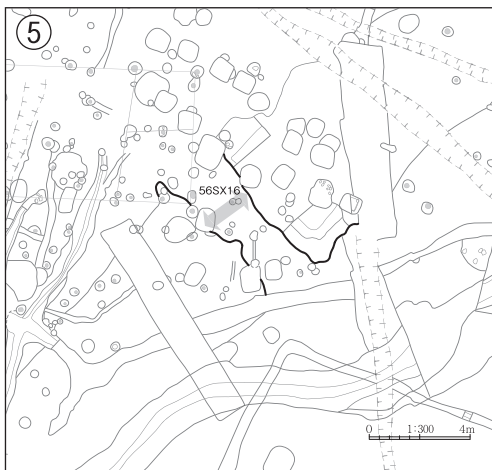
21SX35



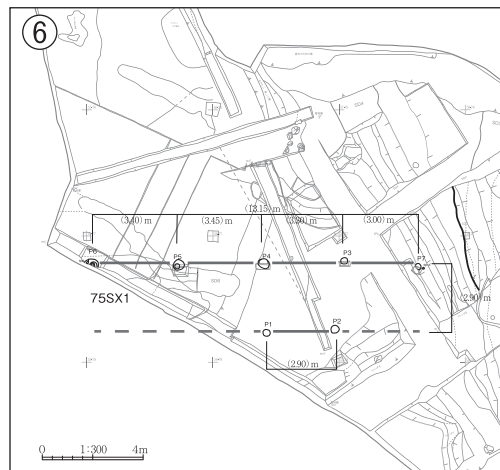
23SX12



41SX2



56SX16



75SX1

図42 柳之御所遺跡の橋跡

79次調査区の79SX1土橋の周囲は72SD2堀跡の埋め戻し等が精緻な範囲とみられる。調査の制約から確認には至っておらず状況的な根拠にとどまるものの、79次調査範囲の前後で外側の堀跡(72SD2)が入念な埋め戻しを受けていることや周囲での遺構検出状況からは、この周囲に内側の堀跡に関わる橋跡が存在を想定することも可能と考える。ただし、当該範囲の詳細は堀外部の道路の検討や、未調査である堀に近接した外部の調査結果をふまえて理解する必要がある。

表10 柳之御所遺跡堀跡に関わる橋と推定位置

	内側の溝跡(56SD40)	外側の堀跡(21SD2・72SD2)	内側の堀跡(21SD1・72SD1)
南端部周辺		43次・69SX1周辺に想定 (南方向へ)	21SX35 (南方向へ) 23SX12 (北上川方向へ)
無量光院周辺			(75SX1) ※堀に直接架かるものではない可能性が高い
北端部周辺	56SX16土橋	79SX1 (中尊寺方向へ)	41SX1 (79SX1周辺に想定(中尊寺方向へ))

3 ま と め

(1) 78 次 調 査

- ① 柳之御所遺跡の南側にあたる猫間ヶ淵跡の周辺部を調査し、堀跡2条と整地土層、関連する土坑などを確認した。堀跡は直接的な切り合い等はなく、時期等に不明な点は残るが、両者が平行して走ることを確認し、他の調査区と合わせて柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置が確認できた。
- ② 外側の堀跡(21SD2)の外側は猫間ヶ淵跡の低地部分を大規模な整地造成をして構築されていることがわかった。21SD2堀跡の位置が堀内部の平坦部から猫間ヶ淵跡の低地へと地形の変化する位置に設定されたことによるとみられる。
- ③ 内側の堀跡(21SD1)では外側の岸周辺で整地造成が行われ、平坦面が広く拡張されたことが確認できた。また、堀構築後、一定の時間を置いた上で、全体に埋め戻しが行われたことが確認できた。

(2) 79 次 調 査

- ① 柳之御所遺跡の北西端の堀内部と外部が接する周辺を調査し、堀跡2条と外側の堀跡(72SD2)に架かる土橋状の遺構を確認した。
- ② 外側の堀跡(72SD1)は、79次調査区の範囲で構築時に掘り残して、土橋状(79SX1)になっていたことを確認した。堀内外部のそれぞれで確認されている道路遺構と連続するとみられ、遺跡の機能した時間幅のうち前半部に想定される段階から通路として機能したと把握できる。今後、残存が良好な範囲での道路の時期的な検討が課題となる。
- ③ 内側の堀跡(72SD2)は、既往の調査成果と連続する位置で確認した。

(櫻井)

V 付章 高館跡 9 次調査の概要

1 高館跡の概要と調査計画

高館跡は柳之御所遺跡の遺跡範囲に隣接し、西側の丘陵に位置する。中尊寺が所在する関山丘陵からは東側にあたる。現在丘陵の頂部には義経堂が所在し、源義経の伝説とともに著名な遺跡である。これらの伝承などによりよく知られた地名である一方で、これまで数度の発掘調査が行われてきたものの、遺跡の遺構内容や時期、柳之御所遺跡との関係などに不明な点が多く残されてきた。

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の世界遺産拡張登録を目指して各種の事業に取り組んでいる。その中で柳之御所遺跡と隣接地形的に関連性が想定できる高館跡についても調査研究を進め、この柳之御所遺跡に隣接した範囲と柳之御所遺跡との関係を検討することで柳之御所遺跡の位置づけや内容の評価にも重要な情報を得ることができると考えられた。そこで高館跡についても調査研究を行うこととし、上記のように遺跡の性格付けや時期を検討するための考古学的情報も不十分と考えられたことから3カ年の調査計画を立て発掘調査を実施することとした。平成28年度はその3年目に当たる。平成26・27年度の調査では、それまでの調査で確認されていた堀跡の位置を再確認し、規模などの把握を行ったほか、上部の平坦面の一部を調査し、遺構の分布状況を確認した。この成果を受けて、平成28年度は高館を囲むと推定される堀跡の追究を目的として2カ所にトレンチを設定した。

高館跡の発掘調査成果については、3カ年の調査実施後に発掘調査報告書を刊行する計画としている。しかし、各年度の発掘調査の内容について、概要の報告が必要と考えられ、柳之御所遺跡の概報と合わせて概要報告を行うこととする。なお、調査の経過の中で追加の確認が必要と考えられる範囲があることから平成29年度にも調査を行い、平成30年度に報告書を刊行する計画とした。

また、高館跡の調査では隣接する柳之御所遺跡の調査成果と総合して検討を行う必要性が高いものの、現在の遺跡範囲は異なり旧来の柳之御所遺跡のグリッド上から外れる部分が多い。さらに、局地的なグリッド設定としてもきわめて広い範囲になってしまうことから、位置関係の把握にも必ずしも有用な点だけはないことが想定された。ここでは世界測地系の座標に基づいてグリッド表記等を行っている。柳之御所遺跡および周辺との位置関係の把握については、調査時に旧測地系の座標を把握しておりこれにより行うことが可能である。

表11 高館跡の調査計画

年次	調査目的
平成26年(2014)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成27年(2015)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成28年(2016)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成29年(2017)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成30年(2018)	報告書刊行

1 高館跡の概要と調査計画

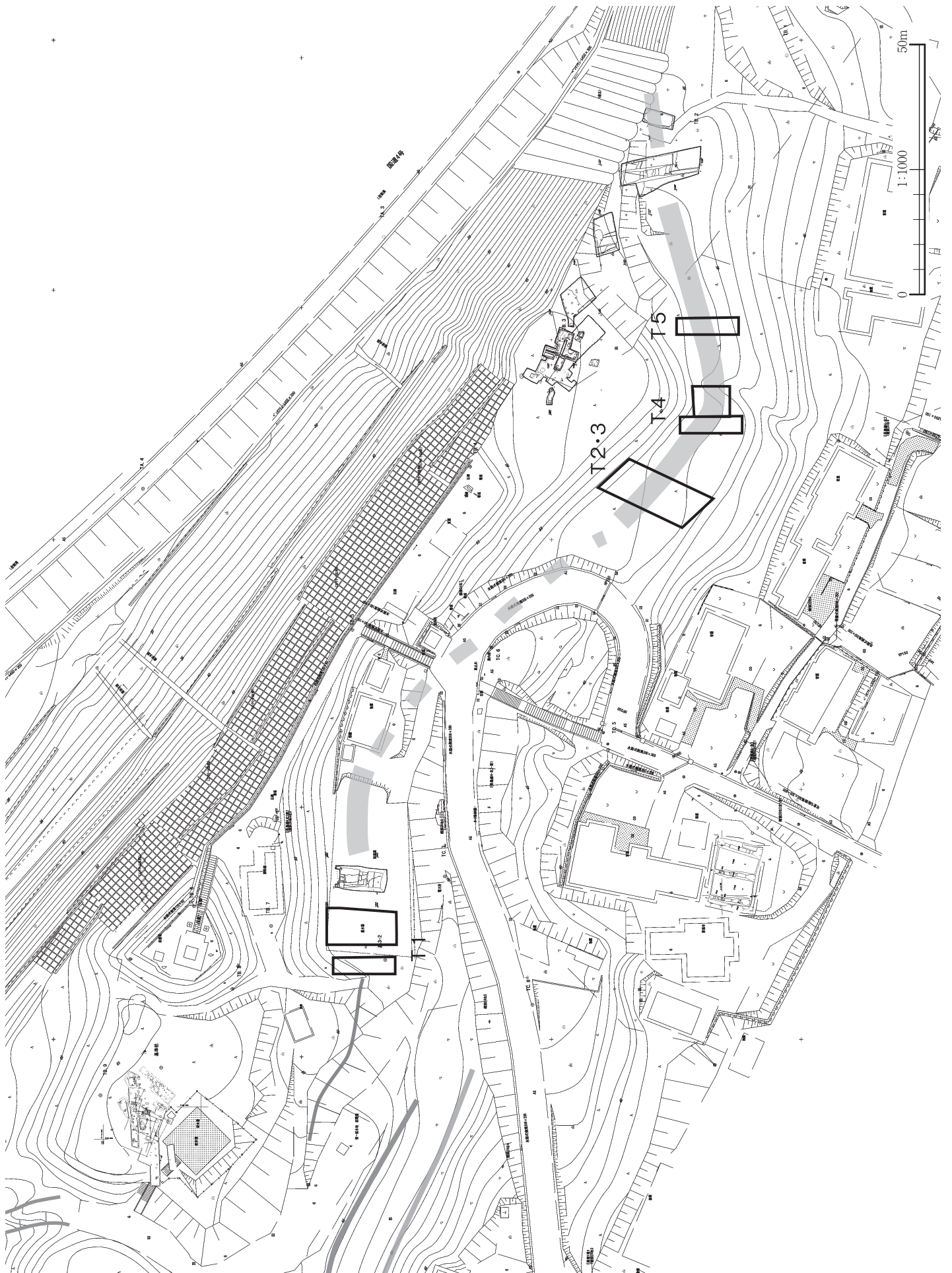


図43 高館跡調査位置

2 高館跡9次調査の概要

① 調査の概要

高館跡9次調査では高館が位置する丘陵上部を囲むと推定される堀跡の位置の確認と、柳之御所遺跡側に近い範囲で平坦面を中心に遺構の分布を確認することを目的として3カ所に調査区を設定した(図43)。

② 各トレンチの内容

1 トレンチ (T1)

位置

堀跡の延長の確認を目的とし、高館の丘陵部の南側、現在の義経堂の直下の平坦面を対象としている。7次調査では丘陵東部の部分で堀跡を確認したが、走行方向などに課題も残されていた。そこで、丘陵の南西側などで堀跡の有無などを確認する必要があると考えられた。8次調査では周囲の平坦面の分布など地形の状況から、堀跡が延びる可能性があると思定できる範囲に、調査区を設定した。この範囲で堀跡を確認したものの走向方向などに課題も残されていた。そこで9次調査では堀の延長方向などの確認を目的として、8次調査の範囲に隣接して1トレンチを設定した。

1トレンチでは堀跡1条、溝跡2条、整地範囲を確認した。

遺構と遺物の概要

SD1堀跡は幅6.5mほどの規模で確認した。堀はそのまま西に延びるが、丘陵の傾斜方向に延びる縦方向の溝によって端部が壊されている。SD1堀跡は遺構の精査を行っていないが、8次調査の所見からは深さ2mほどのV字に近い形状が推察できる。SD1堀跡の北側は、駐車場等の造成時に平坦面が広げられたとみられ、本来は斜面を利用した形でSD1堀跡が構築されたとみられる。

SD1堀跡を壊すSD3溝跡は幅4～5mほど、現地表面からの深さ4mほどの大溝跡である。堆積土は自然堆積によるもので、下層等の遺物は少ない。上層では12世紀代の遺物や近世以降の遺物もみられるものの、量は極めて少ない。そのため時期比定の根拠は少ない。

SD1堀跡の南側では厚い整地土層が確認できる。整地層は土層の違いから7層に分けることができ、それぞれ地山起源の黄褐色土ブロック土を多く含むが、その包含の割合などが異なる。旧来の傾斜地を、SD1堀跡を掘削した際とみられる土層が掻き上げられて整地されたものとみられる。現在の地形では整地土上面は平坦面を形成しているが、これが整地時点での平坦な造成とみることができるかは確定できない。平成26年度の7次調査でもSD1堀跡の南側に掻き上げたとみられる整地層が確認できており、上面は平坦だったものの、後世の特に中世後期段階での改変の有無は不明である。12世紀段階で造成が行われた可能性が高いものの、施設の有無は確定できない。また、この整地層上面でSD1堀跡の南側で堀と平行するSD2溝跡を確認した。SD2溝跡はSD1堀跡と平行して走り、整地層上面から掘削されている。堆積土はいずれも自然堆積による。これらの整地層及びSD3溝跡はいずれもSD2溝跡によって壊されている。

1トレンチでの遺構変遷は下記のように捉えられる。

SD1堀跡・整地層 ⇔ (→) SD3溝跡 → SD2溝跡

2・3 トレンチ (T2・3)

位置

平成26・27年度の調査でトレンチを設定した平坦面の南側に設定した。現況の高館周辺では北上川

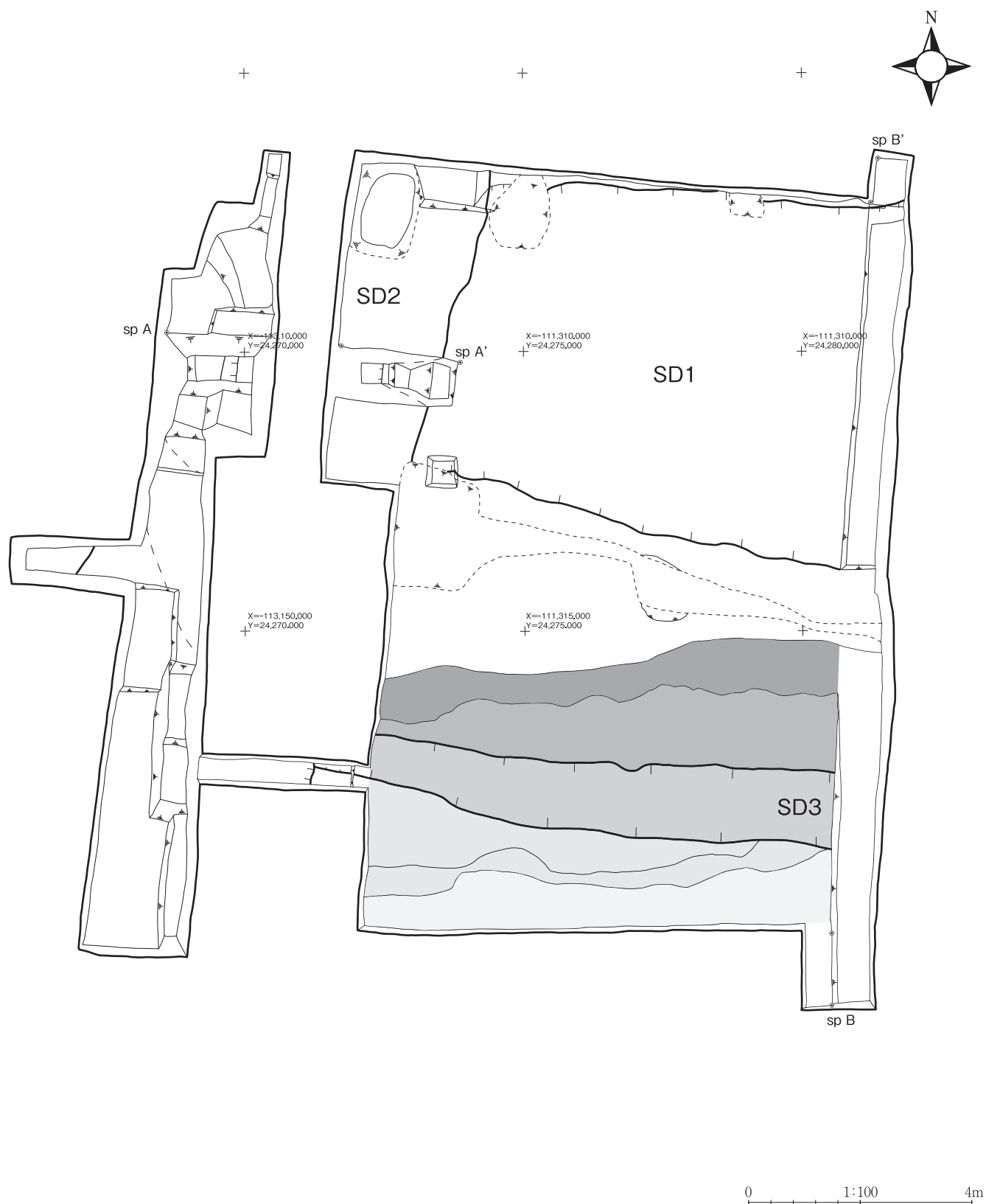


図44 T1 遺構平面図

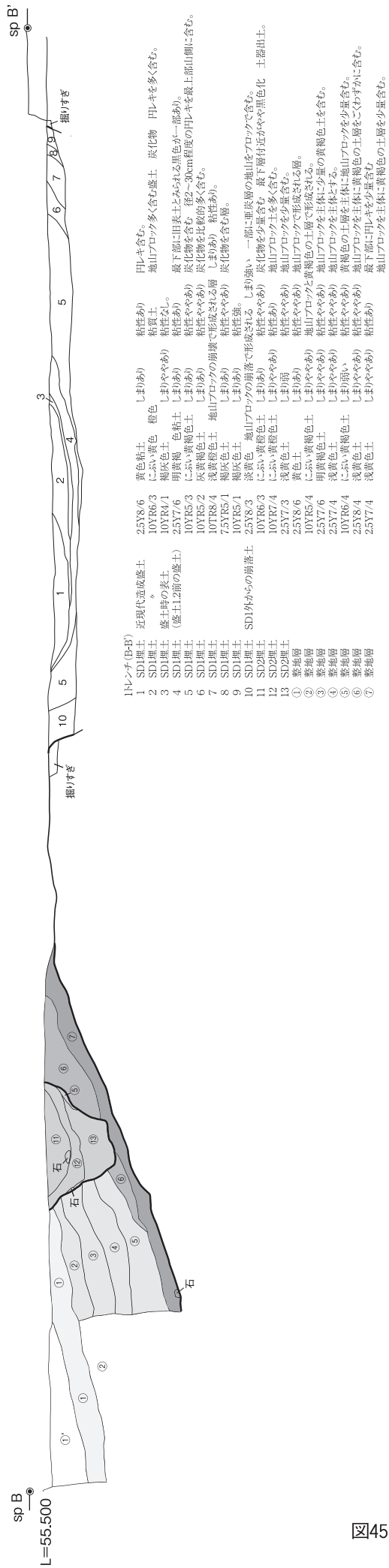


図45 T1 遺構断面図

トレンチ (A-A)	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
1 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
2 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
3 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
4 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
5 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
6 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
7 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
8 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
9 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
10 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
11 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
12 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
13 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
14 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
15 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
16 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
17 SD3埋土	近現代盛土造成	75YR5/2 灰褐色土	25YR6/3 褐色土	10YR6/3 褐色土	10YR6/4 褐色土	10YR6/6 褐色土	10YR6/7 褐色土	10YR6/8 褐色土	10YR6/9 褐色土	10YR6/10 褐色土	10YR6/11 褐色土	10YR6/12 褐色土	10YR6/13 褐色土	10YR6/14 褐色土	10YR6/15 褐色土	10YR6/16 褐色土	10YR6/17 褐色土	10YR6/18 褐色土	10YR6/19 褐色土	10YR6/20 褐色土
18 SD1埋土	12世紀代の埋土	10YR8/2 灰白色砂質土	10YR8/3 灰白色砂質土	10YR8/4 灰白色砂質土	10YR8/5 灰白色砂質土	10YR8/6 灰白色砂質土	10YR8/7 灰白色砂質土	10YR8/8 灰白色砂質土	10YR8/9 灰白色砂質土	10YR8/10 灰白色砂質土	10YR8/11 灰白色砂質土	10YR8/12 灰白色砂質土	10YR8/13 灰白色砂質土	10YR8/14 灰白色砂質土	10YR8/15 灰白色砂質土	10YR8/16 灰白色砂質土	10YR8/17 灰白色砂質土	10YR8/18 灰白色砂質土	10YR8/19 灰白色砂質土	10YR8/20 灰白色砂質土
19 SD1埋土	12世紀代の埋土	10YR8/2 灰白色砂質土	10YR8/3 灰白色砂質土	10YR8/4 灰白色砂質土	10YR8/5 灰白色砂質土	10YR8/6 灰白色砂質土	10YR8/7 灰白色砂質土	10YR8/8 灰白色砂質土	10YR8/9 灰白色砂質土	10YR8/10 灰白色砂質土	10YR8/11 灰白色砂質土	10YR8/12 灰白色砂質土	10YR8/13 灰白色砂質土	10YR8/14 灰白色砂質土	10YR8/15 灰白色砂質土	10YR8/16 灰白色砂質土	10YR8/17 灰白色砂質土	10YR8/18 灰白色砂質土	10YR8/19 灰白色砂質土	10YR8/20 灰白色砂質土
20 SD1埋土	12世紀代の埋土	10YR8/2 灰白色砂質土	10YR8/3 灰白色砂質土	10YR8/4 灰白色砂質土	10YR8/5 灰白色砂質土	10YR8/6 灰白色砂質土	10YR8/7 灰白色砂質土	10YR8/8 灰白色砂質土	10YR8/9 灰白色砂質土	10YR8/10 灰白色砂質土	10YR8/11 灰白色砂質土	10YR8/12 灰白色砂質土	10YR8/13 灰白色砂質土	10YR8/14 灰白色砂質土	10YR8/15 灰白色砂質土	10YR8/16 灰白色砂質土	10YR8/17 灰白色砂質土	10YR8/18 灰白色砂質土	10YR8/19 灰白色砂質土	10YR8/20 灰白色砂質土

1 トレンチ (B-B) 近現代造成盛土 1 SD1埋土 褐色土 25YR8/6 黄色粘土 2 SD1埋土 褐色土 10YR6/3 褐色土 3 SD1埋土 褐色土 10YR4/1 褐色土 4 SD1埋土 褐色土 25Y7/6 褐色土 5 SD1埋土 褐色土 10YR5/3 褐色土 6 SD1埋土 褐色土 10YR5/2 褐色土 7 SD1埋土 褐色土 10YR8/4 褐色土 8 SD1埋土 褐色土 75YR5/1 褐色土 9 SD1埋土 褐色土 10YR5/1 褐色土 10 SD1埋土 褐色土 25Y8/3 褐色土 11 SD2埋土 褐色土 10YR6/3 褐色土 12 SD2埋土 褐色土 10YR7/4 褐色土 13 SD2埋土 褐色土 25Y7/3 褐色土 14 整地層 褐色土 25Y8/6 褐色土 15 整地層 褐色土 10YR5/4 褐色土 16 整地層 褐色土 25Y7/6 褐色土 17 整地層 褐色土 25Y7/4 褐色土 18 整地層 褐色土 10YR6/4 褐色土 19 整地層 褐色土 25Y8/4 褐色土 20 整地層 褐色土 25Y7/4 褐色土

2層以上の切合いはトレンチ内では不明だが近現代の盛土と見られる(平面のプランから)。平面内への注記に黄褐色土とした土層 レキを含む 自然堆積層。斜面方向からの崩落土層 レキを多く含む。上層に遺物がはばくよく確認でき、ある一階層の表土に近い。厚い自然堆積の土層でこの下層へのこみとしてSD3が残存した時期が長いとみられる。遺物を含まない。10cm程度のレキ、黄色-灰白色の粘土(地山アロックを含む)。レキを含む 堆積方向は水平に近いが、山方向からの崩落か。黄色の地山アロックを多く含む、山方向からの崩落か。5層と似るがレキを含まない、9層との層厚で中ビが異なる。黄色の地山アロックを多く含む 9層とした部分はやや黄色みが強いが土質は類似する。漸移的な変化で同一の堆積か。水分を多く含む土層。水分を多く含む土層。地山アロックの崩落土。水分を多く含む土層。地山アロックを含む。この下層で一般微塵ありか。粘性が強く中ビが層厚にあり 水分の影響を受けた土層。砂質土で古い段階の崩落か。14と同様の土層とみられる。水分を含む土層。水分を多く含む。下層に地山アロック及びレキを含む。自然堆積土。10~20cmのレキを多く含む。SD1の埋土としたが、SD3の構築時の土層のなき上げの可能性もあるが平面でのプランがSD1の上層の近現代盛土のため不明。

によって大きく丘陵が削られたこともあり、平坦な地形面は少なく、建物跡等の遺構の所在が推定できる範囲も限られる。トレンチを設定した位置は丘陵頂部からは一段下がるものの、頂部に近く比較的平坦な地形が確認できる場所である。

平成26・27年度の調査では遺跡頂部の下の平坦面で、堀跡を確認している。このトレンチはその平坦面が延長して伸びるように地形面が観察できる部分である。堀跡の延長や周囲の遺構の状況の確認を目的としている。

2・3トレンチでは堀跡1条、土坑2個を確認した。

遺構と遺物の概要

SD1堀跡は幅7mほどで確認している。斜面上方にあたる岸は斜面の傾斜を活かして広げられている。斜面下方は掘り込みをもっている。斜面下方の岸の周辺でも一部で整地が行われるものの、他の地点で確認できるような厚い整地等は看取されない。

下方の平坦部で土坑を2基確認しているが、遺物は出土せず、時期・性格は不明である。堆積土はいずれも自然堆積による。

4 トレンチ (T4)

位置 2・3トレンチの南東付近に設定した。2・3トレンチ及び平成26・27年度調査範囲の平坦面の中間部分である。

現況の地形で、斜面上方から傾斜に沿って縦方向の溝状の範囲が観察でき、既往の調査で確認されている堀の延長の確認と縦方向の溝状の地形の性格を確認するためにトレンチを設定した。

堀跡1条、竪堀跡1条、焼土遺構3カ所を確認した。

遺構と遺物の概要

SD1堀跡は東西方向に確認したが、多くは後述の竪堀によって壊されており、断面での確認にとどまる部分も多い。そのため、規模等は必ずしも明確ではないが、幅6m以上、深さは2mほどと推察できる。

竪堀はこの堀跡を壊して傾斜方向に確認できる。現況地形で確認できる地形の窪みにあたり、調査では人工的な溝と把握できた。堆積土は自然堆積による。この竪堀によってSD1堀跡は壊されている。また、SD1堀跡の堆積土直上でこの堀跡の掘削土とみられる土層が堆積する。SD1堀跡の廃絶後、全体が埋まりきる以前には竪堀跡が構築されたとみられる。

なお、これまでの他地点でのSD1堀跡の堆積土でも上層部分は自然堆積のため、どの程度の時間幅をもって埋没したかは判断できていない。この地点での様相からは、SD1堀跡の掘削と溝跡（竪堀）の時間差が長期ではない、もしくはSD1堀跡の堆積には時間幅がある可能性が想定されよう。SD1堀跡が深さ2mほどと大規模なことや堆積土の様相でも遺物量などに差があることから、底面付近は傾斜上面からの堆積土により短期間での埋没の可能性が高いが、上層部分までの堆積には相応の時間幅をもつものを見なしておきたい。竪堀の底面では焼土が鉄滓とともに確認できた。

西側の平坦な範囲では焼土遺構が複数箇所確認できた。鍛冶等に関わるものとみられるが、地形の改変等もあり削平をうけており、鍛冶炉等の遺構は確認できなかった。この範囲ではSD1堀跡の傾斜下方にあたる南側の岸の肩は確認できていない。整地等に伴って検出面がより下層にあたるか、より南側に位置するか確定が難しいが、規模からはやや南側を通る平面プランを想定できる。

遺物は12世紀代のかわらけ、国産陶器が出土し、輸入陶磁器も少量ながら出土している。近世以降の遺物が少量、表土で出土しているものの、12世紀以降の遺物は少ない。また、竪堀部分からは羽口や炉壁片、鍛冶等に関連する可能性のある滓片が出土している。

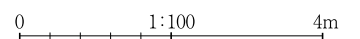
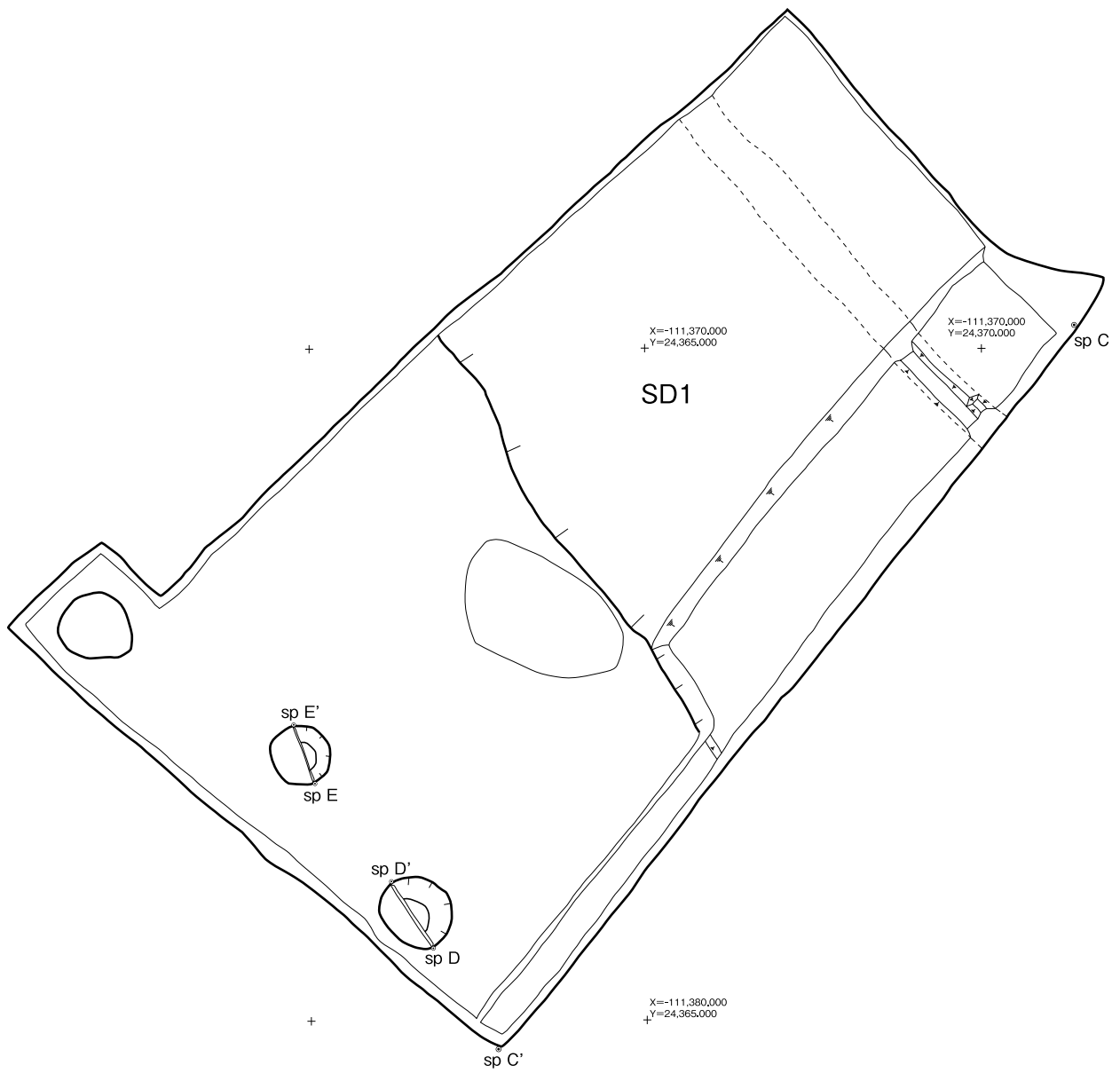
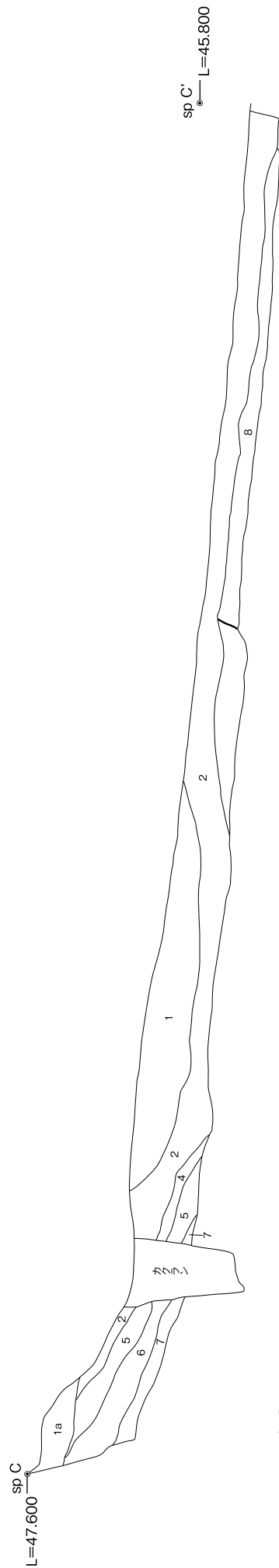


図46 T2・3平面図



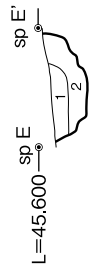
3トレンチ(c-c')

- 1 SDより新しい堆積 7.5YR3/1 黒褐色土 粘りなし 粘性弱い
 - 2 SDより新しい埋積 7.5YR4/1 褐灰色土 粘りなし 粘性弱い
 - 3 SDの埋土 10YR5/3 にこい黄褐色土 粘りなし 粘性弱い
 - 4 SDの埋土 7.5YR7/6 棕色土 粘りあり 粘性弱い
 - 5 SDの埋土 7.5YR5/2 灰褐色土 粘りあり 粘性弱い
 - 6 SDの埋土 7.5YR4/3 灰褐色土 粘りあり 粘性弱い
 - 7 SDの埋土 7.5YR7/6 棕色土 粘りあり 粘性弱い
 - 8 SDの外側の整地土か 7.5YR6/4 にこい棕色土 粘りあり 粘性弱い
- 表土 かわらけ等を含む 1aも表土 基本的に同質の土層 斜面からの崩落土の為しまりが弱い。
石、かわらけを含む。
炭化物かわらけ片を少量含む。SDの埋土だが上層のもの 斜面下部のせいか遺物も少ない。
上部からの崩落土 5cm弱のレキを多く含む。
4層との上下関係はカクラン部分のため不明 6との類似から5.6が4の下層と見られるか。
炭化物 かわらけ片を含む。6よりは多いがより下層は多くなる ここからSDの埋土(機能時に近い)か。
地山ブロック含む 遺物は含まない。整地土か。



SK(D=D')

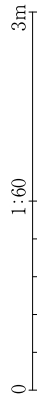
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 粘りなし 粘性弱い
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色土 粘りなし 粘性弱い
- 1,2いずれも遺物・炭化物は入らない。
埋土はしまりが少ないため、年代は不明 表土に近い埋土のため新しい可能性もある。



SK(E=E')

- 1 7.5YR4/1 褐灰色土 粘りなし 粘性弱い
 - 2 2.5Y5/2 暗灰黄色土 粘りなし 粘性弱い
- 1,2いずれも遺物・炭化物は入らない。8層由来の明るいブロックを含む。8がSDの整地層とすればそれより新しい。
しまりが弱いことから同様の時期とみられるが、性格等不明。
2の底面が柱穴状に凹むがこの部分は木の根によるカクランがありそのせいとみられる。

図47 T2・3断面図



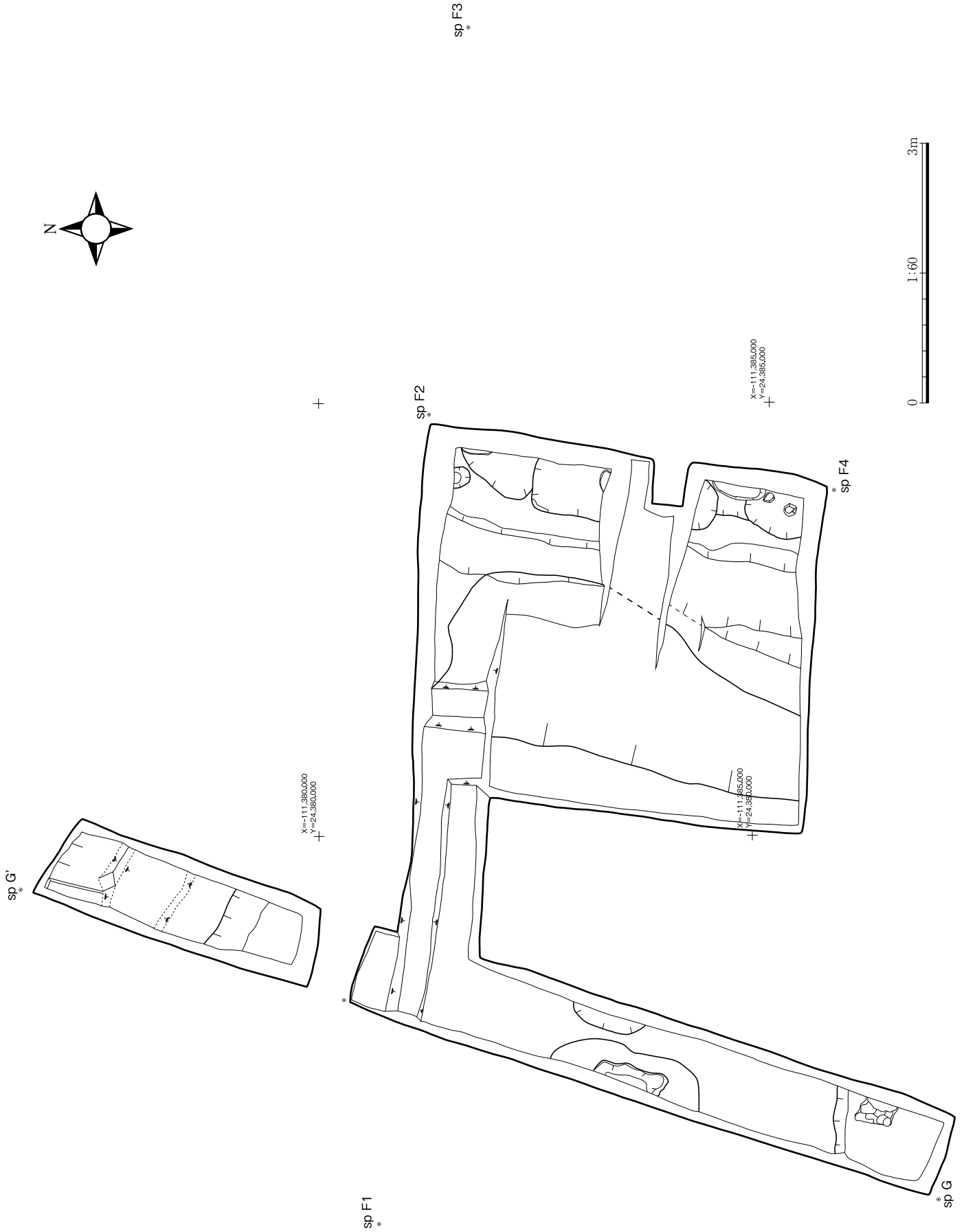


図48 T4平面図

2 高館跡 9次調査の概要

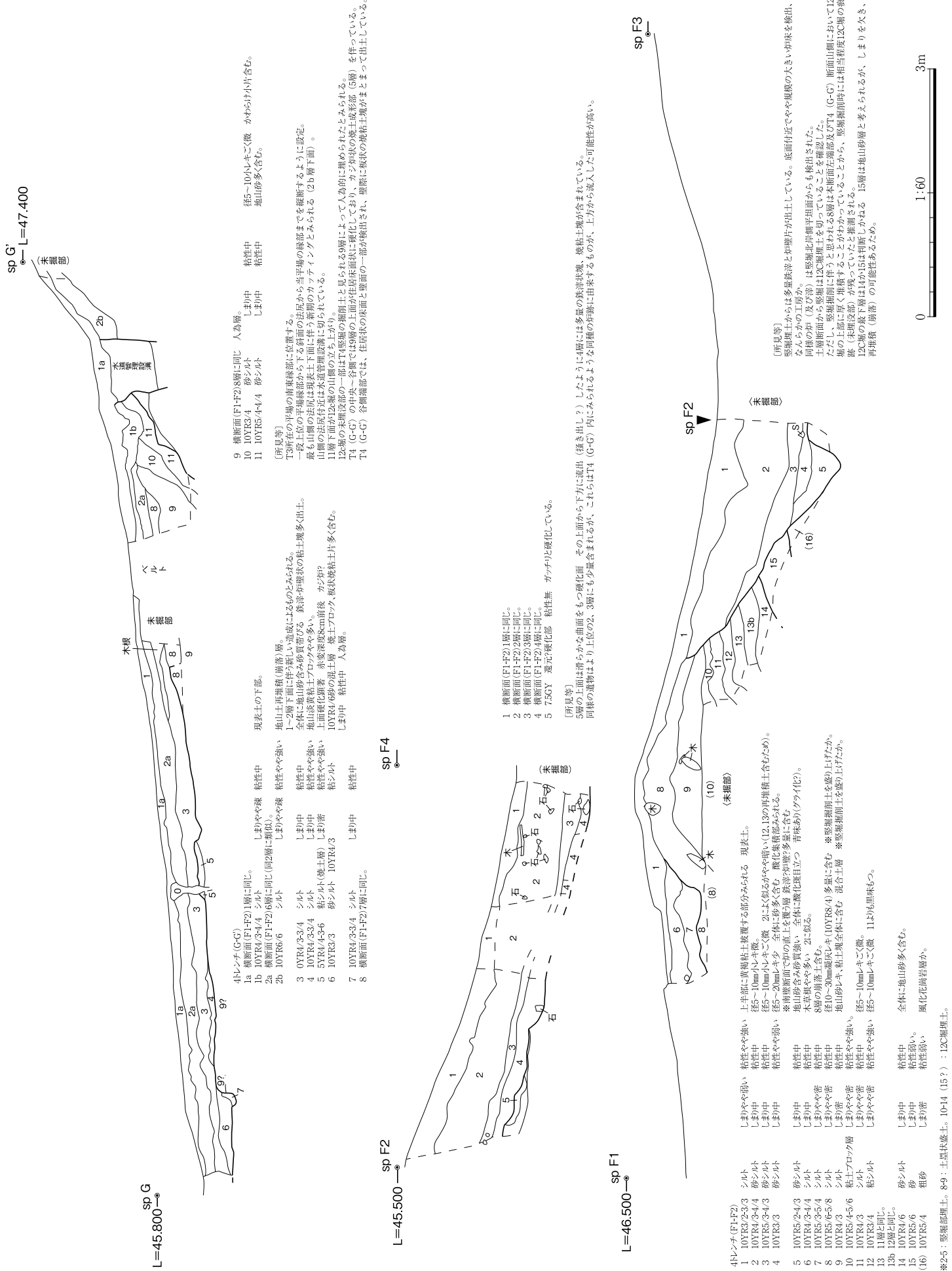


図49 T4断面図

このトレンチでは堀跡→堅堀・焼土遺構の変遷が確認できた。堀跡は12世紀の遺構と考えられ、縦方向の溝等はこれよりも新期の遺構とみられる。遺物が少ないため、確定できないが、中世後期の城館跡に関連する可能性が高い。なお焼土遺構に関連する鉄滓などは平成27年度調査で、高館の上部平坦面でも確認されており、この周囲で鍛冶等が行われた可能性が高いとみられる。

5 トレンチ (T5)

位置 平成26・27年度の調査でトレンチを設定した平坦面の南側に設定した。現況の高館周辺では北上川によって大きく丘陵が削られたこともあり、平坦な地形面は少なく、建物跡等の遺構の所在が推定できる範囲も限られる。トレンチを設定した位置は丘陵頂部からは一段下がるものの、頂部に近く比較的平坦な地形が確認できる場所である。平成26・27年度の調査では遺跡頂部の下の平坦面で、堀跡を確認している。このトレンチはその平坦面が延長して伸びるように地形面が観察できる部分である。

堀跡1条を確認した。

遺構と遺物の概要

堀跡はトレンチの中央付近を東西方向に走る状況で検出している。堆積土はいずれも自然堆積による。斜面上方の岸は本来の地形面を削って造成が行われている。斜面下方は掘り込みを確認している。整地等の土層は確認できていない。SD1堀跡の堆積土より上層の部分は斜面に沿って土層が流出したとみられる。そのため、他の地点の調査成果から斜面下方にあたる、整地等も流出した可能性も残るが、旧地形のありかたからは大規模な整地等は想定が難しい。

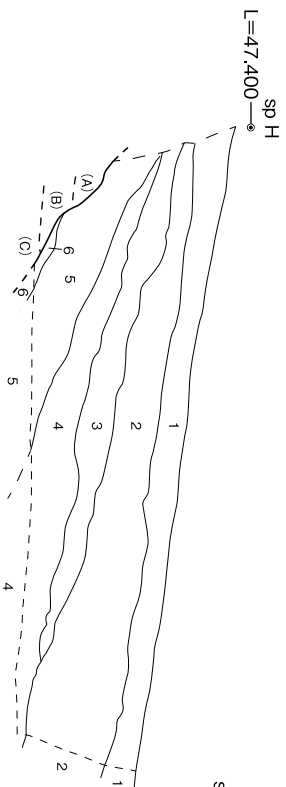
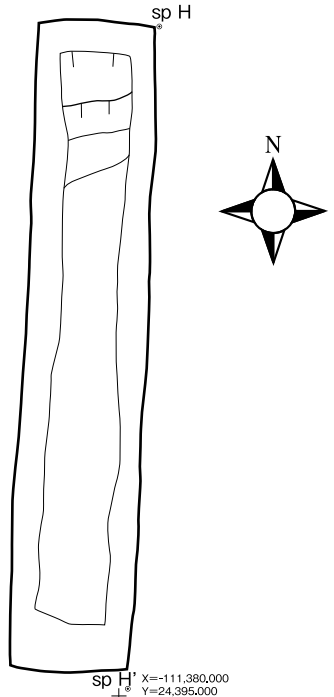
③ 調査成果の概要

高館跡が所在する丘陵中腹で大きな堀跡SD1を確認することができた。遺構の時期に関連する遺物は少ないが、12世紀代に限定されており、これまで得られている成果からは当該時期の遺構の可能性が高いと判断できる。1トレンチ及び平成27年度調査で確認しているSD1堀跡が2～5トレンチ及び平成26年度調査で確認している堀跡とつながる可能性が高いものと考えている。しかし、両トレンチの中間部では高低差が存在しており課題も残る。

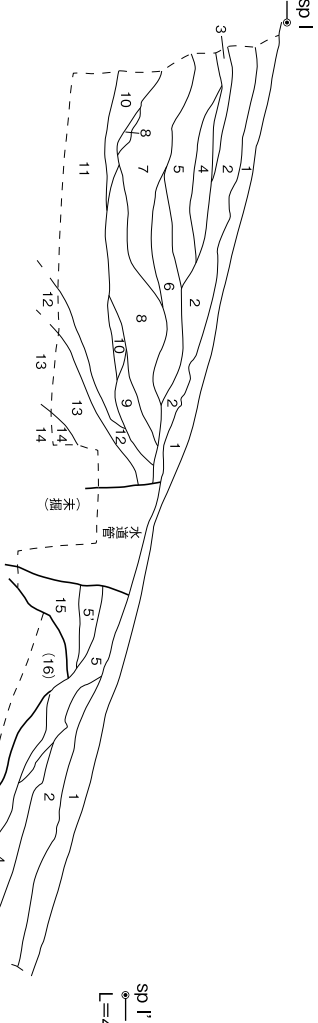
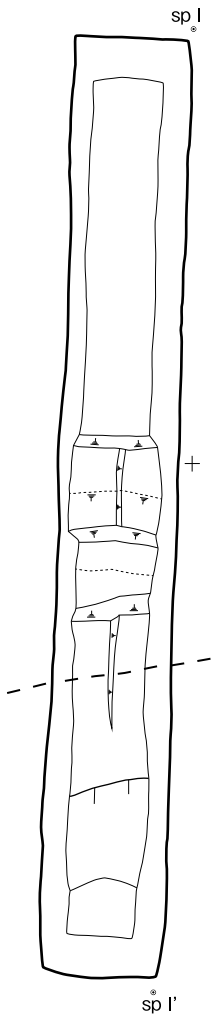
また高館の遺跡範囲の各所で、この堀跡を壊す縦方向の溝跡（堅堀跡）が分布することが確認できた。時期の特定には至っていないが、SD1堀跡よりも新しく、中世後期以降の可能性が高いとみられる。これらの遺構を含め、高館の遺構分布と変遷の理解には周囲の遺構や遺物と合わせて検討する必要がある。

なお、既述の通り高館跡の正式な報告は調査終了後に行う予定としており、遺物の報告や全体の位置づけはその際に行うこととしたい。

(櫻井)



- TS5(白)のT5(白)間
- 1 T5(白)のT5(白)間
 - 2 10YR5/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い、10YR5/6砂シロツク(地山の砂原起頂層、細砂、細砂を含む、径5-30mm)キ少。
 - 3 10YR4/3-4 シルト しまり中 粘性中
 - 4 10YR4/3-3 シルト しまり中 粘性やや強い、径5-20mm)キ微、粗-細砂を含む(微含)やや砂質部がある。
 - 5 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い、径5-10mm)キ微、径5-10mm)砂片が出て(黄泥入目立つ)。
 - 6 10YR4/4-6 砂 しまり中 粘性やや強い、地山層の砂や多々含む。
 - 7 10YR4/4-6 砂 しまり中 粘性やや強い、地山層の砂や多々含む。
 - 8 7.5YR5/4-6 粗砂 しまり密 粘性弱い、地山層の砂や多々含む。
 - 9 7.5YR5/4-6 粗砂 しまり密 粘性弱い、地山層の砂や多々含む。
 - 10 10YR4/3-4 シルト しまり中 粘性やや強い、径5-10mm)キ微、径5-10mm)砂片が出て(黄泥入目立つ)。
 - 11 10YR4/3-3 シルト しまり中 粘性中
 - 12 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い、径5-20mm)キ微、粗-細砂を含む(微含)やや砂質部がある。
 - 13 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い、径5-20mm)キ微、粗-細砂を含む(微含)やや砂質部がある。
 - 14 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い、径5-20mm)キ微、粗-細砂を含む(微含)やや砂質部がある。
 - 15 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い、径5-20mm)キ微、粗-細砂を含む(微含)やや砂質部がある。
 - 16 7.5YR4/5-4 シルト しまり中 粘性中



- TS5(白)のT5(白)間
- 1 10YR4/3-3 シルト しまり強い 粘性中
 - 2 10YR4/4 砂シルト しまり中 粘性やや強い
 - 3 10YR4/3 砂シルト しまり中 粘性やや強い
 - 4 10YR4/3-4 砂シルト しまり中 粘性やや強い
 - 5 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い
 - 6 10YR4/6 砂 しまり中 粘性やや強い
 - 7 10YR4/6 砂 しまり中 粘性やや強い
 - 8 10YR4/4 シルト-10YR4/4 粗砂 粘性やや強い
 - 9 8.5YR5/4-6 粗砂 しまり中 粘性やや強い
 - 10 10YR4/2-4/3 粗シルト しまり中 粘性やや強い
 - 11 10YR4/6 砂 しまり中 粘性やや強い
 - 12 10YR4/6 砂 しまり中 粘性やや強い
 - 13 10YR4/3-3 粗シルト しまり中 粘性中
 - 14 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い
 - 15 10YR4/4-6 砂シルト しまり中 粘性やや強い
 - 16 7.5YR4/5-4 シルト しまり中 粘性中

図50 T5 平面・断面図

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡-第56次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2010a 『柳之御所遺跡-第69次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2010b 『柳之御所遺跡-第I期保存整備事業報告書』岩手県文化財調査報告書第131集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡-第70次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡-第72次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県教育委員会 2014 『柳之御所遺跡-第74次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第140集
- 岩手県教育委員会 2015 『柳之御所遺跡-第75次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第144集
- 岩手県教育委員会 2016 『柳之御所遺跡-第76次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第147集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡X V-陶磁器分類編-』太宰府市の文化財第49集
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書-第35次調査概報-』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書-柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査-』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- 前川佳代2007 「「聖地」平泉」『平泉文化研究年報』第7号 岩手県教育委員会 pp.15-30
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古陶の譜 中世のやきもの』
- 八重樫忠郎 2010 「消費地からの渥美編年」『渥美半島の考古学』小野田勝一先生追悼論文集 pp.289-299
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 「柳之御所遺跡堀内部地区の遺構変遷（中間報告 その4）」『平泉文化研究年報』第8号 pp.65-75

表12-1 78次遺物観察表（かわらけ）

掲載番号	器種名	グリッド	出土地点	遺構名	修正層位	口径	器高	底径	重量	色調	備考	登録番号
1	ロクロ大		21SD1	T1	25層	(13)			10.2	5YR6/6橙	内側油煙?付着	78Rok20
2	ロクロ大		21SD1	T1	25層			6.4	49.4	7.5YR8/2灰白		78Rok21
3	手づくね小		21SD1	T1	25層	(8.8)	(1.3)		24.7	10YR5/1褐灰		78Rok9
4	手づくね大		21SD1	T1	25層		2.2		33.1	5Y8/1灰白		78Rok18
5	手づくね大		21SD1	T1	25層			3	12.9	5Y8/1灰白		78Rok19
6	ロクロ小		21SD1	T1	20層	(9.2)	1.6		47.1	7.5YR6/4にぶい橙		78Rok8
7	ロクロ大		21SD1	T1	20層	13.2	3.4		104.7	内側:10YR8/3浅黄橙	外側:5YR7/6橙	78Rok6
8	手づくね小		21SD1	T1	20層	9.4	1.8		55.8	10YR8/2灰白		78Rok7
9	手づくね大		21SD1	T1	20層	13.4	(2.4)		138.1	10YR8/2灰白		78Rok2
10	手づくね大		21SD1	T1	20層	13.7	2.9		150.9	10YR8/2灰白		78Rok3
11	手づくね大		21SD1	T1	20層	(15.6)	3.6		71.4	10YR8/3浅黄橙		78Rok4
12	手づくね大		21SD1	T1	20層	(13.6)	(2.6)		58.1	10YR8/2灰白		78Rok5
13	ロクロ大		21SD1	T1	18層	14.1	4.3		218.8	7.5YR7/6橙		78Rok33
14	手づくね小		21SD1	T1	18層	9	1.7		54.3	10YR8/2灰白		78Rok28
15	手づくね小		21SD1	T1	18層	9.6	1.9		39.1	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok29
16	手づくね小		21SD1	T1	18層	(9.6)	1.9		29.4	10YR8/4浅黄橙		78Rok30
17	手づくね小		21SD1	T1	18層	8.7	1.8		64.6	10YR8/3浅黄橙		78Rok31
18	手づくね小		21SD1	T1	18層	8.6	1.9		58.8	10YR8/3浅黄橙		78Rok32
19	手づくね大		21SD1	T1	18層	15.3	3		103.9	2.5Y8/1灰白		78Rok22
20	手づくね大		21SD1	T1	18層	13.4	2.3		54.5	10YR8/2灰白		78Rok23
21	手づくね大		21SD1	T1	18層	14.6	2.9		79.5	2.5Y8/3淡黄		78Rok24
22	手づくね大		21SD1	T1	18層	13.2			45.5	10YR8/2灰白		78Rok25
23	手づくね大		21SD1	T1	18層	13.8	2.8		115.6	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok26
24	手づくね大		21SD1	T1	18層	13.7	3		174.4	10YR8/2灰白		78Rok27
25	ロクロ小	77-100	21SD1	T1	17b層			5.3	43.3	10YR8/2灰白		78Rok141
26	ロクロ大	77-100	21SD1	T1	17b層	11.2	3.5		33	2.5Y8/2灰白		78Rok127
27	ロクロ大		21SD1	T1	17b層			6.6	91.9	10YR8/3浅黄橙		78Rok16
28	手づくね小		21SD1	T1	17b層	(8.8)	2.4		53.3	2.5Y8/2灰白		78Rok14
29	手づくね小		21SD1	T1	17b層	9.6	2		81.6	2.5Y8/2灰白		78Rok15
30	手づくね小	77-100	21SD1	T1	17b層	8.8	1.7		21.4	2.5Y7/2灰黄		78Rok126
31	手づくね大		21SD1	T1	17b層	(10.8)	2		31.3	10YR8/2灰白		78Rok10
32	手づくね小	77-100	21SD1	T1	17b層	10.3	2.2		25.4	10YR7/1灰白		78Rok121
33	手づくね大		21SD1	T1	17b層	(12.7)	2.4		81.4	10YR8/3浅黄橙		78Rok12
34	手づくね大		21SD1	T1	17b層	(14.8)	2.8		112	10YR8/2灰白		78Rok13
35	手づくね大		21SD1	T1	17b層		2.5		55	2.5Y8/1灰白		78Rok17
36	手づくね大		21SD1	T1	17b層	(12.5)	2.7		98.3	2.5Y8/1灰白		78Rok34
37	手づくね大		21SD1	T1	17b層	(11.7)	2.5		54.6	10YR8/3浅黄橙		78Rok11
38	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	13.7	3		107.3	2.5Y7/2灰黄		78Rok122
39	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	13.8	2.7		55.5	2.5Y7/2灰黄		78Rok128
40	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	11.9	2.7		42	2.5Y8/2灰白		78Rok129
41	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	12.7	2.5		76.8	2.5Y8/2灰白		78Rok130
42	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	(14.6)	(3.3)		38.1	2.5Y8/3淡黄		78Rok140
43	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	11.8	2.9		49.1	2.5Y7/2灰黄		78Rok145
44	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	(13.8)	3.25	(7.3)	91.6	2.5Y8/2灰白		78Rok146
45	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17b層	(13.7)	2.75	(6.9)	93.2	10YR8/1灰白		78Rok147
46	ロクロ小	77-100	21SD1	T1	16a層	(8.7)	1.8	(6)	68.2	10YR7/4にぶい黄橙		78Rok193
47	ロクロ小	77-100	21SD1	T1	16a層	(8.5)	(1.7)	(6)	22.2	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok196
48	ロクロ小	77-100	21SD1	T1	16a層		1.7	4.6	72.6	7.5YR7/4にぶい橙		78Rok202
49	ロクロ小	76-101	21SD1	T1	16a層	8.8	2.2	(6.3)	49	10YR8/3浅黄橙		78Rok207
50	ロクロ小	77-100	21SD1	T1	16a層			6.2	33.8	5YR7/4にぶい橙		78Rok208
51	ロクロ小	77-100	21SD1	T1	16a層	8.2	2.2	(5.9)	18.6	5YR7/4にぶい橙		78Rok214
52	ロクロ小		21SD1	T1	16a層相当	(8.5)	(1.7)	(6.0)	33	7.5Y8/1灰白		78Rok57
53	ロクロ大	77-100	21SD1	T1	16a層			7.2	67.1	2.5Y7/1灰白		78Rok138
54	ロクロ大		21SD1	T1	16a層相当				65.7	10YR8/3浅黄橙		78Rok51
55	ロクロ大		21SD1	T1	16a層相当			(6.5)	40.6	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok56
56	ロクロ大		21SD1	T1	16a層相当	13.6	3.2	6.7	155	7.5YR8/2灰白		78Rok76
57	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	8.5	1.8		58.6	10YR8/2灰白		78Rok134
58	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	9.7	2.3		71.5	10YR8/2灰白		78Rok135
59	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	(9.8)	1.1		53.2	2.5Y7/3浅黄		78Rok180
60	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	9	1.5		63.7	10YR8/2灰白		78Rok181
61	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	7.9	2.1		54.2	2.5Y7/2灰黄		78Rok182

表12-2 78次遺物観察表(かわらけ)

掲載番号	器種名	グリッド	出土地点	遺構名	修正層位	口径	器高	底径	重量	色調	備考	登録番号
62	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	(9.2)	1.7		65.7	2.5Y8/2灰白		78Rok187
63	手づくね小	76-101	21SD1	T1	16a層	9.4	1.8	5	28.1	2.5Y8/2灰白		78Rok195
64	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	9.8	2		39.8	2.5Y8/3淡黄		78Rok198
65	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	8.8	2.3		29.7	10YR6/2灰黄褐		78Rok199
66	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	10	2		38.1	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok209
67	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(9.5)	2.2		40	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok42
68	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	10	2.3		59.1	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok48
69	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	8.9	1.7		61.1	2.5Y7/2灰黄		78Rok49
70	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	9.6	2.1		56.2	2.5Y7/2灰黄		78Rok50
71	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(8.9)	(1.9)		28.7	10YR7/1灰白		78Rok53
72	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	9.3	2		65.9	2.5Y7/2灰黄		78Rok63
73	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(8.1)	1.9		24.5	2.5Y7/2灰黄		78Rok64
74	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(7.8)	(1.9)		23.4	2.5Y8/1灰白		78Rok65
75	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.6	2.8		134.5	2.5Y8/2灰白		78Rok1
76	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	9.1	2.4		51.1	2.5Y7/2灰黄		78Rok123
77	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.8	2.5		41.1	2.5Y7/3浅黄		78Rok124
78	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.6	3		38.1	2.5Y8/2灰白		78Rok125
79	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	14.8	2.7		34.4	10Y8/3浅黄橙		78Rok131
80	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.2	3.2		52.3	10YR8/2灰白		78Rok132
81	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(14)	(2.2)		34.2	2.5Y8/3淡黄		78Rok133
82	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	10.9	2.2		70.8	2.5Y7/2灰黄		78Rok136
83	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.4	2.4		83	10YR8/2灰白		78Rok137
84	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	11.8	2.8		43.9	2.5Y8/2灰白		78Rok142
85	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.8		38.9	2.5Y7/2灰黄		78Rok143
86	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.8	3		87.9	2.5Y7/3浅黄		78Rok144
87	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(12.6)	2.8	(7.4)	75.3	10YR8/1灰白		78Rok148
88	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.7	2.8		48	10YR8/3浅黄橙		78Rok177
89	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.2		84.1	2.5Y8/2灰白		78Rok178
90	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.6	2.9		72	2.5Y8/3淡黄		78Rok179
91	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(12.4)	(2.4)		78.9	10YR8/2灰白		78Rok183
92	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	14	2.3	8	73	10YR8/2灰白		78Rok184
93	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.6	7	86.8	10YR8/4浅黄橙		78Rok185
94	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.9	2.9		196	2.5Y7/3浅黄		78Rok186
95	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13	2.2	9.9	56.4	2.5Y8/2灰白		78Rok188
96	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(15.3)	(2.5)		24.7	10YR8/3浅黄橙	内面にこげあり	78Rok189
97	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(10)	(2.3)		47.2	10YR8/3浅黄橙		78Rok190
98	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	11.7	2.3		36.2	10YR8/3浅黄橙		78Rok191
99	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	14.2	2.9	7	66.2	2.5Y8/2灰白		78Rok192
100	手づくね大	76-101	21SD1	T1	16a層	12.4	2.6	7	60.9	2.5Y8/3淡黄		78Rok194
101	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(13.4)	(2.8)		55.4	2.5Y8/2灰白		78Rok197
102	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	3		157.2	2.5Y8/3淡黄		78Rok200
103	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	10.9	2.3		56.3	2.5Y7/2灰黄		78Rok201
104	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.7	2.7		51.2	7.5YR8/4浅黄橙		78Rok204
105	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.8		67	10YR8/2灰白		78Rok205
106	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.7	2.9		88.7	10YR8/3浅黄橙		78Rok206
107	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.7	2.2		59.8	2.5Y8/2灰白		78Rok210
108	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13	2.4		74.8	2.5Y8/3淡黄		78Rok211
109	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.3		57.8	10YR8/3浅黄橙		78Rok212
110	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.5	3		118.7	7.5YR8/4浅黄橙		78Rok213
111	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.4)	2.9		40.9	10YR8/2灰白		78Rok43
112	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	12.2	2.5		103.1	10YR8/4浅黄橙		78Rok44
113	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(13.6)	3.3		42.6	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok45
114	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(15.3)	(2.9)		40.1	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok46
115	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.6)	(3.1)		65.7	10YR8/1灰白		78Rok47
116	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14)	(3.1)		92.2	2.5Y7/2灰黄		78Rok52
117	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	10.4	2		54	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok54
118	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	11.3	1.8		49.9	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok55
119	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	12.4	2.3		107.5	5Y8/2灰白		78Rok61
120	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.2)	2.9		84.1	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok62
121	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.1)	(3)		62.5	2.5Y7/2灰黄		78Rok75
122	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当				7.5	10YR8/2灰白	墨書	78Rok58

表12-3 78次遺物観察表（かわらけ）

掲載番号	器種名	グリッド	出土地点	遺構名	修正層位	口径	器高	底径	重量	色調	備考	登録番号
123	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当				10.1	10YR7/3にぶい黄橙	墨書	78Rok59
124	内折れ	77-100	21SD1	T1	16a層	(9)	(0.8)		15.2	10YR8/2灰白		78Rok139
125	内折れ	77-100	21SD1	T1	16a層		(0.8)		2.3	10YR8/3浅黄橙		78Rok232
126	内折れ	77-100	21SD1	T1	16a層			(0.8)	3.7	2.5Y8/3淡黄		78Rok236
127	ロクロ大	77-100	21SD1	T1	6~15層			8.6	173.2	7.5YR7/4にぶい橙		78Rok39
128	ロクロ大	76-101	21SD1	T1	6~17a層相当	12.8	1.8	(7)	61.3			78Rok245
129	柱状高台	76-99	21SD1	T1	5層以上相当		(2.5)	5.6	54.4	10YR8/2灰白		78Rok243
238	ロクロ小		21SD1	T2	11・12層	(8.8)	1.8	(6.4)	16	7.5YR7/4にぶい橙		78Rok74
239	ロクロ小	76-100,77-100	21SD1	T2	11・12層	8.3	1.5	5.7	54.7	10YR8/3浅黄橙		78Rok150
240	ロクロ小		21SD1	T2	11・12層	(9)	(1.9)	(6.8)	17.3	2.5Y7/2灰黄		78Rok67
241	ロクロ大		21SD1	T2	11・12層	(12.3)			42.5	7.5YR7/2明褐灰		78Rok71
242	ロクロ大		21SD1	T2	11・12層	13.1	3.3	7.2	203.4	10YR8/1灰白		78Rok73
243	手づくね小		21SD1	T2	11・12層	(7.8)	2.1		20.7	10YR7/2にぶい黄橙	油煙?付着	78Rok66
244	手づくね小		21SD1	T2	11・12層	(8.7)	(2.2)		32.6	2.5Y7/2灰黄		78Rok70
245	手づくね大		21SD1	T2	11・12層	(13.7)	(2.9)		53.8	2.5Y7/2灰黄		78Rok68
246	手づくね大		21SD1	T2	11・12層	(13.8)	(2.5)		26.2	2.5Y7/2灰黄		78Rok69
247	手づくね大		21SD1	T2	11・12層	(14.6)	(3.1)		80.6	10YR7/1灰白		78Rok72
248	ロクロ小		21SD1	T2	7層	(8.8)	1.6	(5.8)	31.3	2.5Y7/3浅黄		78Rok117
249	ロクロ大		21SD1	T2	7層				42.1	7.5YR8/1灰白	内・外・断面煤で黒い	78Rok77
250	ロクロ大		21SD1	T2	7層			(6.4)	19.5	7.5YR7/3にぶい橙		78Rok84
251	ロクロ大		21SD1	T2	7層	13.8	3		48.9	7.5YR6/1褐灰		78Rok98
252	ロクロ大		21SD1	T2	7層		(1.1)	6.7	38.1	2.5Y7/2灰黄		78Rok106
253	ロクロ大		21SD1	T2	7層			(10)	48.5	10YR8/2灰白		78Rok116
254	手づくね小	76-100,77-100	21SD1	T2	7層	(9.4)	1.6		24.3	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok35
255	手づくね小		21SD1	T2	7層	8	1.7		31.9	2.5Y7/1灰白		78Rok89
256	手づくね小		21SD1	T2	7層	9.2	1.9		57.5	5Y7/2灰白		78Rok99
257	手づくね小		21SD1	T2	7層	(8.2)	(1.5)		24.4	2.5Y7/2灰黄		78Rok104
258	手づくね小		21SD1	T2	7層	8.5	1.5		60.6	10YR8/2灰白		78Rok105
259	手づくね小		21SD1	T2	7層	8.7	1.7		53.5	10YR8/2灰白		78Rok120
260	手づくね小		21SD1	T2	7層	9.8	1.8		35	2.5Y6/3にぶい黄		78Rok114
261	手づくね小		21SD1	T2	7層	(9.8)	(1.8)		25.5	7.5YR6/1褐灰		78Rok115
262	手づくね小		21SD1	T2	7層	(9.5)	(1.6)		27	7.5YR8/2灰白		78Rok90
263	手づくね小		21SD1	T2	7層	9.7	1.8		26.2	2.5Y7/2灰黄		78Rok97
264	手づくね大		21SD1	T2	7層	14.4	3.3		209.4	2.5Y7/2灰黄		78Rok36
265	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.9	2.9		244.3	10YR8/2灰白		78Rok37
266	手づくね大	76-100,77-100	21SD1	T2	7層	14	3.4		173.7	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok38
267	手づくね大		21SD1	T2	7層		3.8		231.7	7.5YR8/2灰白		78Rok40
268	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.8	2.9		169.9	10YR8/2灰白		78Rok41
269	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.8	2.3		88.2	2.5Y8/3淡黄		78Rok81
270	手づくね大		21SD1	T2	7層	(15.1)	(3.4)		58.6	7.5YR7/2明褐灰		78Rok82
271	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.2)	(2.6)		39.5	2.5YR8/2灰白		78Rok83
272	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.6)	2.2		29.7	2.5Y7/2灰黄		78Rok86
273	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.9)	(3.1)		33.9	2.5Y6/2灰黄		78Rok87
274	手づくね大		21SD1	T2	7層	(11.6)	(2.4)		44.4	10YR6/2灰黄褐		78Rok88
275	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.6)	(2.5)		41.8	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok91
276	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.8	2.7		67.3	2.5Y8/2灰白		78Rok92
277	手づくね大		21SD1	T2	7層	(14.7)	(3)		52.9	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok93
278	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.3)	(2.5)		49.7	2.5Y7/1灰白		78Rok94
279	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.3	2.4		108.5	10YR8/2灰白		78Rok95
280	手づくね大		21SD1	T2	7層	11.8	2.8		34.5	2.5Y8/2灰白		78Rok96
281	手づくね大		21SD1	T2	7層	10.7	2.8		70.4	2.5Y7/1灰白		78Rok100
282	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.7)	(2.6)		42.7	10YR8/2灰白		78Rok101
283	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13)			48.4	2.5Y8/1灰白		78Rok102
284	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.8)	(2.3)		23.1	2.5Y6/2灰黄		78Rok103
285	手づくね大		21SD1	T2	7層	(14.4)	(2.5)		27.1	2.5Y7/2灰黄		78Rok107
286	ロクロ大		21SD1	T2	7層	(13.4)			35.7	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok109
287	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.4)	(2.9)		53.9	2.5Y7/3浅黄		78Rok110
288	手づくね大		21SD1	T2	7層	15.7	2.5		127.2	7.5YR6/1褐灰	口縁部油煙	78Rok111
289	手づくね大		21SD1	T2	7層	14	2.9		220.6	2.5Y7/1灰白		78Rok118
290	手づくね大		21SD1	T2	7層	14.8	3.1		106.9	10YR7/2にぶい黄橙		78Rok119
291	ロクロ大		21SD1	T2	7層	12.6	3.2		29.4	2.5Y7/3浅黄		78Rok152

表12-4 78次遺物観察表 (かわらけ)

掲載番号	器種名	グリッド	出土地点	遺構名	修正層位	口径	器高	底径	重量	色調	備考	登録番号
292	内折れ		21SD1	T2	7層		(1)		9.2	10YR8/2灰白		78Rok79
293	ロクロ小	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	8.3	2.1	(6.3)	39.5			78Rok220
294	ロクロ大	76-100	21SD1	T2	2~4層相当			(8.0)	62.9	7.5YR8/4浅黄橙		78Rok222
295	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	8.8	1.6		26.6	2.5Y7/4浅黄		78Rok217
296	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	8.2	2		22.1			78Rok221
297	手づくね小	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	8.8	1.7		46			78Rok224
298	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	7.8	1.6		26.2	10YR8/3浅黄橙		78Rok226
299	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	9.8	1.8		26.6			78Rok228
300	手づくね小	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	7.8	1.7		21			78Rok229
301	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	12.8	3		56.1	2.5Y8/3淡黄		78Rok215
302	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	13.8	2.8		116.4	5YR8/3淡橙		78Rok216
303	手づくね大	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	13.2	2.5		50.7			78Rok223
304	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	12.8	2.7		37.9	2.5Y8/2灰白		78Rok225
305	手づくね大	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	12.4	2.8		69.3	2.5Y8/2灰白		78Rok227
306	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	13	2.6		31.8			78Rok244
307	柱状高台	76-100	21SD1	T2	2~4層相当			5	30.7	7.5YR8/2灰白		78Rok242
308	内折れ	77-100	21SD1	T2	2~4層相当		(0.75)		2.1	10YR8/2灰白		78Rok233
309	内折れ	77-100	21SD1	T2	2~4層相当		(0.9)		9.2	2.5Y7/3浅黄		78Rok234
310	手づくね大		21SD1	T2		14.8	3		28.2	10YR7/4にぶい黄橙		78Rok151
311	手づくね大		21SD1	T2	7層				13.8	10YR7/2にぶい黄橙	墨書 79Rok113と一緒	78Rok80 78Rok113
363	ロクロ小		21SD1	T3		8.8	1.5	(6)	26.5	7.5YR7/6橙		78Rok170
364	ロクロ小		21SD1	T3		7.9	1.5	(5.8)	37	7.5YR7/6橙		78Rok171
365	手づくね小		21SD1	T3		7.8	1.5		37.7	10YR8/4浅黄橙		78Rok169
366	手づくね小		21SD1	T3	19層下面	8.2	2.8		44.8	10YR8/3浅黄橙		78Rok173
367	手づくね小		21SD1	T3	19層下面	8.8	1.7		58	10YR8/2灰白	内面油煙あり	78Rok174
368	手づくね大		21SD1	T3	東半部一括	14.8	3.2		100.2	2.5Y8/3淡黄		78Rok165
369	手づくね大		21SD1	T3		(13.2)	2.2		67.4	10YR8/2灰白		78Rok172
370	手づくね大		21SD1	T3		(14)	2.5		96.8	10YR8/3浅黄橙		78Rok175
371	手づくね大		21SD1	T3	19層下面	12.4	2.6		56	2.5Y8/2灰白		78Rok176
378	ロクロ大	77-100	21SD1			(13.6)	(3.9)	(9.1)	57.8	10YR8/1灰白		78Rok160
379	ロクロ大	77-100	21SD1			(13.6)	(3.8)	(7.2)	80.8	10YR8/2灰白		78Rok161
380	ロクロ大	77-100	21SD1				(3.6)		60.1	10YR8/3浅黄橙		78Rok162
381	ロクロ大	77-100	21SD1			14	3.8	7	212.7	7.5YR7/3にぶい橙		78Rok163
382	ロクロ大	77-100	21SD1				(4)	7.6	97.3	7.5YR7/4にぶい橙		78Rok164
383	手づくね大	77-100	21SD1			(11.8)	(2)		50.5	7.5YR8/2灰白		78Rok159
393	ロクロ小		21SD2		検出面	8.2	2	5.6	61.7	10YR8/3浅黄橙		78Rok155
394	ロクロ大	75-102	21SD2		埋土上部			(8)	19.6	10YR7/4にぶい黄橙		78Rok157
395	ロクロ大	75-103付近	21SD2		検出面	12.6	3.5	(7.8)	61	7.5YR7/6橙		78Rok153
396	手づくね小	74-102	21SD2		-	(9.2)	2		61.2	7.5Y8/1灰白		78Rok156
397	手づくね大		21SD2		検出面	(13)	(2.4)		33.6	10YR8/2灰白		78Rok154
398	手づくね大	75-101	21SD2		埋土上部				21	2.5Y8/2灰白		78Rok158
399	内折れ	95-97	78SD1				(1)		3.8	7.5YR8/4浅黄橙		78Rok167
400	内折れ	95-97	78SD1				(1.1)		4.9	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok168
401	内折れ		78SD1				(0.8)		5.1	10YR7/4にぶい黄橙		78Rok239
	手づくね	77-100	21SD1	T1	16a層				6.2		漆	78Rok203
	内折れ	77-100	21SD1	T1	16a層				5			78Rok237
	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当				16.2			78Rok60
	手づくね	76-100	21SD1	T2	2~4層相当				3.9		漆	78Rok218
	手づくね	76-100	21SD1	T2	2~4層相当				3.3		漆	78Rok219
	手づくね		21SD1	T2	7層				5.6		漆か?	78Rok85
	手づくね		21SD1	T2	7層				3.5		刻書?	78Rok108
	手づくね		21SD1	T2	7層				4.9		漆	78Rok112
	手づくね		21SD1	T3					3.7		植物種子圧痕	78Rok166
	内折れ	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		(0.9)		3.9	10YR7/4にぶい黄橙		78Rok240
	内折れ	77-101	21SD1	T1	5層以上相当		(0.6)		2.6	10YR8/2灰白		78Rok241
	手づくね	76-100	21SD1	T1	5層以上相当				4		漆	78Rok230
	手づくね	76-100	21SD1	T1	5層以上相当				3.8		漆	78Rok231
	内折れ	76-101	21SD1	T1	5層以上相当		(0.8)		4.2	2.5Y7/3浅黄		78Rok235
	内折れ	77-100	21SD1	T1	5層下面相当		(1.1)		12.5	10YR8/2灰白		78Rok149
	内折れ	77-100	21SD1	T1	2~4層相当		(0.7)		3.7	10YR7/3にぶい黄橙		78Rok238

表13-1 78次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺構名	層位	重量 (g)	色調	備考	登録番号
130	常滑	甕	体部		21SD1	T1	25層	15.3	外:5Y4/3暗オリーブ 内:2.5YR5/1黄灰		78Rot254
131	渥美	甕	体部		21SD1	T1	17b層	45.8	外:5YR5/1褐灰 内:5Y5/3灰オリーブ		78Rot255
132	渥美	壺	底部		21SD1	T1	17b層	88.6	7.5Y7/1灰白		78Rot256
133	須恵器	甕	頸部	77-100	21SD1	T1 T2	16a層 2~4層相当	51.5	外:5GY7/1明オリーブ灰 内:N6/0灰		78Rot173 78Rot126
134	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	98.2	外:N4/0灰 内:2.5Y5/1黄灰		78Rot175
135	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	31.1	N6/0灰		78Rot176
136	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	23.5	外:5YR6/4にぶい橙 内:5YR5/2灰褐		78Rot177
137	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	35	10YR6/2灰黄褐		78Rot178
138	渥美	甕	体部	76-101	21SD1	T1	16a層	106.3	外:7.5YR5/1褐灰 内:7.5YR5/2灰褐		78Rot180
139	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	56.6	外:7.5YR7/1明褐灰 内:7.5YR6/3にぶい褐		78Rot182
140	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	16a層	14	外:5Y4/2灰オリーブ 内:7.5Y5/1灰		78Rot183
141	須恵器	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	53.1	外:2.5Y5/1黄灰 内:2.5Y6/1黄灰		78Rot244
142	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	139.3	外:5Y5/2灰オリーブ 内:2.5Y4/2暗灰黄		78Rot245
143	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	137.4	外:7.5YR6/1褐灰 内:7.5YR5/2灰褐		78Rot246
144	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	42.3	外:10YR3/1黒褐 内:10YR4/1褐灰		78Rot247
145	渥美	甕	口縁部	77-100	21SD1	T1	16a層	38.7	外:7.5YR3/1黒褐 内:7.5YR5/1褐灰		78Rot248
146	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	41.8	外:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y6/1黄灰		78Rot249
147	須恵器	甕	体部	77-100	21SD1	T1	6~15層相当	7.7	10Y4/1灰		78Rot34
148	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	6~15層相当	38.9	5Y5/1灰		78Rot36
149	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	6~15層相当	163.3	外:5GY5/1オリーブ灰 内:10YR5/2灰黄褐		78Rot239
150	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	6~15層相当	42.1	外:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y6/1黄灰		78Rot240
151	渥美	山茶碗	口縁部		21SD1	T1	6~15層相当	7.8	外:5Y7/1灰白 内:7.5Y6/2灰オリーブ		78Rot241
152	須恵器系	甕	頸部	77-100	21SD1	T1	6~15層相当	59.6	10Y4/1灰		78Rot35
153	渥美	甕	頸部		21SD1	T1	6~15層相当	93.7	10YR2/1黒		78Rot242
154	須恵器	甕	口縁部		21SD1	T1	6~15層相当	16.7	7.5Y5/1灰		78Rot243
155	常滑	甕	体部		21SD1	T1	6~15層相当	23	外:N7/0灰 内:N6/0灰		78Rot266
156	常滑	甕	口縁部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	40.8	外:10Y3/1オリーブ黒 内:10Y5/1灰		78Rot25
157	渥美	壺	体部	76-108	21SD1	T1	5層以上相当	5.3	外:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y6/2灰黄		78Rot26
158	渥美	片口鉢	高台部	76-101	21SD1	T1	5層以上相当	15.8	5Y7/1灰白		78Rot42
159	常滑	甕	頸部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	24.7	2.5YR4/1赤灰		78Rot43
160	常滑	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	28	外:2.5YR4/3にぶい赤褐 内:10YR5/4にぶい黄褐		78Rot44
161	渥美	壺	頸部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	15.8	外:N4/0灰 内:N6/0灰		78Rot45
162	渥美	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	20.1	10YR5/1褐灰		78Rot46
163	常滑	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	34.8	7.5YR4/3		78Rot47 78Rot84
164	須恵器	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	13.5	2.5YR5/1黄灰		78Rot48
165	常滑	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	8.7	外:7.5YR4/3褐 内:10YR6/4にぶい黄橙		78Rot49
166	須恵器	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	2.7	外:2.5Y7/1灰白 内:10YR3/1黒褐		78Rot50
167	常滑	壺	口縁部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	10.4	外:7.5Y3/1オリーブ黒 内:7.5Y4/3暗オリーブ		78Rot55
168	常滑	甕	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	76.2	10YR4/2灰黄褐		78Rot51
169	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	63	外:2.5Y4/1黄灰 内:10YR3/2黒褐		78Rot53
170	須恵器	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	2.9	N4/0灰		78Rot56
171	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	19.5	2.5Y7/1灰白		78Rot58
172	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	46.7	外:5Y3/2オリーブ黒 内:2.5Y5/1黄灰		78Rot57
173	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	9.4	外:10Y5/1灰 内:10Y6/1灰		78Rot59
174	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	150.2	外:10Y5/2オリーブ灰 内:10YR7/1黒		78Rot61
175	常滑	甕	口縁部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	45.7	5YR5/4にぶい赤褐		78Rot62
176	常滑	片口鉢	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	12.5	7.5Y6/1灰		78Rot60
177	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	30.2	2.5Y7/1灰白		78Rot63
178	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1 T2	5層以上相当 2~4層相当	53.1	外:5YR3/3暗赤褐 内:10YR6/3にぶい黄橙		78Rot64 78Rot140

表13-2 78次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺構名	層位	重量 (g)	色調	備考	登録番号
179	須恵器系	坏	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	5.7	N5/0灰		78Rot65
180	須恵器系	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	55.3	外:7.5Y5/1灰 内:7.5Y6/1灰		78Rot66
181	須恵器	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	51.6	7.5Y5/1灰		78Rot67
182	渥美	甕	口縁部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	29.5	外:N3/0暗灰 内:N5/0灰		78Rot68
183	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	39.2	外:5Y8/1灰白 内:7.5Y5/1灰		78Rot70
184	渥美	片口鉢	口縁部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	14	10Y6/1灰		78Rot71
185	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	6.8	外:2.5YR6/2灰黄 内:7.5YR4/1褐灰		78Rot77
186	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	31.5	外:7.5Y7/3浅黄 内:7.5Y7/1灰白		78Rot73
187	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	29.7	外:5YR4/2灰褐 内:7.5YR5/3にぶい褐		78Rot74
188	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	31.3	外:2.5YR3/2暗赤褐 内:10YR5/3にぶい黄褐		78Rot75
189	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	289.9	外:2.5Y5/2暗灰黄 内:2.5Y7/1灰白		78Rot78
						T2	2~4層相当				78Rot69
							表土				78Rot143
											78Rot10
190	常滑	甕	頸部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	86.8	外:5Y5/3灰オリープ 内:10YR4/2灰黄褐		78Rot79
191	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	14.1	外:5YR4/6赤褐 内:7.5YR5/4にぶい褐		78Rot81
192	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	18.2	外:5Y5/4オリープ 内:2.5Y3/2黒褐		78Rot82
193	渥美	甕	体部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	40.7	外:5Y5/4オリープ 内:5Y7/1灰白		78Rot83
194	須恵器	甕	体部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	25.8	7.5Y5/1灰		78Rot85
195	常滑	甕	体部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	46	10Y5/1灰		78Rot87
196	渥美	片口鉢	底部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	59.7	外:2.5Y8/1灰白 内:N7/0灰白		78Rot86
197	須恵器	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	21.3	外:N4/0灰 内:N5/0灰		78Rot89
198	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	30.8	外:5YR5/2灰褐 内:10YR6/1褐灰		78Rot91
199	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	32.2	外:7.5Y8/1灰白 内:10YR5/1褐灰		78Rot92
200	須恵器	壺	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	18.1	7.5Y6/1灰		78Rot93
											78Rot96
201	須恵器	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	24.1	7.5Y5/1灰		78Rot94
202	須恵器	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	16.1	外:7.5Y4/1灰 内:N7/0灰白		78Rot95
203	須恵器系	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	10.1	N5/0灰		78Rot97
204	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	50	外:7.5Y6/2灰オリープ 内:N8/0灰白		78Rot98
205	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	40	N5/0灰		78Rot99
206	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	81.8	7.5YR7/1灰白		78Rot101
207	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	9.5	外:10YR7/2にぶい黄橙 内:10YR6/2灰黄褐		78Rot102
208	渥美	山茶碗	口縁部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	8.3	2.5Y7/1灰白		78Rot103
209	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	75.5	外:5YR6/1褐灰 内:5YR5/1褐灰		78Rot104
				77-101							78Rot119
				76-100							78Rot169
210	渥美	片口鉢	口縁部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	30.3	7.5YR5/2灰褐		78Rot105
211	渥美	片口鉢	底部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	40.5	5Y7/1灰白		78Rot106
212	渥美	山茶碗	口縁部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	3.9	外:10Y7/1灰白 内:10Y6/1灰		78Rot107
213	常滑	山茶碗	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	11.2	2.5Y7/1灰白		78Rot110
214	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	78.2	外:5YR5/1褐灰 内:7.5YR5/2灰褐		78Rot109
215	須恵器	坏	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	1.2	外:5Y6/1灰 内:5Y7/1灰白		78Rot111
216	常滑	片口鉢	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	14.3	5Y7/1灰白		78Rot112
217	須恵器	甕	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	30.5	外:N3/0暗灰 内:10YR5/2灰黄褐		78Rot113
218	常滑	甕	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	21.5	7.5Y6/1灰		78Rot114
											78Rot117
219	常滑	甕	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	10.2	外:10YR4/2灰黄褐 内:10YR5/4にぶい黄橙		78Rot115
220	渥美	壺	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	3.4	外:5YR4/1褐灰 内:N6/0灰		78Rot116
221	渥美	甕	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	27.1	外:5Y5/2灰オリープ 内:5Y6/2灰オリープ		78Rot118
222	渥美	甕	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	16.6	2.5Y7/1灰白		78Rot120
223	渥美	甕	体部	77-101	21SD1	T1	5層以上相当	14	外:5YR4/3にぶい赤褐 内:10YR6/3にぶい黄橙		78Rot121
224	須恵器	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	56.7	外:5Y5/1灰 内:5Y7/1灰白		78Rot122

表13-3 78次遺物観察表(国産陶器)

掲載番号	種別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺構名	層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
225	常滑	片口鉢	口縁部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	160.4	外:2.5Y7/1灰白 内:5Y6/3オリーブ黄		78Rot166
							22~28層相当				78Rot258
226	常滑	甕	体部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	43.3	外:5Y5/3灰オリーブ 内:10YR6/3にぶい黄橙		78Rot168
				76-100			T2				2~4層相当
227	渥美	片口鉢	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	92.4	N7/0灰白		78Rot170
228	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	40.7	外:N4/0灰 内:N5/0灰		78Rot171
229	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	59.3	7.5Y7/1灰白		78Rot174
				76-100			T1				5層下面相当
312	常滑	甕	体部		21SD1	T2	11・12層	76.9	外:10YR3/2黒褐 内:10YR5/4にぶい黄褐		78Rot259
313	須恵器	甕	体部		21SD1	T2	11・12層	14.1	外:N6/0灰 内:N5/0灰		78Rot260
314	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	25.4	10Y5/1灰		78Rot27
315	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	42	外:10Y4/1灰 内:10Y3/2オリーブ黒		78Rot28
316	渥美	甕	口縁部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	137.7	外:N5/0灰 内:7.5Y6/2灰オリーブ		78Rot29
317	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	17.9	外:7.5Y5/3灰オリーブ 内:7.5Y7/2灰白		78Rot30
318	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	16.7	外:10Y4/1灰 内:7.5Y6/1灰		78Rot31
319	常滑	片口鉢	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	120	10Y7/1灰白		78Rot32
320	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	48.3	外:7.5Y3/2オリーブ黒 内:10Y6/1灰		78Rot33
321	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	10.3	外:2.5Y3/1黒褐 内:2.5Y3/3暗オリーブ褐		78Rot37
322	須恵器	坏	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	5.6	外:7.5Y5/1灰 内:7.5Y7/1灰白		78Rot38
323	須恵器	甕	頸部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	36.2	10Y6/1灰		78Rot39
324	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	97.1	外:N7/0灰白 内:10YR5/2灰黄褐		78Rot40
						T1	5層以上相当				78Rot72
						T2	2~4層相当				78Rot142
											78Rot151
325	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	23	外:2.5Y5/1黄灰 内:10YR3/1黒褐		78Rot41
326	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	7.5	外:5Y5/3灰オリーブ 内:2.5Y5/4黄褐		78Rot123
327	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	33.7	外:5YR5/2灰褐 内:10YR5/2灰黄褐		78Rot124
				76-101			T1				16a層
328	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	37.4	外:N6/0灰 内:7.5YR5/2灰褐		78Rot125
329	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	23.2	外:5Y6/1灰 内:2.5Y7/1灰白		78Rot127
330	須恵器系	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	18.7	外:2.5YR5/1赤灰 内:5YR5/2灰褐		78Rot128
331	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	34.1	外:5Y7/2灰白 内:10YR6/3にぶい黄橙		78Rot129
332	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	18.6	10YR7/3にぶい黄橙		78Rot131
333	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	93.1	外:2.5YR5/6明赤褐 内:7.5YR5/4にぶい褐		78Rot133
334	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	34.3	外:10YR6/3にぶい黄橙 内:10YR5/3にぶい黄褐		78Rot134
335	須恵器	壺	底部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	35.1	N7/0灰白		78Rot136
336	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	87.2	7.5YR4/2灰褐		78Rot137
337	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	109.6	5Y7/1灰白		78Rot138
338	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	42.8	5Y7/1灰白		78Rot139
339	須恵器	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	14.2	外:5G3/1暗緑灰 内:10BG4/1暗青灰		78Rot141
340	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	13.8	5YR4/1褐灰		78Rot144
341	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	28.1	5Y6/1灰		78Rot145
342	渥美	甕	頸部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	47.3	7.5Y7/1灰白		78Rot146
343	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	35	10YR5/3にぶい黄褐		78Rot147
344	渥美	甕	頸部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	45.6	外:7.5Y7/1灰白 内:7.5Y6/1灰		78Rot148
345	常滑	甕	口縁部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	4.7	N6/0灰		78Rot149
346	須恵器	甕	頸部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	4.1	外:N5/0灰 内:7.5Y6/1灰		78Rot150
347	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	32.6	外:N4/0灰 内:10YR7/1灰白		78Rot152
348	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	69.9	外:7.5Y6/3オリーブ黄 内:2.5Y7/3浅黄		78Rot153
349	渥美	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	16.7	7.5Y5/1灰		78Rot154
350	常滑	甕	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	21.2	5GY3/1暗オリーブ灰		78Rot155
				77-100							78Rot156
351	渥美	甕	体部	76-100 77-100	21SD1	T2	2~4層相当	11.9	5Y6/3オリーブ黄		78Rot165
352	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	55.8	外:5Y7/1灰白 内:5Y6/1灰		78Rot158

表13-4 78次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺構名	層位	重量 (g)	色調	備考	登録番号
353	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	59.3	外: 2.5YR5/4にぶい赤褐 内: 10YR5/3にぶい黄褐		78Rot159
				75-97	78SD1		埋土				78Rot218
354	常滑	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	11.3	外: 2.5Y6/1黄灰 内: 2.5Y4/2暗灰黄		78Rot160
355	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	55.3	5Y5/1灰		78Rot161
356	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	5.1	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 10YR6/1褐灰		78Rot162
357	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	50.7	外: N4/0灰 内: 10YR5/2灰黄褐		78Rot163
358	常滑	片口鉢	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	49.4	外: N6/0灰 内: 2.5GY7/1明オリープ灰		78Rot164
372	須恵器	甕	体部		21SD1	T3	一括	28.8	外: N4/0灰 内: N5/0灰		78Rot261
373	須恵器	甕	体部		21SD1	T3	一括	19.5	外: N7/0灰 内: N6/0灰		78Rot262
374	渥美	甕	体部		21SD1	T3	一括	55.3	5YR5/4にぶい赤褐		78Rot263
375	須恵器	甕	体部		21SD1	T3	一括	27.1	外: N4/0灰 内: 5GY6/1オリープ灰		78Rot264
384	須恵器	甕	体部		21SD1		検出面	14.4	7.5Y5/1灰		78Rot17
385	渥美	甕	体部		21SD1		検出面	35.6	外: 5YR4/6赤褐 内: 2.5Y7/2灰黄		78Rot19
				77-100	21SD1	T1	5層以上相当				78Rot167
386	渥美	甕	体部	77-101	21SD1		検出面	104.8	外: 2.5Y5/4黄褐 内: 2.5Y6/3にぶい黄		78Rot20
				77-100			T1				5層以上相当
387	常滑	甕	体部	76-100	21SD1		検出面	4.9	5Y7/1灰白		78Rot21
388	須恵器	甕	底部	76-100	21SD1		検出面	35.2	外: 5Y6/1灰 内: 10Y5/1灰		78Rot22
389	須恵器	壺	頸部	76-100	21SD1		検出面	3.1	外: 10Y3/1オリープ黒 内: 7.5Y7/1灰白		78Rot23
390	常滑	甕	体部	76-101	21SD1		検出面	29.1	外: 2.5Y4/6オリープ褐 内: 7.5YR4/3褐		78Rot24
402					78SD1		埋土	1.7	5Y8/1灰白		78Rot209
403	常滑	甕	体部		78SD1		埋土	46.9	外: 10YR5/1褐灰 内: 10YR4/ 褐灰		78Rot210
404	渥美	甕	体部		78SD1		埋土	43.7	外: 5Y6/1灰 内: 5Y6/3オリープ黄		78Rot211
405	須恵器系	甕	体部		78SD1		埋土	52.5	外: 7.5Y7/1灰白 内: 2.5Y6/1黄灰		78Rot212
406	渥美	甕	体部		78SD1		埋土	35.2	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 5Y5/3灰オリープ		78Rot214
407	常滑	片口鉢	底部		78SD1		埋土	143.8	5Y7/1灰白		78Rot215
408	常滑	甕	体部		78SD1		埋土	39.8	外: 2.5YR4/4にぶい赤褐 内: 10YR5/2灰黄褐		78Rot216
409	渥美	山茶碗	底部		78SD1		埋土	54.2	10YR7/2にぶい黄橙		78Rot217
410	渥美	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	52	外: 5Y5/3灰オリープ 内: 10YR6/2灰黄褐		78Rot219
411	渥美	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	25.2	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 10YR6/3にぶい黄橙		78Rot220
412	須恵器	壺	体部	75-97	78SD1		埋土	7.5	7.5YR5/1褐灰		78Rot221
413	渥美	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	49.5	外: 7.5YR7/2明褐灰 内: 10YR6/2灰黄褐		78Rot222
414	須恵器	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	13.3	外: 7.5Y3/1オリープ黒 内: 7.5Y5/1灰		78Rot223
415	渥美	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	84.3	2.5Y6/1黄灰		78Rot224
416	渥美	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	27.9	外: 2.5Y3/1黒褐 内: 2.5Y5/1黄灰		78Rot225
417	渥美	甕	口縁部	76-98	78SD1		埋土	10.1	7.5YR4/1褐灰		78Rot226
418	常滑	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	12	外: 2.5YR4/3にぶい赤褐 内: 10YR5/4にぶい黄褐		78Rot227
419	常滑	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	110.2	外: 10Y5/1灰 内: 10Y4/1灰		78Rot229
420	渥美	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	2.7	外: 2.5YR5/2灰赤 内: 5YR5/3にぶい赤褐		78Rot228
423	渥美	甕	体部				表土	10.5	7.5YR6/4にぶい橙		78Rot2
424	渥美	壺	頸部				表土	20	2.5YR3/3暗赤褐		78Rot7
425	常滑	甕	体部				表土	20.9	外: 2.5Y5/1黄灰 内: 2.5Y6/1黄灰		78Rot3
426	渥美	甕	体部				表土	25.3	外: 5YR4/2灰褐 内: 7.5YR5/4にぶい褐		78Rot8
427	常滑	甕	体部				表土	155.2	外: 2.5Y7/2灰黄 内: 2.5Y3/1黒褐		78Rot4
428	常滑	甕	体部				表土	79.2	5GY3/1暗オリープ灰		78Rot5
429	渥美	山茶碗	口縁部				表土	11.7	2.5Y6/1黄灰		78Rot9
430	常滑	甕	体部				表土	9.1	外: N4/1灰 内: 2.5GY7/1明オリープ灰		78Rot11
431	常滑	山茶碗	体部				表土	7.3	10YR6/1褐灰		78Rot12
432	渥美	甕	体部				表土	14.4	5Y6/1灰		78Rot13
433	渥美	壺	頸部				表土	6.1	外: 10Y4/1灰 内: 7.5Y7/1灰白		78Rot14
434	須恵器	甕	体部				表土	18.1	2.5GY4/1暗オリープ灰		78Rot15
435	須恵器	甕	頸部				検出面	8.3	N4/0灰		78Rot184

表13-5 78次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺構名	層位	重量 (g)	色調	備考	登録番号
436	渥美	甕	体部				検出面	26	10Y7/1灰白		78Rot185
437	常滑	甕	体部	77-99			検出面	8	外：10YR8/2灰白 内：10YR6/1褐灰		78Rot186
438	常滑	甕	体部				表土	50.8	7.5Y4/1灰		78Rot6
439	渥美	甕	体部	74-103			検出面	128	5Y6/2灰オリーブ		78Rot18
440	渥美	甕	体部	77-99			検出面	43.8	外：5Y5/3灰オリーブ 内：10YR5/3にぶい黄褐		78Rot187
441	渥美	甕	体部	77-99			検出面	19.7	7.5Y6/1灰		78Rot188
442	渥美	甕	頸部	77-99			検出面	31.9	外：5Y5/3灰オリーブ 内：7.5YR6/4にぶい橙		78Rot189
443	須恵器	甕	体部	74-102			検出面	6.8	7.5Y5/1灰		78Rot190
444	渥美	甕	体部	78-100			検出面	5.5	2.5Y6/1黄灰		78Rot191
445				79-99			検出面	1.2	5Y7/1灰白		78Rot192
446	渥美	甕	体部				検出面	52.8	外：10R4/1暗赤灰 内：2.5Y7/2灰黄		78Rot193
447	渥美	甕	体部				検出面	43	外：7.5YR5/2灰褐 内：7.5YR6/2灰褐		78Rot194
448	渥美	甕	体部				検出面	23.5	外：5Y2/1黒 内：10YR6/2灰黄褐		78Rot195
449	常滑	甕	体部				検出面	21.4	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR6/3にぶい黄褐		78Rot196
450	須恵器	甕	体部				検出面	36.6	外：N5/0灰 内：5Y7/1灰白		78Rot197
451	渥美	甕	体部				検出面	9.7	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR6/2灰黄褐		78Rot198
452	須恵器	壺	体部				検出面	6	7.5Y6/1灰		78Rot199
453	渥美	甕	体部				表土	27.6	7.5Y7/1灰白		78Rot200
454	常滑	甕	体部				表土	40.3	10YR4/1褐灰		78Rot201
455	渥美	甕	体部				表土	111.4	外：10Y6/1灰 内：2.5Y6/1黄灰		78Rot202
456	渥美	甕	口縁部				表土	9.3	外：N4/0灰 内：7.5Y7/1灰白		78Rot203
457	渥美	甕	体部	77-101	21SD1	T1	表土 16a層	38.8	外：5Y3/1オリーブ黒 内：10YR5/2灰黄褐		78Rot204 78Rot135
458	渥美	甕	体部	95-97			表土	11.2	外：10YR4/1褐灰 内：2.5Y7/2灰黄		78Rot205
459	渥美	甕	体部	95-97			表土	70.3	外：7.5Y6/2灰オリーブ 内：2.5Y7/1灰白		78Rot206
460	渥美	甕	口縁部	95-97			表土	24.9	外：2.5YR4/2灰赤 内：5YR5/4にぶい赤褐		78Rot207
461	常滑	甕	体部	95-97			表土	4.8	2.5Y5/1黄灰		78Rot208
462	渥美	甕	体部	76-98			整地層上位 暗褐包含層	19	10YR5/1褐灰		78Rot230
463	渥美	甕	体部	76-98 77-99			整地層上位 暗褐包含層	17.3	外：2.5Y4/1黄灰 内：2.5Y6/2灰黄		78Rot231 78Rot232
464	渥美	甕	体部	77-99			整地層上位 暗褐包含層	45.3	外：10YR3/1黒褐 内：10YR4/1褐灰		78Rot233
465	常滑	甕	体部	77-99			整地層上位 暗褐包含層	12.2	外：10Y6/1褐灰 内：2.5YR5/2暗灰黄		78Rot234
466	渥美	甕	体部	77-99			整地層上位 暗褐包含層	27.9	外：5YR6/6橙 内：10YR5/3にぶい黄褐		78Rot235
467	常滑	甕	体部	76-99 76-100	21SD1	T1	表土 5層以上相当	50.9	10YR7/1灰白		78Rot236 78Rot54
468	須恵器	甕	体部	76-99			表土	35.3	N4/0灰		78Rot237
469	須恵器系	甕	体部	76-98			表土	11.5	5Y6/1灰		78Rot238
470	渥美	甕	体部	77-99			カクラン	33.5	外：2.5Y6/1黄灰 内：2.5Y6/3にぶい黄		78Rot250
471	常滑	甕	体部	77-99			カクラン	18.9	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：7.5YR5/3にぶい褐		78Rot251
472	常滑	甕	体部	76-99	78SD1		カクラン 埋土	105.2	10YR5/4にぶい黄褐		78Rot252 78Rot213
473	渥美	山茶碗	口縁部	76-99			カクラン	10.1	2.5Y7/1灰白		78Rot253
474	渥美	甕	体部					26.8	外：2.5Y7/2灰黄 内：2.5Y7/1灰白		78Rot265
	須恵器	甕	体部	76-101	21SD1	T1	16a層	3.2			78Rot179
	須恵器	壺	頸部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	5.5			78Rot76
	須恵器	坏	底部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	16.9			78Rot80
	渥美	甕	体部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	9.1			78Rot88
	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	1.8			78Rot100
	渥美	甕	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	14	外：7.5YR5/2灰褐 内：7.5YR4/3褐		78Rot108
	須恵器	坏	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	2.8	N7/0灰白		78Rot172
	須恵器	坏					表土	60.9			78Rot1
	須恵器	坏	底部				表土	8.7			78Rot16
	渥美	甕	体部		21SD1	T1	17b層	6.9	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：10YR6/4にぶい黄橙		78Rot257

表14 78次遺物観察表（輸入陶磁器）

掲載番号	種別	器種名	部位	グリッド	出土地点	遺構名	修正層位	重量 (g)	備考	登録番号
230	白磁	壺	体部		21SD1	T1	25層	13.9	Ⅲ類	78Rog22
231	青磁	壺類	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	10	龍泉窯系	78Rog6
232	青磁	碗	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	2.1	龍泉窯系	78Rog7
233	中国陶器	壺類	体部	77-101	21SD1	T1	16a層	2.6		78Rog10
234	白磁	-	-	77-100	21SD1	T1	16a層	3.4		78Rog20
235	中国陶器	壺類	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上相当	1.3		78Rog8
236	白磁	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	3.2	Ⅲ類	78Rog9
237	白磁	四耳壺	体部	77-100	21SD1	T1	6~15層相当	7.3	Ⅲ類	78Rog4
359	青磁	碗	口縁部		21SD1	T2	7層	6.4	龍泉窯系	78Rog21 78Rog23
360	白磁	壺	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	2.2		78Rog12
361	白磁	壺	体部	77-100	21SD1	T2	2~4層相当	20	Ⅲ類	78Rog13
362	白磁	壺	体部	76-100	21SD1	T2	2~4層相当	1.5		78Rog11
376	中国陶器	壺	底部		21SD1	T3	東半部一括	10.5		78Rog25
377	青磁	碗	体部		21SD1	T3	19層下面	6.6	龍泉窯系	78Rog24
391	白磁	水注	頸部	77-99	内堀 内岸	検出面		4.2	Ⅲ類	78Rog18
392	白磁	水注	頸部	77-99	内堀 内岸付近	暗褐色層		10.1	Ⅲ類	78Rog19
421	白磁	碗	口縁部		78SD1	埋土		2.8		78Rog14
422	白磁	壺	体部		78SD1	(75-97)埋土		1.9	Ⅱ類	78Rog16
475	白磁	壺類	体部			表土検出時		3.9	Ⅱ類	78Rog1
476	青白磁	碗類	体部	74-103		カクラン層~検出面		1.7		78Rog3
477	白磁	壺	体部	77-99		カクラン一括		2.4	Ⅱ類	78Rog27
	白磁	壺類	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	0.6		78Rog5
	白磁	碗	体部		21SD1	T1	6~15層相当	2.4		78Rog17
	青白磁	碗	口縁部		T5(外堀)	埋土一括		0.2		78Rog26
	白磁	碗	体部		78SD1	埋土		1		78Rog15
	青磁	碗類	体部			表土検出時		0.5	龍泉窯系	78Rog2

表15 78次遺物観察表（瓦）

登録番号	種別	グリッド	出土地点	遺構名	修正層位	備考	重量 (g)
Rt45	軒平瓦	76-100	21SD1				207.5
Rt5	瓦片	76-99	21SD1	T1	5層以上相当		8
Rt6	平瓦	76-99	21SD1	T1	5層以上相当		14
Rt7	平瓦	76-99	21SD1	T1	5層以上相当		74.1
Rt8	軒平瓦	76-99	21SD1	T1	5層以上相当		24.8
Rt9	平瓦	76-100	21SD1	T1	5層以上相当		15.3
Rt10	瓦片	76-100	21SD1	T1	5層以上相当		44.6
Rt11	丸瓦	76-100	21SD1	T1	5層以上相当		60.8
Rt12	丸瓦	76-100	21SD1	T1	5層以上相当		59.8
Rt13	瓦片	77-99	21SD1	T1	5層以上相当		27
Rt14	平瓦	77-99	21SD1	T1	5層以上相当		24.3
Rt16	平瓦	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		5.2
Rt17	平瓦	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		75.9
Rt18	瓦片	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		3.4
Rt19	瓦片	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		3.7
Rt20	平瓦	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		1.4
Rt21	平瓦	77-100	21SD1	T1	5層以上相当		3.3
Rt22	丸瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		14.8
Rt23	平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		20.2
Rt24	瓦片	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		18.8
Rt25	丸瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		9.4
Rt26	平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		22.1
Rt27	軒平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		13.6
Rt28	平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		92.3
Rt29	平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		39.4
Rt30	丸瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		20.2
Rt31	平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		32.5
Rt32	平瓦	76-101	21SD1	T2	2~4層相当		17.5
Rt33	丸瓦	77-100	21SD1	T2	2~4層相当		15.7
Rt34	瓦片	77-100	21SD1	T2	2~4層相当		3.2
Rt35	平瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		129
Rt36	瓦片	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		12.1
Rt37	丸瓦	76-100	21SD1	T2	2~4層相当		25.2
Rt38	平瓦	76-101	21SD1	T1	5層以上相当		5.6
Rt39	平瓦	76-101	21SD1	T1	16a層相当		71.4
Rt40	平瓦	77-100	21SD1	T1	6~15層		44.7
Rt42	平瓦	77-100	21SD1	T1	6~15層		26.3
Rt43	平瓦	77-100	21SD1	T1	6~15層		141.8
Rt44	丸瓦	77-100	21SD1	T1	6~15層		49.6
Rt46	平瓦		78SD1	78SD1			59
Rt47	平瓦		78SD1	78SD1			25.2
Rt48	丸瓦		拡張区一括				19.3
Rt49	丸瓦		21SD1	T3			27.6
Rt51	平瓦		21SD1	T1	17b層		87.2

表16-1 78次遺物観察表（木製品）

掲載番号	器種	遺構名		層位	長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
478	部材	2ISD1	T1	16a層相当	24.2	3.1	0.5		78RW189
479	形代	2ISD1	T1	16a層相当	13.9	2.9	0.2		78RW190
480	形代か	2ISD1	T1	16a層相当	10.6	4.6	0.2		78RW207
481	部材	2ISD1	T1	16a層相当	14.8	3.3	0.4		78RW191
482	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	9.8	2.6	0.25		78RW193
483	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	15.4	1.55	0.5		78RW194
484	部材	2ISD1	T1	16a層相当	14	2.3	0.9	端部焦げ	78RW196
485	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	9.1	1	0.5		78RW195
486	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	7	1.1	4.5		78RW197
487	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	8	3.3	3.5		78RW198
488	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	7.4	1.85	0.5		78RW199
489	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	7.2	1.2		端部焦げ	78RW200
490	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	8.9	0.7	0.5		78RW201
491	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	6.4	1.5	0.3		78RW202
492	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	5.35	0.65	0.5		78RW203
493	部材	2ISD1	T1	16a層相当	7.6	3.25	0.5		78RW206
494	部材	2ISD1	T1	16a層相当	16.6	2	1.4		78RW205
495	部材	2ISD1	T1	16a層相当	10.2	1.2	0.7		78RW208
496	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	10.1	0.7	0.3		78RW209
497	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	8.6	0.6	0.4		78RW210
498	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	10.7	0.6	0.2		78RW212
499	加工材	2ISD1	T1	16a層相当	7	1.95	1		78RW213
500	部材	2ISD1	T1	16a層相当	15.1	2.95	3.5		78RW192
501	漆碗	2ISD1	T2	12層				内面朱漆	78RW214
502	部材	2ISD1	T2	11・12層	4.3	4.6	2.4		78RW179
503	部材	2ISD1	T2	11・12層	4.1	6.9	2		78RW180
504	加工材	2ISD1	T2	11・12層	10.8	2.9	0.3		78RW160
505	部材	2ISD1	T2	11・12層	15.35	2.1	9		78RW164
506	部材	2ISD1	T2	11・12層	2.5	3.5	2.8		78RW162
507	部材	2ISD1	T2	11・12層	5.7	3.4	2.6		78RW163
508	加工材	2ISD1	T2	11・12層	6.35	2.75	0.4		78RW161
509	部材	2ISD1	T2	11・12層	11.9	2.2	0.7		78RW165
510	加工材	2ISD1	T2	11・12層	2.9	3.25	4.5		78RW166
511	加工材	2ISD1	T2	11・12層	5.8	2.25			78RW168
512	部材	2ISD1	T2	11・12層	10.5	2.8	0.7		78RW167
513	加工材	2ISD1	T2	11・12層	9.75	1.35	0.35		78RW169
514	加工材	2ISD1	T2	11・12層	9.1	2.9	0.45		78RW170
515	加工材	2ISD1	T2	11・12層	6.5	1.45	0.3		78RW171
516	加工材	2ISD1	T2	11・12層	5.65	1.6	0.8		78RW172
517	加工材	2ISD1	T2	11・12層	3.9	2.05	0.2		78RW173
518	加工材	2ISD1	T2	11・12層	2.55	1.75	0.15		78RW174
519	加工材	2ISD1	T2	11・12層	5.1	1.75	0.4		78RW175
520	加工材	2ISD1	T2	11・12層	6.1	1.5	0.35		78RW176
521	部材	2ISD1	T2	11・12層	3.4	3.85	2	2片接合する	78RW181
522	部材	2ISD1	T2	11・12層	2.2	2.45	1.4		78RW182
523	部材	2ISD1	T2	11・12層	4.7	2	2.3		78RW183
524	部材	2ISD1	T2	11・12層	10.2	1	0.5		78RW184
525	部材	2ISD1	T2	11・12層	6.35	4.4	0.65		78RW185
526	部材	2ISD1	T2	11・12層	6.9	2.6	0.65		78RW186
527	部材	2ISD1	T2	11・12層	3.2	3.4	0.9		78RW187
528	部材	2ISD1	T2	11・12層	7.9	5.8	3.5		78RW188
529	墨書木片	2ISD1	T2	7層	18.7	2.1	0.35	2片接合する	78RW1
530	折敷片	2ISD1	T2	7層	24.8	2.85	0.55		78RW9
531	部材	2ISD1	T2	7層	21.4	2	0.8		78RW11
532	部材	2ISD1	T2	7層	6	3.3	3.2		78RW12
533	箸か	2ISD1	T2	7層	19.5	0.55	0.5		78RW13
534	箸か	2ISD1	T2	7層	17.3	0.95	0.45	端部炭化	78RW14
535	加工木材	2ISD1	T2	7層	19	8.5	0.6	刻みあり	78RW15
536	加工木	2ISD1	T2	7層	11	1	1		78RW17
537	部材	2ISD1	T2	7層	12.3	3.7	1.3		78RW18

表16-2 78次遺物観察表(木製品)

掲載番号	器種	遺構名		層位	長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
538	部材	2ISD1	T2	7層	12.5	1	0.3		78RW19
539	鋤か	2ISD1	T2	7層	9	3.7	0.8		78RW21
540	部材	2ISD1	T2	7層	7.7	1.15	0.3		78RW22
541	折敷片	2ISD1	T2	7層	16.7	2.3	0.3		78RW24
542	部材	2ISD1	T2	7層	8.7	1.2	1.3	穿孔あり	78RW26
543	部材	2ISD1	T2	7層	32	1	1		78RW53
544	部材	2ISD1	T2	7層	28.3	4.1	0.6		78RW56
545	部材	2ISD1	T2	7層	33.8	5.9	1.1	端部炭化	78RW54
546	折敷	2ISD1	T2	7層	8.7	8.8	0.3		78RW57
547	部材	2ISD1	T2	7層	18.2	1.75	0.1	穿孔あり	78RW58
548	部材	2ISD1	T2	7層	9.9	8.5	1.2		78RW52
549	部材	2ISD1	T2	7層	10.2	13.4	0.8	端部炭化	78RW55
550	箸	2ISD1	T2	7層	12.3	0.6	0.3		78RW61
551	箸	2ISD1	T2	7層	9.9	0.5	0.5		78RW62
552	部材	2ISD1	T2	7層	15	0.75	0.5		78RW64
553	部材	2ISD1	T2	7層	24.7	0.8	0.7		78RW63
554	部材	2ISD1	T2	7層	6	9.2	3.8		78RW67
555	加工材	2ISD1	T2	7層	11.1	1.1	0.4	墨書か	78RW68
556	部材	2ISD1	T2	7層	5.6	3.1	1.4		78RW71
557	杭	2ISD1	T2	7層	5.2	2.2	1.7		78RW86
558	墨書木片か	2ISD1	T2	7層	4.8	1.4	0.5		78RW90
559	墨書木片か	2ISD1	T2	7層	5.5	1.1	0.3		78RW91
560	将棋駒	2ISD1	T2	7層	3	2	0.5		78RW119
561	部材	2ISD1	T2	7層	19.4	1.4	0.7		78RW74
562	箸	2ISD1	T2	7層	14.75	0.6	0.4		78RW76
563	箸	2ISD1	T2	7層	6.5	0.5	0.4		78RW77
564	呪付か	2ISD1	T2	7層	7.4	1.45	0.2		78RW120
565	碗	2ISD1	T2	7層	10	1.5			78RW131
566	加工材	2ISD1	T2	7層	10	2.6	0.35		78RW121
567	箸か	2ISD1	T2	7層	10.8	0.6	0.55		78RW133
568	加工材	2ISD1	T2	7層	31.3	0.9	1.2		78RW130
569	部材	2ISD1	T2	7層	31.8	1.5	0.4		78RW132
570	箸か	2ISD1	T2	7層	8.3	0.8	0.4		78RW134
571	部材	2ISD1	T2	7層	10.1	1.1	0.35		78RW27
572	部材	2ISD1	T2	7層	10.7	1	0.4	端部炭化	78RW28
573	部材	2ISD1	T2	7層	9.5	5.5	0.5		78RW29
574	部材	2ISD1	T2	7層	13.2	1	0.4		78RW30
575	部材	2ISD1	T2	7層	10.2	1	0.4		78RW31
576	部材	2ISD1	T2	7層	6.2	1.2	0.5		78RW32
577	部材	2ISD1	T2	7層	6.6	0.7	0.7		78RW33
578	部材	2ISD1	T2	7層	9.2	1.4	0.7		78RW34
579	部材	2ISD1	T2	7層	11.1	1	0.7		78RW35
580	部材	2ISD1	T2	7層	10.7	1.5	0.4		78RW37
581	部材	2ISD1	T2	7層	16	1.8	0.6		78RW36
582	部材	2ISD1	T2	7層	18.5	0.8	0.3		78RW73
583	部材	2ISD1	T2	7層	10.8	2.8	0.6		78RW38
584	部材	2ISD1	T2	7層	6.5	2	0.45		78RW39
585	部材	2ISD1	T2	7層	8.3	2.3	0.5		78RW69
586	部材	2ISD1	T2	7層	7.6	2.9	0.5		78RW72
587	部材	2ISD1	T2	7層	7.6	2	0.5		78RW75
588	部材	2ISD1	T2	7層	12.4	1.2	0.4	端部焦げ	78RW80
589	部材	2ISD1	T2	7層	12	2.3	1.5		78RW81
590	部材	2ISD1	T2	7層	10	2.1	0.5		78RW82
591	部材	2ISD1	T2	7層	10.6	0.6	0.6		78RW83
592	加工材	2ISD1	T2	7層	5	1.5	0.2		78RW87
593	加工材	2ISD1	T2	7層	3.6	3.4	0.4		78RW89
594	加工材	2ISD1	T2	7層	13	1.3	0.3		78RW88
595	加工片	2ISD1	T2	7層	11.6	1.2	0.8		78RW92
596	加工片	2ISD1	T2	7層	7.9	1.2	1	端部焦げ	78RW93
597	加工片	2ISD1	T2	7層	7	0.7	0.6		78RW94

表16-3 78次遺物観察表(木製品)

掲載番号	器種	遺構名		層位	長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
598	加工片	21SD1	T2	7層	6.85	0.8	0.7		78RW96
599	加工片	21SD1	T2	7層	2.35	3.2	0.55		78RW97
600	加工片	21SD1	T2	7層	7.65	1.1	0.35		78RW98
601	加工片	21SD1	T2	7層	8	1.8	0.35		78RW99
602	加工片	21SD1	T2	7層	8.6	0.7	0.25		78RW100
603	加工片	21SD1	T2	7層	7.2	0.8	0.3		78RW101
604	加工片	21SD1	T2	7層	6.4	0.65	0.4		78RW102
605	加工片	21SD1	T2	7層	8.8	1.15	0.35		78RW103
606	加工片	21SD1	T2	7層	7.35	0.5	0.4		78RW104
607	加工片	21SD1	T2	7層	4.1	1.7	0.4	炭化	78RW105
608	加工片	21SD1	T2	7層	7.7	1.2	3.5		78RW106
609	加工片	21SD1	T2	7層	8.4	1.25	0.4		78RW107
610	加工片	21SD1	T2	7層	7	0.9	0.5		78RW108
611	加工片	21SD1	T2	7層	8.5	1.35	1		78RW109
612	加工片	21SD1	T2	7層	7.2	0.6	0.45		78RW110
613	加工片	21SD1	T2	7層	4.6	1.75	0.15		78RW112
614	加工片	21SD1	T2	7層	7.3	1.5	0.5		78RW113
615	加工片	21SD1	T2	7層	8.8	3.7	0.3		78RW114
616	加工片	21SD1	T2	7層	5.45	1.6	0.9		78RW115
617	碗	21SD1	T2	7層	1.2	3.4	0.2		78RW116
618	加工片	21SD1	T2	7層	3.4	3.2	0.2		78RW117
619	加工片	21SD1	T2	7層	3.7	1.3			78RW118
620	加工材	21SD1	T2	7層	8.6	1.6	0.25		78RW122
621	加工材	21SD1	T2	7層	7.15	2	0.2		78RW123
622	加工材	21SD1	T2	7層	6.1	2.25	0.3		78RW124
623	加工材	21SD1	T2	7層	12.6	1.75	0.35		78RW125
624	加工片	21SD1	T2	7層	7.4	6.5	0.15		78RW127
625	加工片	21SD1	T2	7層	6.2	0.9	0.35		78RW128
626	加工片	21SD1	T2	7層	4.3	0.9	0.4		78RW129
627	部材	21SD1	T2	7層	9.2	1.1	4		78RW135
628	部材	21SD1	T2	7層	8.1	2.9	0.5		78RW136
629	部材	21SD1	T2	7層	12.9	2.35	0.25		78RW137
630	部材	21SD1	T2	7層	8.6	1.8	0.75		78RW138
631	部材	21SD1	T2	7層	6.2	2.6	0.25		78RW139
632	部材	21SD1	T2	7層	4.7	2.1	0.4	端部焦げ	78RW140
633	部材	21SD1	T2	7層	10.9	1.8	1.25		78RW141
634	部材	21SD1	T2	7層	17.25	1.9	0.45		78RW142
635	部材	21SD1	T2	7層	11.7	1.2	0.2		78RW143
636	加工材	21SD1	T2	7層	8.1	1.3	0.2		78RW145
637	加工材	21SD1	T2	7層	11.4	0.6	0.45		78RW146
638	加工材	21SD1	T2	7層	6.35	1.55	0.2		78RW147
639	加工材	21SD1	T2	7層	10.9	3.1	0.2		78RW148
640	加工材	21SD1	T2	7層	15.4	1.1	0.8		78RW149
641	加工材	21SD1	T2	7層	15.1	2.2	0.2		78RW150
642	加工材	21SD1	T2	7層	12.1	1.45	0.4		78RW151
643	加工材	21SD1	T2	7層	7	1.9	0.4		78RW152
644	加工材	21SD1	T2	7層	5.5	2.4	0.2		78RW153
645	加工材	21SD1	T2	7層	8.1	1.05	0.2		78RW154
646	加工材	21SD1	T2	7層	11.1	0.7	0.6	端部焦げ	78RW155
647	加工材	21SD1	T2	7層	4.7	1.4	0.4		78RW156
648	加工材	21SD1	T2	7層	7.9	1.4	0.35		78RW157
649	加工材	21SD1	T2	7層	7.4	1.5	0.2		78RW158
650	箸	21SD1	T2	7層	7.8	5	6		78RW60
651	箸か	21SD1	T2	7層	12.4	0.6	0.6	端部焦げ	78RW126
652	箸か	21SD1	T2	7層	8.2	0.5	0.3		78RW144
653	加工片	21SD1	T2	7層	5.9	0.85	0.85		78RW95
654	部材	21SD1	T2	7層	19.8	1.3	0.15		78RW70
655	加工片	21SD1	T2	7層	9.35	0.85	0.15		78RW111
	漆碗	21SD1	T1	16a層相当					78RW204
	漆塗膜片	21SD1	T1	16a層相当					78RW215

表17-1 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別 (産地)	器種名	部位	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	色調	登録番号	接合関係
657	渥美	甕	体部		表土	19.1	外:7.5Y6/2灰オリーブ 内:2.5Y6/1黄灰	79Rot2	
658	渥美	甕	体部		表土	18	外:7.5YR6/1褐灰 内:10YR5/1褐灰	79Rot6	
659	常滑	甕	口縁部		表土	8.1	外:5YR4/4にぶい赤褐 内:5Y4/3暗オリーブ	79Rot10	
660	常滑	甕	頸部		表土	16.1	外:5Y5/3灰オリーブ 内:7.5YR4/1褐灰	79Rot13	
661	須恵器	甕	体部		表土	8.8	外:5B4/1暗青灰 内:5B5/1青灰	79Rot15	
662	常滑	甕	口縁部		表土	29.1	外:N5/0灰 内:N5/0灰	79Rot24	
663	常滑	甕	体部		表土	55	外:5YR4/3にぶい赤褐 内:7.5YR4/4褐	79Rot33	
664	常滑	甕	口縁部		表土	6.2	外:2.5Y6/2灰黄 内:2.5Y6/3にぶい黄	79Rot39	
665	常滑	甕	口縁部		表土	17.3	外:10YR5/1褐灰 内:5Y4/1灰	79Rot45	
666	常滑	甕	体部		表土	31.6	外:N4/0灰 内:10YR5/3にぶい黄褐	79Rot47	
667	常滑	甕	口縁部		表土	65.6	外:5Y6/1灰 内:2.5Y6/1黄灰	79Rot48	
668	渥美	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	65.3	外:5Y8/1灰白 内:5Y6/1灰	79Rot55	
669	渥美	片口鉢	口縁部	72SD2周辺(外堀)	表土	15.8	外:10Y7/1灰白 内:2.5GY7/1明オリーブ灰	79Rot62	
670	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	38.6	外:10YR4/3にぶい黄褐 内:2.5Y6/4にぶい黄	79Rot69	
671	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	14.4	外:7.5Y4/2灰オリーブ 内:N4/0灰	79Rot71	
672	常滑	甕	体部	72SD1 内堀	表土	97	外:7.5Y7/1灰白 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot76	
673	常滑	甕	口縁部	72SD2 外堀	清掃中	197.3	外:5Y7/2灰白 内:5Y6/1灰	79Rot79	
674	常滑	甕	体部	内堀～外堀(低位区)	検出面一括	56.1	外:5Y6/1灰 内:5GY4/1暗オリーブ灰	79Rot83	
675	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	154.3	外:7.5Y3/1オリーブ黒 内:5Y6/1灰	79Rot87	
676	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	116.7	外:5Y5/2灰オリーブ 内:2.5Y6/1黄灰	79Rot90	
677	須恵器系	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	69.8	外:N4/0灰 内:2.5Y7/1灰白	79Rot91	
678	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	68.5	外:5Y3/1オリーブ黒 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot92	
679	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	71.4	外:2.5Y7/1灰白 内:10YR6/1褐灰	79Rot93	
680	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	107.9	外:5Y3/1オリーブ黒 内:2.5Y6/1黄灰	79Rot101	
681	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	122.4	外:2.5Y7/1灰白 内:10YR7/1灰白	79Rot102	
682	渥美	甕	口縁部	高位区	トレンチ カクラン層	66.8	外:5Y7/1灰白 内:7.5Y8/1灰白	79Rot103	
683	渥美	壺類	底部	高位区	トレンチ カクラン層	67.9	外:10YR3/1黒褐 内:10Y5/2オリーブ灰	79Rot104	
684	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	124.9	外:10YR5/2灰黄褐 内:10YR7/1灰白	79Rot105	79Rot109.121と接合
685	常滑	甕	頸部	高位区	トレンチ カクラン層	64.2	外:2.5Y7/2灰黄 内:10YR6/4にぶい黄橙	79Rot107	
686	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	89.6	外:10GY2/1緑黒 内:5P4/1暗紫灰	79Rot111	
687	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	24.6	外:5Y2/1黒 内:2.5Y5/2暗灰黄	79Rot112	
688	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	34.3	外:N5/0灰 内:5P6/1紫灰	79Rot115	
689	常滑	甕	口縁部	高位区	トレンチ カクラン層	18.9	外:5Y7/1灰白 内:7.5Y8/1灰白	79Rot116	
690	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	36	外:10Y7/1灰白 内:10YR6/1褐灰	79Rot117	
691	渥美	甕	口縁部	高位区	トレンチ カクラン層	51.5	外:2.5Y6/2灰黄 内:2.5Y6/2灰黄	79Rot120	
692	常滑	甕	口縁部	高位区	トレンチ カクラン層	19.5	外:5YR4/4にぶい赤褐 内:5Y5/4オリーブ	79Rot123	
693	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	南トレンチ 表土	21	外:5YR5/2灰褐 内:7.5YR6/1褐灰	79Rot128	
694	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	96	外:5Y6/3オリーブ黄 内:10YR6/1褐灰	79Rot129	
695	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	48.9	外:7.5YR4/4褐 内:10YR6/3にぶい黄橙	79Rot130	
696	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	63.7	外:10YR5/1褐灰 内:10YR6/1褐灰	79Rot131	
697	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	74.5	外:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y7/1灰白	79Rot135	

表17-2 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別 (産地)	器種名	部位	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	色調	登録番号	接合関係
698	渥美	甕	底部	72SD1	検出面 一括	37.7	外:10Y8/1灰白 内:5Y8/1灰白	79Rot150	
	須恵器	甕	体部		表土	62.7	外:7.5Y2/1黒 内:N5/0灰	79Rot1	
	常滑	甕	体部		表土	62.5	外:10Y6/2オリーブ灰 内:N8/0灰白	79Rot3	
	常滑	甕	体部		表土	49.8	外:N5/0灰 内:N6/1灰	79Rot4	
	常滑	甕	体部		表土	24.2	外:5PB7/1明青灰 内:N7/0灰白	79Rot5	
	渥美	甕	体部		表土	21.2	外:2.5Y7/1灰白 内:5P7/1明紫灰	79Rot7	
	常滑	甕	体部		表土	23.5	外:5Y6/3オリーブ黄 内:10YR 6/4にぶい黄橙	79Rot8	
	常滑	甕	体部		表土	6.9	外:N4/0灰 内:N6/1灰	79Rot9	
	渥美	甕	体部		表土	23.7	外:2.5Y7/1灰白 内:N6/1灰	79Rot11	
	渥美	甕	頸部		表土	9.8	外:2.5Y4/3オリーブ褐 内:2.5Y5/2暗灰黄	79Rot12	
	渥美	甕	体部		表土	11.2	外:5Y5/1灰 内:N6/1灰	79Rot14	
	常滑	甕	体部		表土	13.3	外:N6/1灰 内:10YR7/1灰白	79Rot16	
	須恵器	甕	体部		表土	13.9	外:N6/1灰 内:5G6/1緑灰	79Rot17	
	渥美	甕	体部		表土	10.8	外:5Y7/1灰白 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot18	
	渥美	片口鉢	体部		表土	38.4	外:10YR7/1灰白 内:2.5Y 7/1灰白	79Rot19	79Rot34と接合
	渥美	甕	体部		表土	47.9	外:2.5Y5/1黄灰 内:5PB7/2明青灰	79Rot20	
	渥美	甕	体部		表土	78.5	外:7.5Y5/2灰オリーブ 内:N7/0灰白	79Rot21	
	渥美	甕	体部		表土	40.6	外:N5/0灰 内:N6/1灰	79Rot22	
	常滑	甕	体部		表土	15.9	外:7.5Y5/2灰オリーブ 内:10YR5/3にぶい黄褐	79Rot23	
	渥美	甕	体部		表土	26.2	外:10YR4/2灰黄褐 内:10YR7/3にぶい黄橙	79Rot25	
	常滑	甕	体部		表土	51.3	外:5YR5/1褐灰 内:7.5Y5/1灰	79Rot26	
	常滑	甕	体部		表土	46.3	外:7.5Y6/1灰 内:7.5Y7/1灰白	79Rot27	
	渥美	甕	体部		表土	49.9	外:N6/1灰 内:5YR6/3にぶい橙	79Rot28	
	常滑	甕	体部		表土	48.1	外:5Y6/1灰 内:10BG6/1青灰	79Rot29	
	常滑	甕	体部		表土	38.3	外:10BG 5/1青灰 内:5B6/1青灰	79Rot30	
	常滑	甕	体部		表土	14.9	外:5PB3/1暗青灰 内:10YR5/2灰黄褐	79Rot31	
	渥美	甕	体部		表土	51.1	外:2.5Y7/2灰黄 内:2.5Y8/2灰白	79Rot32	
	常滑	甕	体部		表土	23.9	外:2.5Y3/1黒褐 内:7.5YR4/4褐	79Rot35	79Rot144と接合
	常滑	甕	体部		表土	27	外:10YR4/2灰青褐 内:7.5YR5/6明褐	79Rot36	
	渥美	甕	体部		表土	15.5	外:10YR5/3にぶい黄褐 内:10YR6/2灰黄褐	79Rot37	
	常滑	甕	体部		表土	2.6	外:7.5YR5/1褐灰 内:10YR6/1褐灰	79Rot38	
	渥美	甕	体部		表土	36.4	外:N4/0灰 内:N6/1灰	79Rot40	
	常滑	甕	体部		表土	14.3	外:2.5GY7/1明オリーブ灰 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot41	
	渥美	甕	体部		表土	4.4	外:5Y6/1灰 内:2.5Y7/1灰白	79Rot42	
	常滑	甕	体部		表土	14.1	外:2.5GY8/1灰白 内:7.5Y6/1灰	79Rot43	
	渥美	甕	体部		表土	10.5	外:2.5Y6/4にぶい黄 内:2.5Y6/3にぶい黄	79Rot44	
	常滑	甕	体部		表土	12.7	外:10Y6/2オリーブ灰 内:2.5Y7/3浅黄	79Rot46	
	渥美	甕	体部		表土	20.7	外:10YR4/1褐灰 内:10YR7/1灰白	79Rot49	
	渥美	甕	体部	72SD1 内堀	表土	61.6	外:5YR6/2灰褐 内:2.5YR5/2灰赤	79Rot50	
	渥美	甕	体部	72SD1 内堀	表土	37.4	外:N3/0暗灰 内:5Y7/2灰白	79Rot51	
	常滑	片口鉢	体部	72SD1 内堀	表土	14.1	外:2.5Y7/1灰白 内:5Y7/1灰白	79Rot52	

表17-3 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別 (産地)	器種名	部位	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	色調	登録番号	接合関係
	常滑	甕	体部	72SD1 内堀	表土	11.9	外:2.5Y5/1黄灰 内:2.5Y5/2暗灰黄	79Rot53	
	常滑	甕	体部	72SD1 内堀	表土	14.9	外:5Y5/4オリーブ 内:10YR5/1褐灰	79Rot54	
	渥美	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	53.7	外:2.5Y5/1黄灰 内:5Y7/1灰白	79Rot56	
	常滑	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	42.1	外:5Y7/1灰白 内:5Y6/1灰	79Rot57	
	常滑	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	42.6	外:5P7/1明紫灰 内:5PB5/1青灰	79Rot58	
	常滑	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	13.7	外:10Y7/1灰白 内:7.5Y7/1灰白	79Rot59	
	渥美	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	7.5	外:7.5Y5/2灰オリーブ 内:7.5YR5/1褐灰	79Rot60	
	常滑	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	49.8	外:5PB5/1青灰 内:7.5GY5/1青灰と 10Y8/1灰白のまだら	79Rot61	
	渥美	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	19.4	外:7.5Y5/2灰オリーブ 内:10YR17/1黒	79Rot63	79Rot143と接合
	須恵器	甕	体部	72SD2周辺(外堀)	表土	5.9	外:10Y4/1灰 内:5PB5/1青灰	79Rot64	
	常滑	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	31.9	外:5PB6/1青灰 内:5R5/1赤灰	79Rot65	
	常滑	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	32	外:7.5YR4/1褐灰 内:2.5Y6/1黄灰	79Rot66	
	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	2.8	外:10Y3/1オリーブ黒 内:10Y4/1灰	79Rot67	
	常滑	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	23.3	外:7.5Y4/1灰 内:N5/0灰	79Rot68	
	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	検出面	30.4	外:10YR6/2灰黄褐 内:10YR6/2灰黄褐	79Rot70	
	常滑	甕	体部	72SD1 内堀	表土	20.5	外:10Y5/2オリーブ灰 内:5Y7/1灰白	79Rot72	
	渥美	甕	体部	72SD1 内堀	表土	35.2	外:10YR4/1褐灰 内:10YR5/2灰黄褐	79Rot73	
	常滑	甕	体部	72SD1 内堀	表土	36.6	外:10YR4/1褐灰 内:10Y5/2オリーブ灰	79Rot74	
	須恵器	甕	体部	72SD1 内堀	表土	12.8	外:5G5/1緑灰 内:10BG5/1青灰	79Rot75	
	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	清掃中	80.9	外:2.5Y7/1灰白 内:5P7/1明紫灰	79Rot77	
	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	清掃中	113	外:2.5Y5/1黄灰 内:2.5Y7/1灰白	79Rot78	
	渥美	甕	体部	72SD2 外堀	清掃中	61.4	外:7.5Y6/2灰オリーブ 内:N6/1灰	79Rot80	
	常滑	甕	体部	72SD2 外堀	清掃中	15	外:2.5Y6/1灰黄 内:10YR5/1褐灰	79Rot81	
	常滑	甕	体部	72SD2 外堀	清掃中	3.4	外:7.5YR6/1褐灰 内:7.5YR5/1褐灰	79Rot82	
	常滑	山茶碗	体部	内堀～外堀(低位区)	検出面一括	1.7	外:5PB7/1明青灰 内:5PB7/1明青灰	79Rot84	
	渥美	甕	体部	内堀～外堀(低位区)	検出面一括	10.4	外:5RP7/1明紫灰 内:5PB7/1明青灰	79Rot85	
	渥美	甕	体部	内堀～外堀(低位区)	検出面一括	17.8	外:5Y5/3灰オリーブ 内:2.5Y4/1黄灰	79Rot86	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	135.9	外:5Y7/1灰白 内:7.5Y7/1灰白	79Rot88	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	197.2	外:2.5Y6/2灰黄 内:5Y6/1灰	79Rot89	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	57.8	外:7.5Y4/3暗オリーブ 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot94	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	52	外:5YR4/2灰褐 内:7.5YR5/4にぶい褐	79Rot95	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	28.2	外:2.5Y7/2灰黄 内:10YR7/2にぶい黄橙	79Rot96	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	13.6	外:10Y6/1灰 内:2.5Y7/1灰白	79Rot97	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	16.1	外:5Y7/1灰白 内:2.5Y7/2灰黄	79Rot98	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	11.8	外:10YR5/2灰黄褐 内:2.5Y7/2灰黄	79Rot99	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層一括	29.8	外:7.5YR4/3褐 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot100	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	43.5	外:2.5Y5/1黄灰 内:2.5Y6/1黄灰	79Rot106	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	37	外:10YR5/1褐灰 内:2.5Y4/1黄灰	79Rot108	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	57.8	外:5P6/3紫灰 内:N6/1灰	79Rot110	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	107.7	外:10YR2/1黒 内:2.5Y5/1黄灰	79Rot113	
	常滑	甕	底部	高位区	トレンチ カクラン層	63.4	外:5Y7/1灰白 内:10Y8/1灰白	79Rot114	

表17-4 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別 (産地)	器種名	部位	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	色調	登録番号	接合関係
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	80	外：2.5Y7/1灰白 内：5Y6/1灰	79Rot118	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	23.9	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：7.5YR4/6褐	79Rot119	
	渥美	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	30.9	外：2.5Y7/2灰黄 内：2.5Y7/1灰白	79Rot122	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	4.4	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	79Rot124	
	常滑	甕	体部	高位区	トレンチ カクラン層	19.4	外：2.5Y7/1灰白 内：5Y6/1灰	79Rot125	
	常滑	甕	体部	高位区		15.7	外：7.5R3/2暗赤褐 内：5YR4/2灰褐	79Rot126	
	常滑	甕	体部	72SD2 外堀	南トレンチ 表土	21.4	外：5YR5/2灰褐 内：10YR5/1褐灰	79Rot127	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	58.9	外：N6/1灰 内：N6/1灰	79Rot132	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	47	外：10YR6/1褐灰 内：10YR5/1褐灰	79Rot133	
	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	108	外：2.5Y6/2灰黄 内：N5/0灰	79Rot134	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	20	外：2.5Y7/1灰白 内：10YR5/1褐灰	79Rot136	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	14.4	外：10Y6/2オリーブ灰 内：10YR6/3にぶい黄橙	79Rot137	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	18.9	外：10Y6/1褐灰 内：10YR5/1褐灰	79Rot138	
	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	24	外：2.5Y7/1灰白 内：5PB7/1明青灰	79Rot139	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	25.6	外：7.5Y5/3灰オリーブ 内：10YR4/2灰黄褐	79Rot140	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	26	外：5Y4/2灰オリーブ 内：7.5YR4/4褐	79Rot141	
	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	14.7	外：2.5Y6/2灰黄 内：10YR6/1褐灰	79Rot142	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	9.5	外：5YR4/4にぶい赤褐 内：7.5YR5/6明褐	79Rot145	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	11.4	外：7.5YR5/2灰褐 内：10YR6/2灰黄褐	79Rot146	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	13.3	外：10YR6/1褐灰 内：7.5YR5/1褐灰	79Rot147	
	渥美	甕	体部	北拡張	表土 検出面	10.9	外：2.5Y6/2灰黄 内：2.5Y5/2暗灰黄	79Rot148	
	常滑	甕	体部	北拡張	表土 検出面	7.9	外：5Y2/1黒 内：10YR4/1褐灰	79Rot149	
	常滑	甕	体部	内堀	検出面 一括	30.1	外：5P5/1紫灰 内：5RP6/1紫灰	79Rot151	
	常滑	甕	体部	高位調査区	拡張	101.1	外：10Y5/2オリーブ灰 内：2.5Y7/1灰白	79Rot152	
	常滑	甕	体部	高位調査区	拡張	66	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	79Rot153	
	常滑	甕	体部	高位調査区	拡張	57.7	外：7.5YR5/1褐灰 内：5PB6/1青灰	79Rot154	
	渥美	甕	体部	高位調査区	拡張	20	外：N5/0灰 内：2.5Y4/1黄灰	79Rot155	
	常滑	甕	体部		表土	76.5	外：5YR5/1褐灰 内：7.5YR5/1褐灰	79Rot156	
	渥美	甕	体部		表土	15.1	外：5R7/1明赤灰 内：5P7/1明紫灰	79Rot157	

表18 79次遺物観察表 (輸入陶磁器)

掲載番号	種別	器種名	部位	グリッド	出土地点	遺構名	重量 (g)	備考	登録番号
699	白磁	壺	体部		高位区トレンチ	攪乱層一括	13.5	Ⅱ類	79Rog1
700	青磁	碗類	体部		72SD2周辺	表土	15.5	龍泉窯系	79Rog2
701	青磁	碗類	体部			表土	8.5	龍泉窯系	79Rog3
702	白磁	四耳壺	体部			表土	4.9		79Rog4
	白磁	碗類	体部			表土	2.5		79Rog5
	白磁	碗類	口縁部				1.2		79Rog6